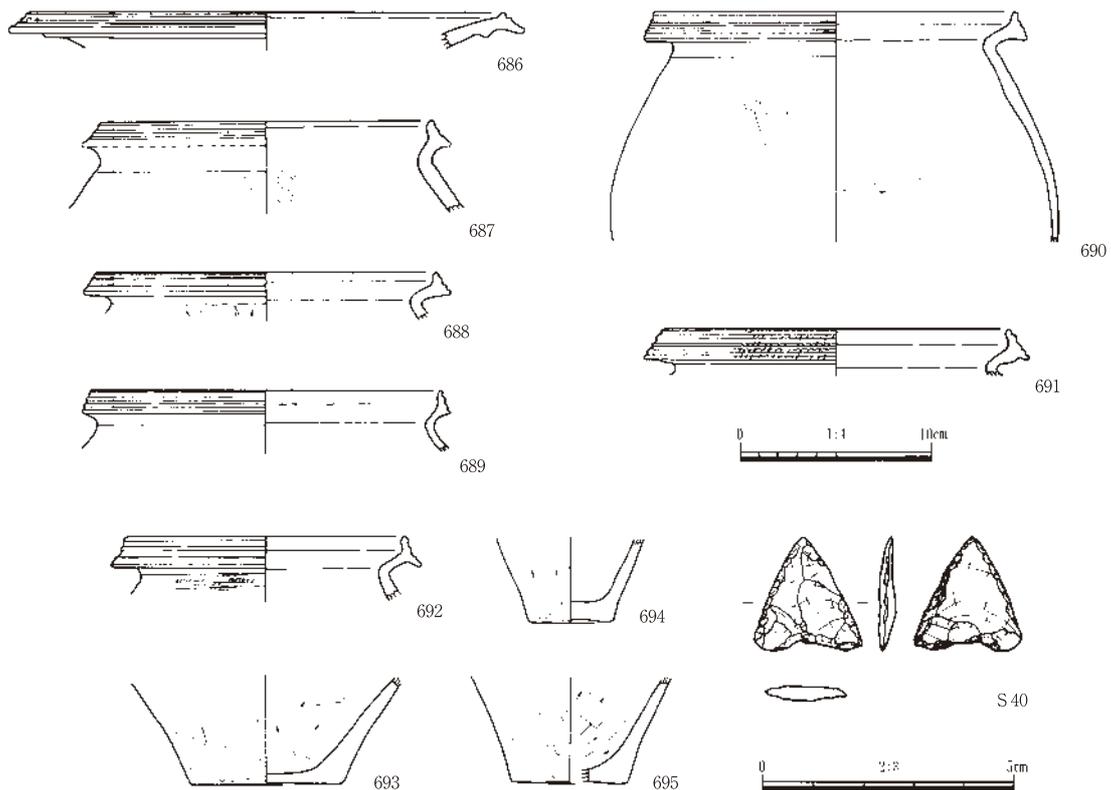


第197図 竪穴住居 2c

幅 33cm、深さ 32cm、断面形が逆台形状を呈する溝が検出された。この溝は竪穴住居 2 に沿うようにしてのびていることから周堤溝の可能性が高い。

竪穴住居 2 a は平面形が円形を呈しており、規模は長さ 620cm、深さ 22cm、推定床面積 28.3m²を測る。床面の周囲には幅 25cm、深さ 7cm、断面形が「U」字状を呈する周壁溝が断片的にめぐる。主柱穴は 2 基検出されており、その配列から 4 本柱と考えられる。残り 2 基のうち 1 基は調査区外にあり、もう 1 基は竪穴住居 2 c - P 2 が重複しているものと推察される。柱穴はそれぞれ周壁溝から約 50cm 離れた位置にあり、柱間距離は推定で東西 320cm、南北 269cm を測り、その主軸はほぼ南北となる。柱穴の掘り方は円形を基本とし、規模は長さ 37 ~ 50cm、深さ 52 ~ 72cm を測る。床面の中央では竪穴住居 2 c の中央ピットに壊され不明瞭ながらも長さ 32 ~ 38cm、深さ 20 ~ 30cm、心身距離 78cm を測る柱穴を 2 基確認した。この他の施設として、竪穴住居外において長さ 141cm、幅 87cm、深さ 36cm、平面形が長方形で、底面の周りに幅 11 ~ 20cm、深さ 8cm、断面形が「U」字状を呈する溝がめぐる土坑を検出した。さらに、中央ピット付近からこの土坑へと接続し、その外側へと続く幅 22cm、深さ 24cm、断面形が「U」字状を呈する溝を確認した。

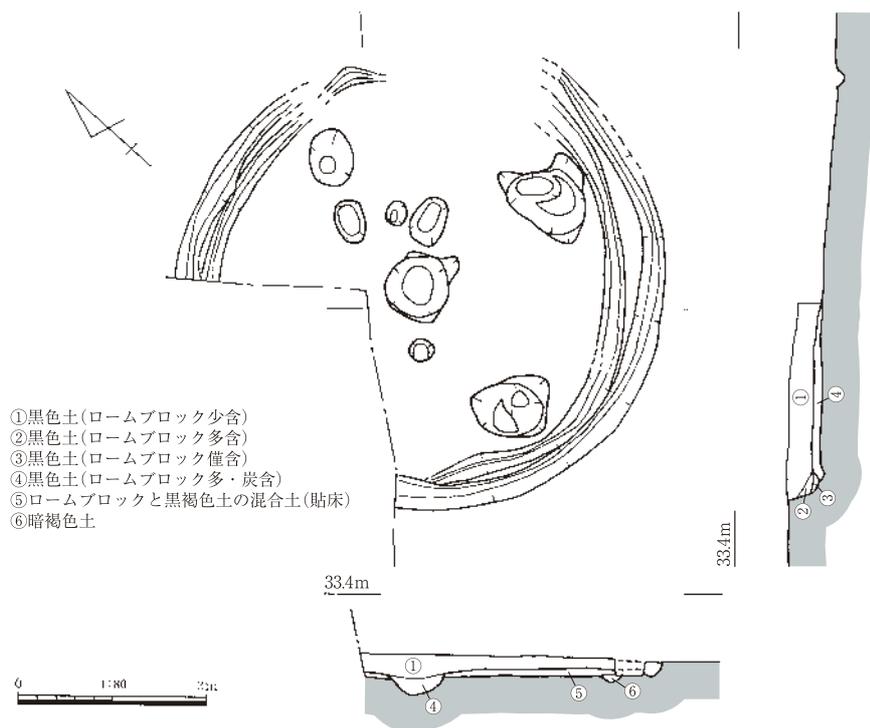


第198図 竪穴住居2 a・b・c出土遺物

竪穴住居2 bは平面形が不定形な円形ないしは多角形を呈し、竪穴住居2 cの内側に築かれている。規模は長さ633cm、推定床面積27.2㎡を測る。竪穴住居2 aの周壁溝に沿うようにして幅10～28cm、深さ6cm、断面形が「U」字状を呈する溝がめぐり、主柱穴は2基検出され、その配列から5本柱の住居と考えられる。残り3基のうち2基は竪穴住居2 c・P2・P5が重複し、残りの1基は調査区外に存在するものと思われる。柱穴は周壁溝から24～71cm離れた位置にあり、柱間距離は推定で254～294cmを測る。掘り方は円形を基本とし、規模は長さ40～58cm、深さ54～73cmを測り、このうちP1では幅22cmの柱痕跡が認められた。床面の中央では竪穴住居2 cの中央ピットを挟むようにして長さ30～38cm、深さ28cm、心身距離171cmを測る柱穴2基を検出した。このうちP3では幅14cmの柱痕跡が確認された。

竪穴住居2 cは竪穴住居2 bの内側に築かれている。床面の周囲には幅22cm、深さ8cm、断面形が「U」字状を呈する周壁溝がめぐり、これらは断片的にしか確認していないため、住居の平面形・規模など全容は不明である。主柱穴は4基検出されており、これらは周壁溝から13～23cmに位置している。主軸はほぼ南北となり、柱間距離は東西266～307cm、南北306～316cmを測る。掘り方は円形ないしは隅丸長方形を呈し、規模は長さ64～82cm、深さ56～80cmを測る。柱穴の全てにおいて幅18～24cmほどの柱痕跡が認められた。床面の中央には長さ72cm、深さ38cmの中央ピットが掘られており、P1からのびる幅22cm、深さ10cmほどの溝が接続する。中央ピットの東西には、長さ54～68cm、深さ52～60cm、心身距離160cmを測る柱穴2基を検出し、柱穴には幅15cmほどの柱痕跡が認められた。この周辺からは21～46cmほどの被熱部分を3箇所確認した。

遺物は埋土中から686～695・S40が出土した。時期は弥生時代中期後葉と考えられる。



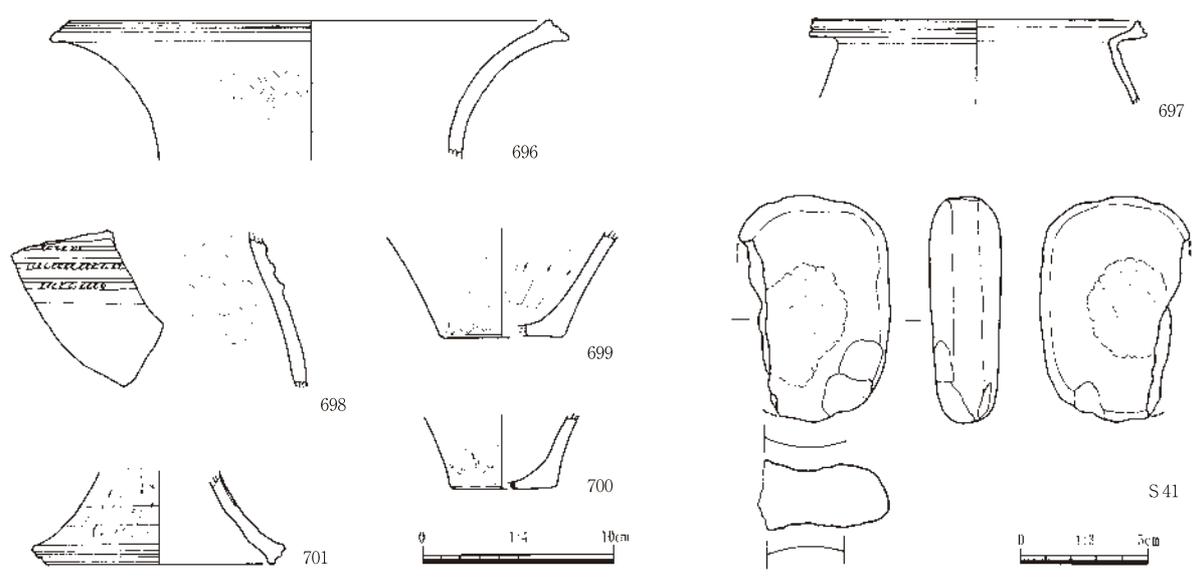
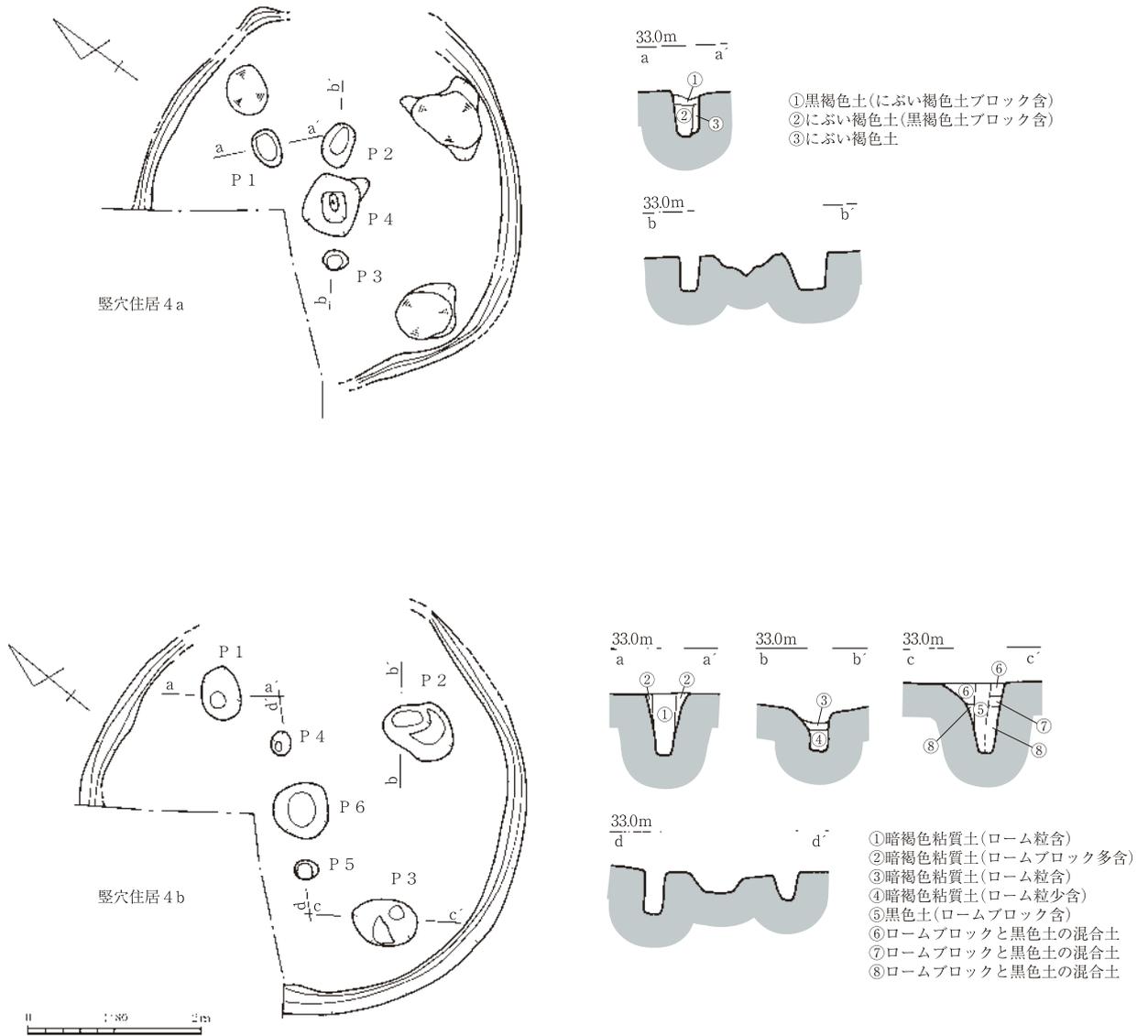
第199図 竪穴住居4 a・b

竪穴住居4 (第199・200図、P L.21)

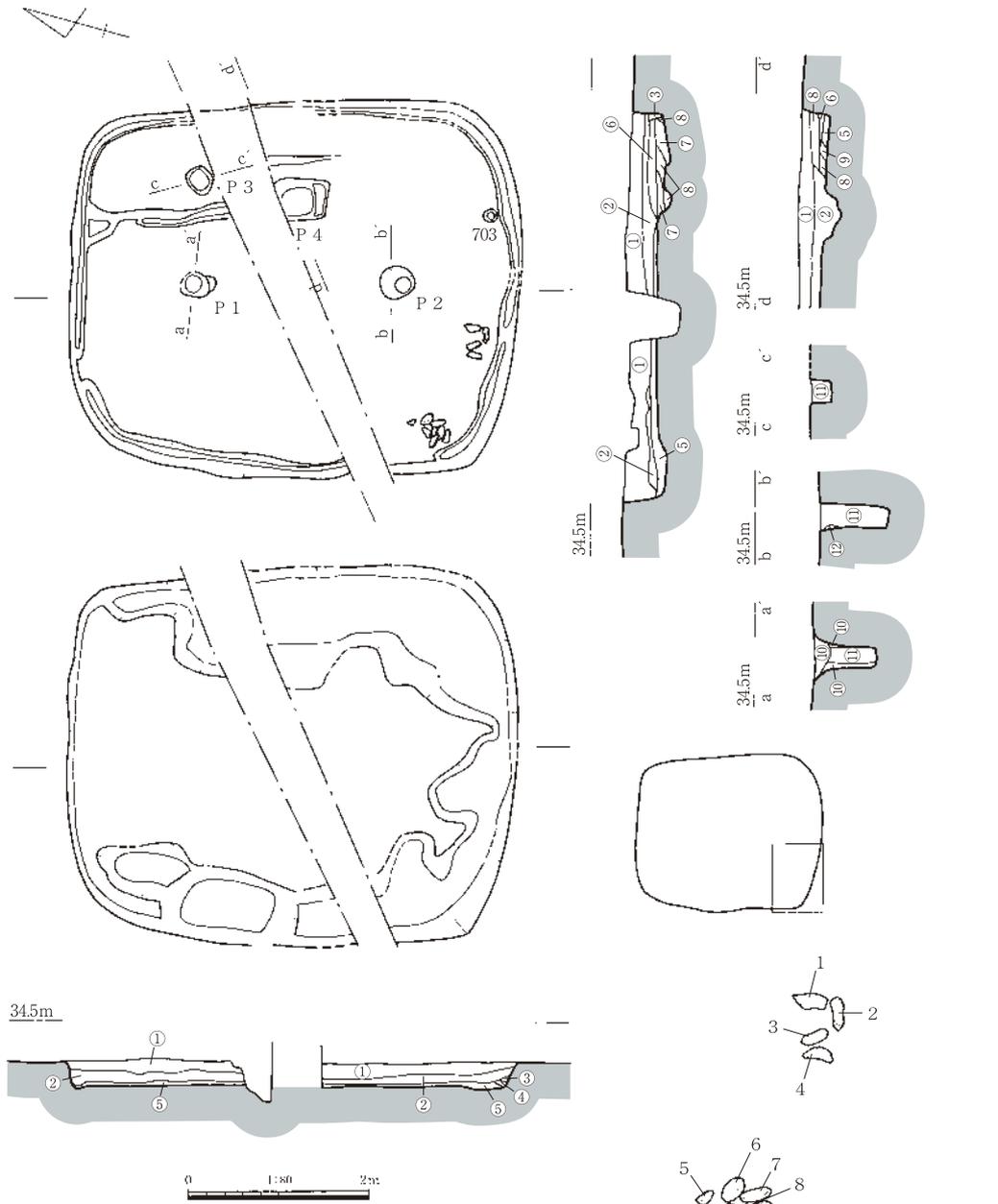
竪穴住居2の東側約14.5mに位置しており、黒褐色土上面で検出した。平成16年度に調査した続きにあたり、前回調査した部分と合わせて全体の3/4を調査した。竪穴住居4は建て替えが行われており、切り合い関係から竪穴住居4 a 4 bの順に築かれたと考えられる。

竪穴住居4 aは平面形が不定形な円形を呈しており、規模は長さ460cm、深さ33cm、推定床面積15.8㎡を測る。床面の周囲には幅14～24cm、深さ6cm、断面形が「U」字形を呈する周壁溝がめぐる。主柱穴は3基検出されており、その配置状況から4本柱の竪穴住居と考えられる。柱穴は周壁溝から12cmほどの距離にあり、全て竪穴住居4 bの主柱穴と重複する。床面の中央には長さ69cm、幅60cm、深さ22cmほどの平面形が隅丸方形を呈する中央ピットが掘られており、これを挟むようにして、長さ26～50cm、深さ22cm、平面形が円形ないしは楕円形を呈する柱穴2基が検出された。この他、北側において長さ46cm、深さ52cm、平面形が楕円形を呈する掘り方をもち、幅18cmの柱痕跡を有する柱穴1基を確認した。

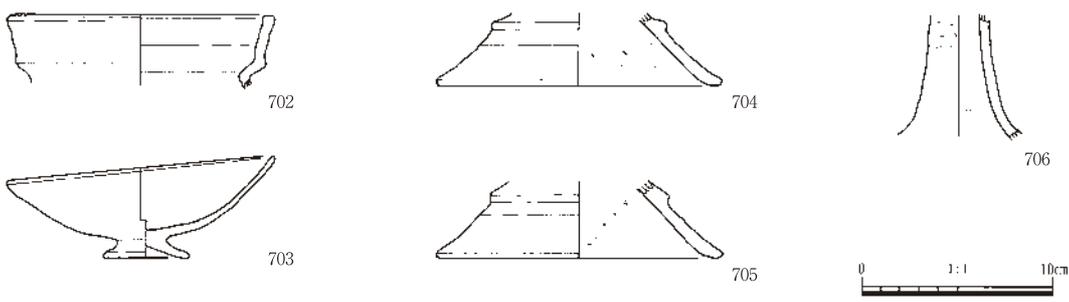
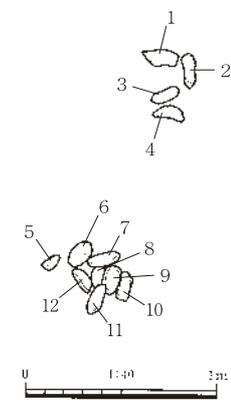
竪穴住居4 bは竪穴住居4 aの外側に築かれている。平面形は円形を呈し、規模は長さ514cm、深さ24cm、推定床面積19.3㎡を測る。床面には貼り床が貼られており、その周囲には幅28cm、深さ8cm、断面形が「U」字形を呈する周壁溝がめぐる。主柱穴は3基検出されており、これらは周壁溝から33～40cmの距離に位置している。軸はほぼ南北となり、柱間距離は東西225cm、南北215cmを測る。掘り方は不定形な円形ないしは楕円形を呈しており、規模は長さ62～84cm、深さ44～82cmを測る。このうちP1・P3では幅18～26cmを測る柱痕跡が認められた。床面の中央には長さ64cm、深さ18cm、平面形が円形を呈する中央ピットが掘られており、これを挟むようにして長さ24cm、深さ32～48cmの柱穴2基が検出された。



第200図 竪穴住居4 a・b・出土遺物



- ①暗褐色土(ロームブロック含)
- ②暗褐色土(ロームブロック多・焼土・炭化物含)
- ③暗褐色土(ローム粒含)
- ④暗褐色土
- ⑤ロームブロックと暗褐色土の混合土
(貼床・ベッド状遺構)
- ⑥ロームブロック(暗褐色土含、ベッド状遺構)
- ⑦ロームブロック
(暗褐色土少含、ベッド状遺構)
- ⑧ロームブロック(ベッド状遺構)
- ⑨ロームブロックと黒色土の混合土
- ⑩暗褐色土(ロームブロック多含)
- ⑪暗褐色土(ローム粒含)
- ⑫ロームブロック



第201図 竪穴住居9・出土遺物

遺物は埋土中より 696 ~ 701・S 41 が出土した。時期は弥生時代中期後葉と考えられる。

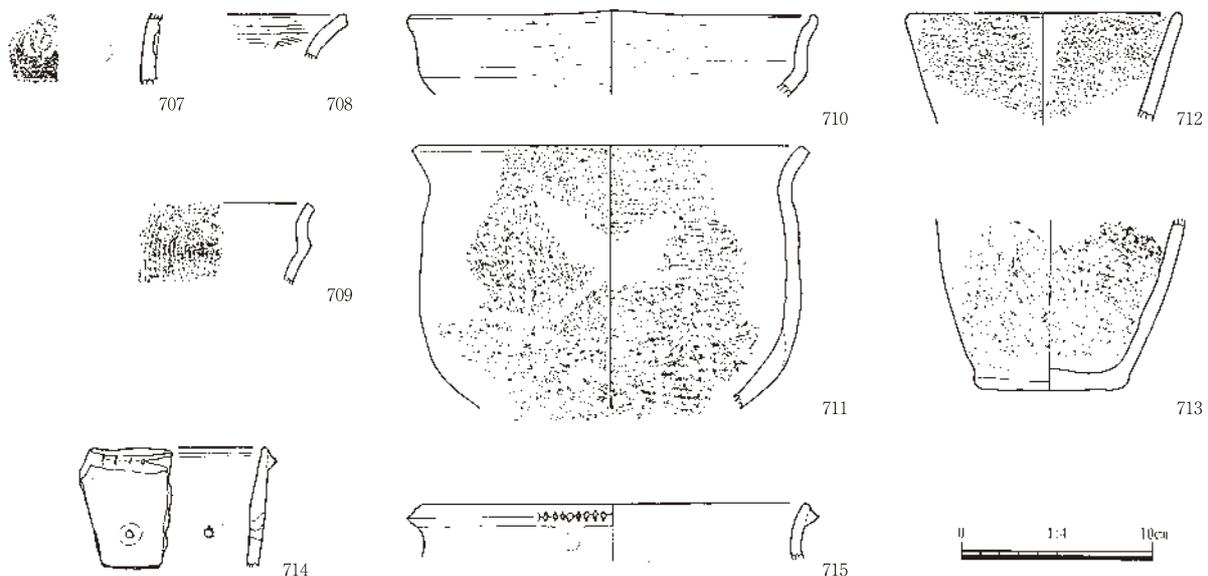
竪穴住居 9 (第 201 図、P L .21・43)

調査区西側、竪穴住居 2 の西側約 12 m に位置しており、A T 上面で検出した。平面形は隅丸方形を呈し、規模は長さ 492cm、幅 416cm、深さ 32cm、床面積 18.8m²を測る。床面の周囲には幅 18 ~ 28 cm、深さ 10cmを測る溝がめぐり、断面観察において幅 6 cm、深さ 13cmほどの板状の痕跡を捉えることができた。床面には貼り床が施されており、北東隅では推定長 180cm、幅 94cm、高さ 20cmほどのベッド状遺構を検出した。なお、この周辺において幅 14cm、深さ 4 cmほどの溝を断片的に確認した。また、床面中央では長さ 32 ~ 40cm、深さ 66 ~ 72cm、平面形が円形を呈する支柱穴 2 基を検出し、このうち P 2 では幅 18cmの柱痕跡が認められた。軸は N - 32° - W と西に振れており、柱間距離は 230cm を測る。この他、ベッド状遺構上において長さ 31cm、深さ 28cm のピットを検出した。さらに、西壁中央付近では長さ 58cm、幅 46cm、深さ 18cm を測る特殊ピットを確認した。貼り床除去後、3 方の壁に沿うようにして幅 18 ~ 120cm、深さ 10cm ほどの平面形が不明瞭な溝を検出した。この溝は掘り方が不定形であることから、竪穴を掘り下げる際にできた痕跡と思われる。

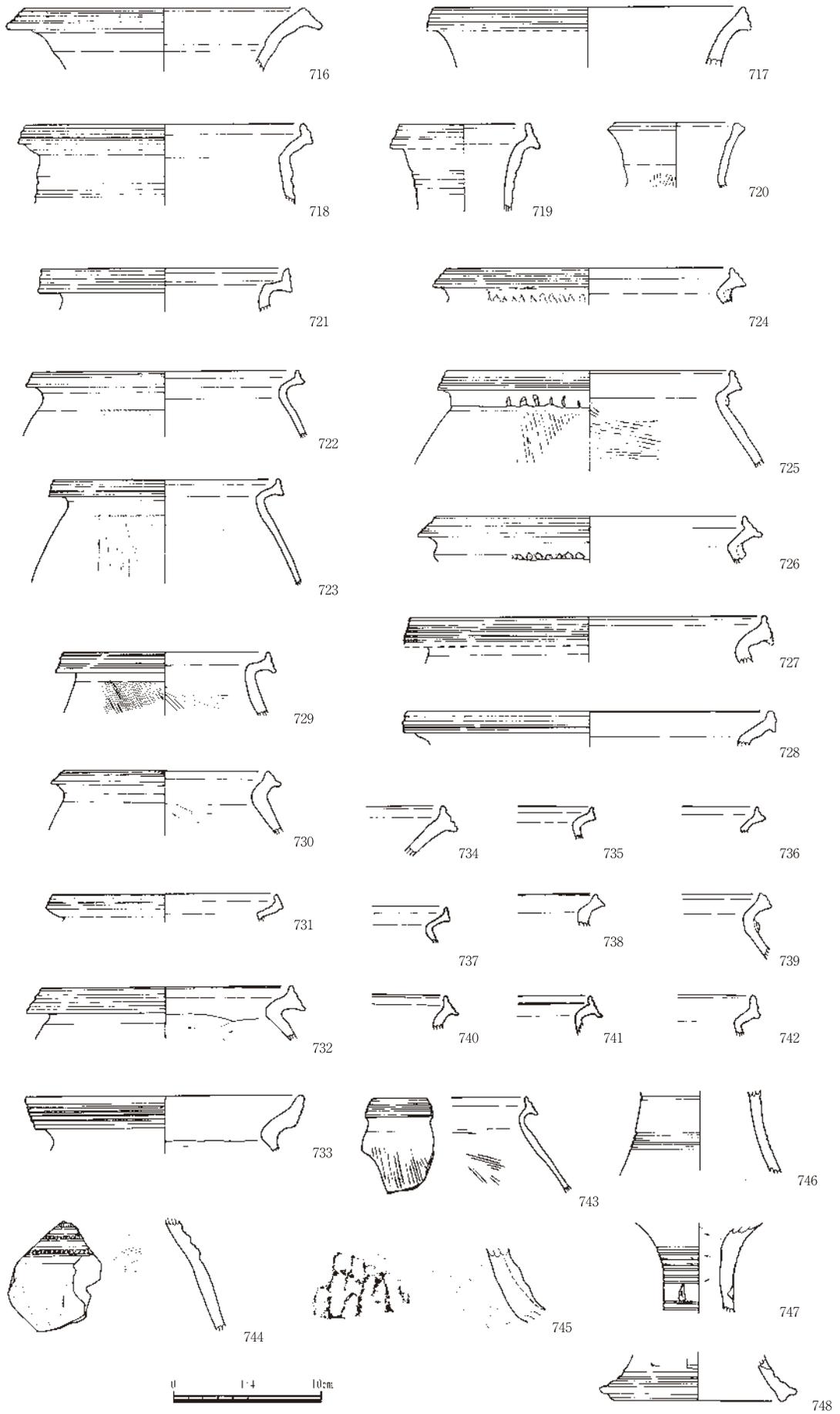
遺物は床面直上から土師器の低脚坏 703、南西隅からは礫 12 個が 2 箇所までまとまって出土した。1 は長さ 19.0cm、厚さ 4.5cm、重さ 880 g、2 は長さ 18.5cm、厚さ 2.8cm、重さ 800 g、3 は長さ 16.7cm、厚さ 5.0cm、重さ 820 g、4 は長さ 16.7cm、厚さ 4.5cm、重さ 855 g、5 は長さ 9.2cm、厚さ 6・8cm、重さ 394 g、6 は長さ 14.9cm、厚さ 3.0cm、重さ 835 g、7 は長さ 16.0cm、厚さ 3.0cm、重さ 650 g、8 は長さ 16.0 cm、厚さ 4.0cm、重さ 725 g、9 は長さ 16.0cm、厚さ 3.8cm、重さ 1025 g、10 は長さ 15.0cm、厚さ 5.5cm、重さ 815 g、11 は長さ 17.2cm、厚さ 4.5cm、重さ 755 g、12 は長さ 15.2cm、厚さ 3.5cm、重さ 680 g を測る。他に埋土中から 702・704 ~ 706 が出土した。これらは全て土師器であり、702 は甕、704・705 は鼓形器台、706 は高坏である。時期は古墳時代前期と考えられる。

(2) 遺構に伴わない遺物 (第 202 ~ 205 図、P L .22・42・43)

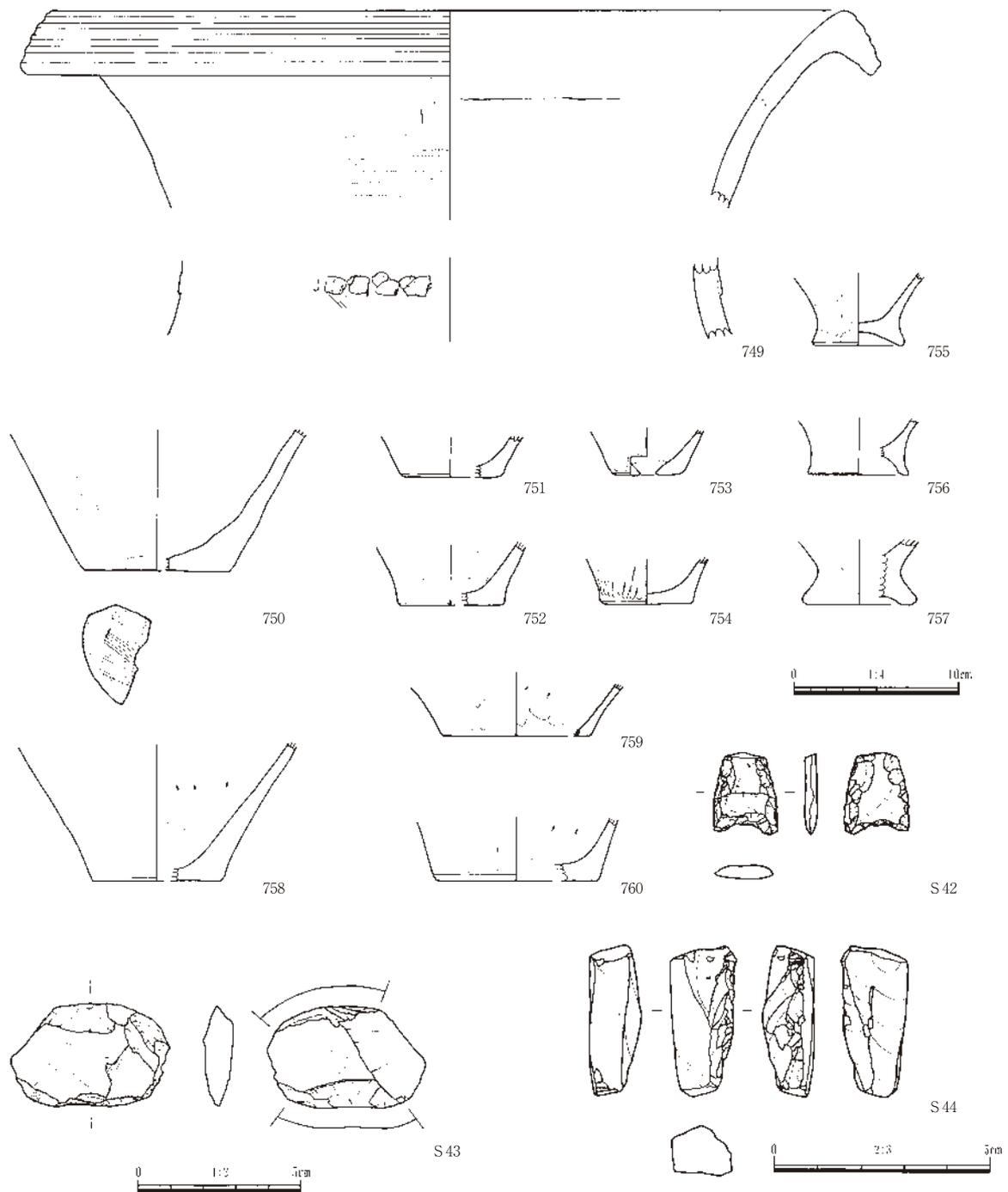
古代以前の遺物包含層である 層から出土した遺物は僅かであり、この時期に伴わない遺構埋土及



第202図 遺構に伴わない遺物



第203図 遺構に伴わない遺物

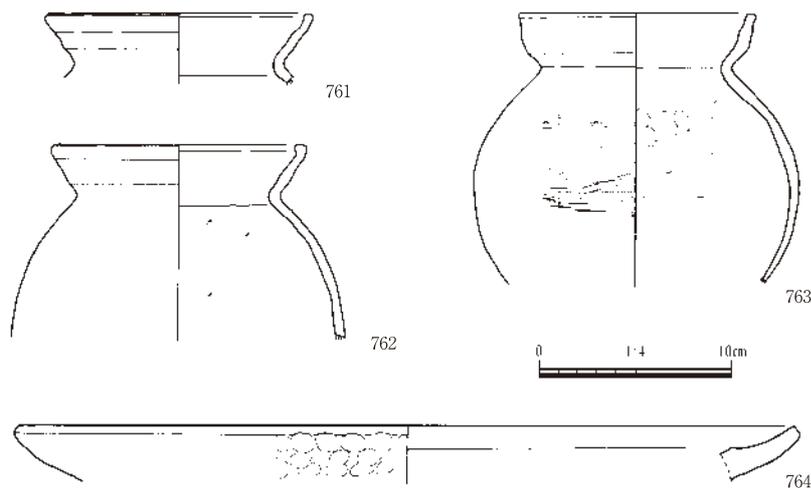


第204図 遺構に伴わない遺物

び包含層から出土したものが大半を占める。縄文時代から古代までの遺物が出土しており、このうち弥生時代中期後葉のものが多く出土し主体となる。

707 ~ 715 は縄文土器であり、これらは全て河岸段丘中段の調査区東側から出土したものである。707 ~ 709・711 ~ 715 は深鉢で、707 は外面に縄文と沈線文によって施文する。709 は「く」の字状に屈曲する口縁部をもち、外面屈曲部に連続した刺突文、体部外面に横方向のハケメ、内側に縦方向のハケメを施す。714・715 は口縁部に刻目付貼付突帯文が付き、714 の体部には焼成後に外面から孔を穿つ。710 は浅鉢と考えられ、内外面に横方向のヘラミガキを施す。

716 ~ 760 は弥生土器で、716 ~ 721・744・745・749・750・758 ~ 760 は壺で、716 は下に拡張し



第205図 遺構に伴わない遺物

た口縁端部の外側に凹線文を施し、内面頸部には浅い段がつく。718・719は口縁端部が「く」の字状に屈曲し、外面に凹線文を施す。また外面頸部には凹線文を施す。720は口縁端部が上下に肥圧し、口縁部内外面に横方向のナデを施す。744は肩部に連続した刺突文を配した3条の突帯文が付く。745が頸部で外面にユビオサエを施した粘土紐が貼り付く。749は口縁端部

が下に拡張し、外面に4条の凹線文を施す。外面頸部には押圧の施された粘土粒が付く。750は底部で底部外面にハケメを施す。722～743・751～757は甕で、724～726・739は頸部に連続した刺突文を配する貼付突帯文が付く。733は複合口縁をもつ甕で、5条の平行沈線文を施す。755～757は底部で短い脚が付く。746～748は高坏の脚部であり、747は外面に沈線文、内面まで貫通しない透かしを有す。748は端部が上下に拡張し、外面に凹線文や透かしが付く。

761～764は土師器で、761・762は口縁部が「く」の字状に屈曲する甕であり、端部が内側に引き上げられる。ともに内面頸部までヘラケズリを施す。763は口縁部が複合口縁状に屈曲する甕であり、外面は横方向のハケメ、内面は胴部中位まで横方向のヘラケズリが施され、肩部にはユビオサエの痕跡が認められる。764は羽釜の鏝の部分であり、外面にユビオサエの痕跡が認められる。

S 42は石鏝でサヌカイト製である。S 43は楔形石器で、一部に磨った痕跡が認められることから、磨製石器を転用したものと思われる。S 44は未成品で緑色凝灰岩製である。

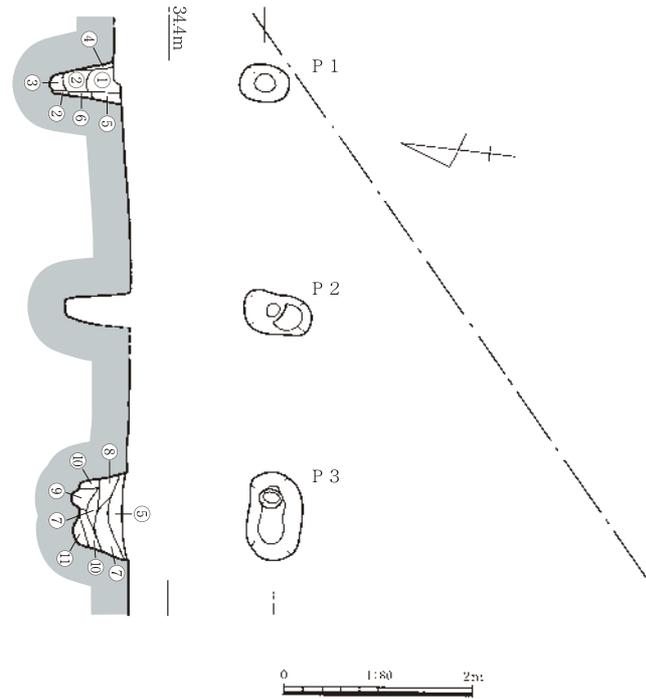
2 中世以降の遺構・遺物

検出した遺構は竪穴住居3棟、土坑2基、溝3条、耕作痕、落ち込みを確認した。このうち掘立柱建物18は9区で検出した溝21を切っており、また埋土の状況から中世後期以降に築かれたと推察され、掘立柱建物1・2・12～15との関連性がうかがわれる。土坑は上段と中段で検出されており、中段に位置する土坑71は壁面において礫を多く検出していることから、土坑とするよりも11区の石列2のつづきと捉えた方がよいのかもしれない。溝は全て中段で検出されており、このうち溝34は掘り方が不明瞭であることから落ち込みの可能性が高い。他の溝32・33は層に由来する灰褐色粘質土を埋土にもつことから、耕作に伴う溝の可能性が考えられる。耕作痕、落ち込みは上段で検出され、耕作痕8～10は層をそれぞれ埋土にもつことから、耕作痕8 耕作痕9 耕作痕10の順に形成されたと考えられる。落ち込み2は層を埋土にもち、その配置状況から9区の溝22～25、14・15区の水田1・2、畠1～3と関連するものと考えられ、耕作に伴う落ち込みないしは段の可能性が高いといえよう。

(1) 掘立柱建物

掘立柱建物 16 (第206図、P L .21)

調査区西側に位置しており、AT上面で検出した。北側の2間分を確認し、残りは南側の調査区外にのびている。柱間距離は193~240cmを測り、軸はN-72°-Eと若干北に振れている。柱穴は平面形が円形ないしは楕円形を呈しており、規模は長さ49~92cm、深さ52cm~72cmを測る。P1・P3では幅20cmほどの柱痕跡を確認し、P3の底面では柱が沈み込んだと考えられる幅24cmほどの円形の落ち込みが認められた。埋土中からは遺物が出土しておらず時期の特定ができないが、埋土の状況から中世後期以降のものと捉えている。

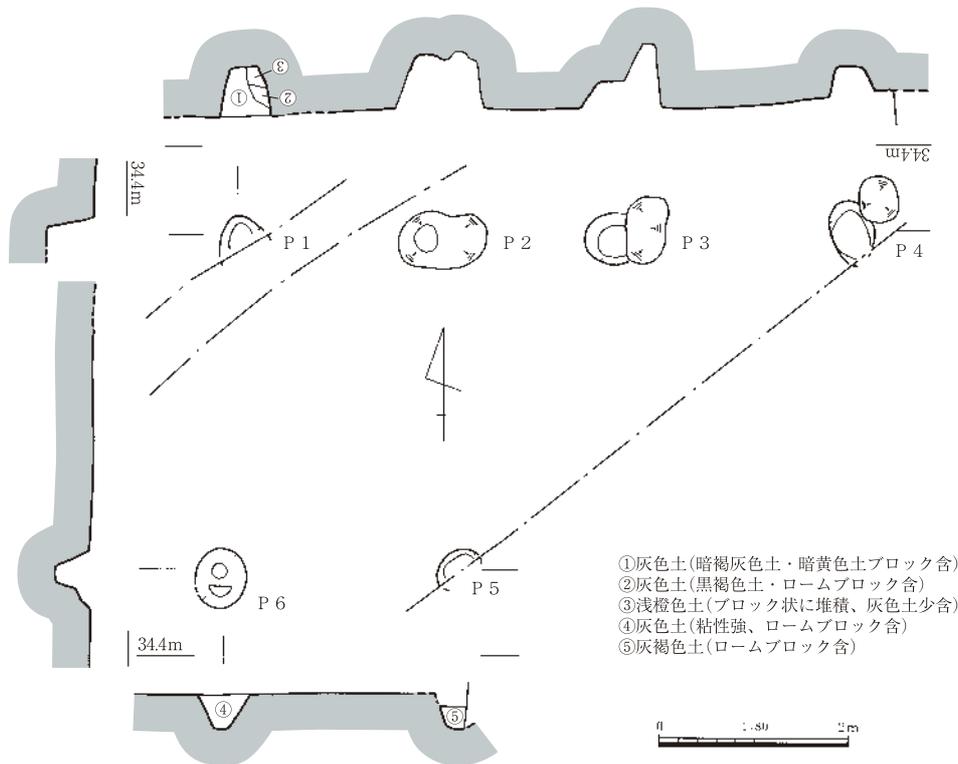


- ① 灰褐色土とロームブロックの混合土
- ② 暗灰褐色土(ロームブロック少含)
- ③ 黒灰褐色土
- ④ 灰色土
- ⑤ 灰褐色土(しまり強、ロームブロック少・砂礫含)
- ⑥ 暗灰褐色土
- ⑦ 暗灰色土ロームブロック少含)
- ⑧ ATブロックと暗灰色土の混合土
- ⑨ 暗灰色土(ロームブロック少含)
- ⑩ 暗褐色土(しまり強、ロームブロック多含)
- ⑪ 暗灰褐色土(しまり強、ロームブロック多含)

掘立柱建物 17 (第207図、P L .21)

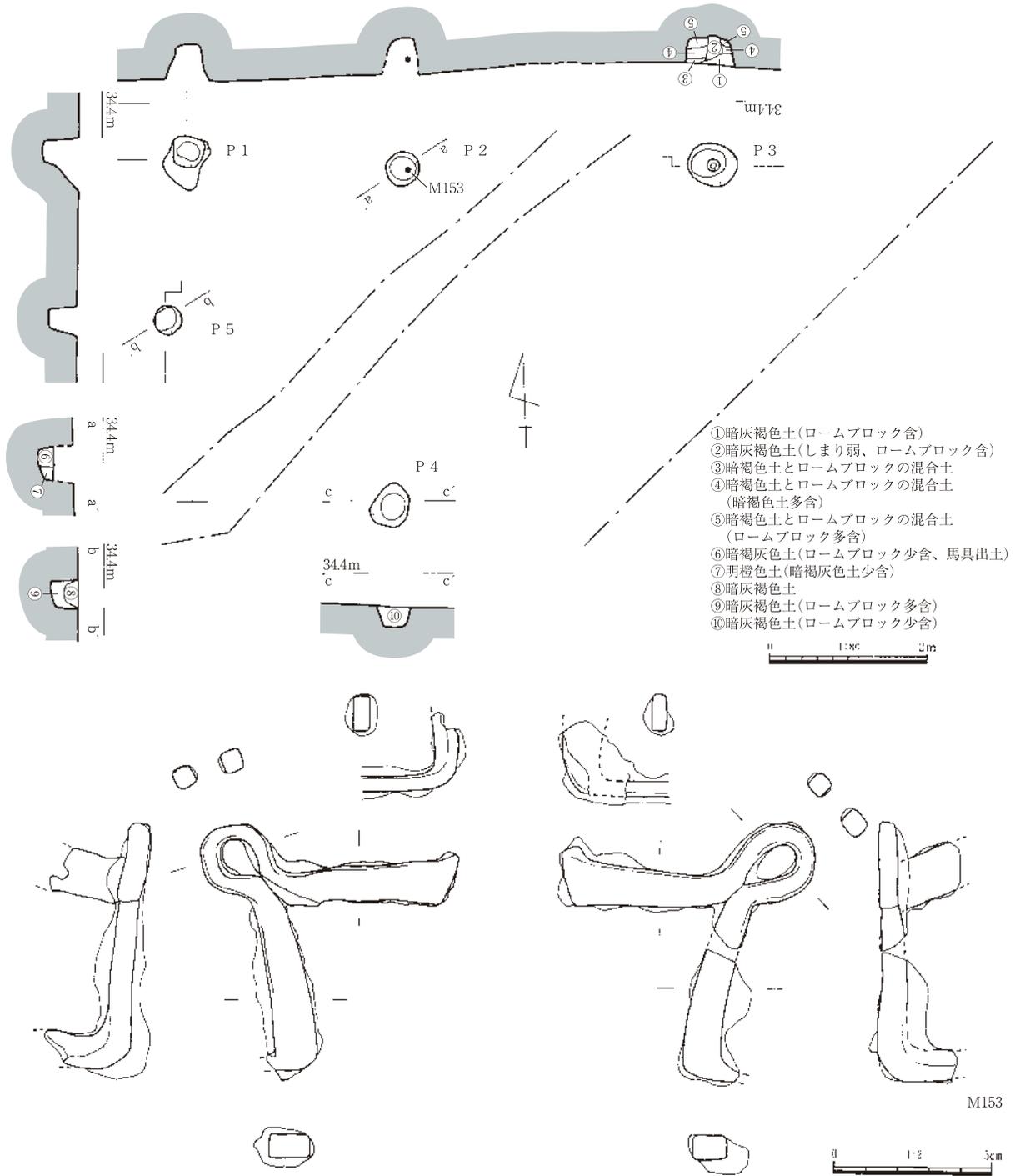
掘立柱建物16と重複して検出されており、切り合いから当遺構が古いといえる。北側3間、南側1間分を確認

第206図 掘立柱建物16



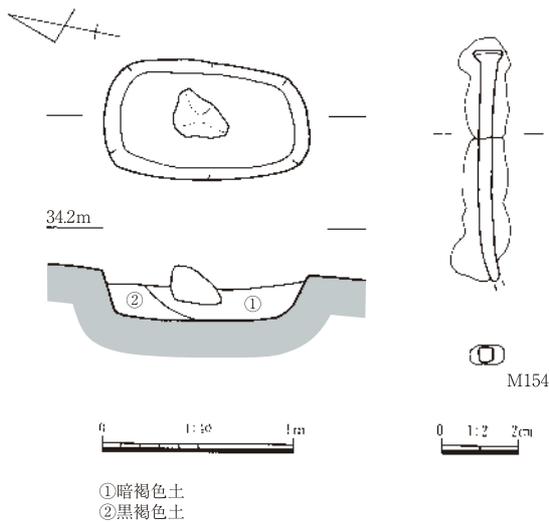
- ① 灰色土(暗褐色土・暗黄色土ブロック含)
- ② 灰色土(黒褐色土・ロームブロック含)
- ③ 浅橙色土(ブロック状に堆積、灰色土少含)
- ④ 灰色土(粘性強、ロームブロック含)
- ⑤ 灰褐色土(ロームブロック含)

第207図 掘立柱建物17

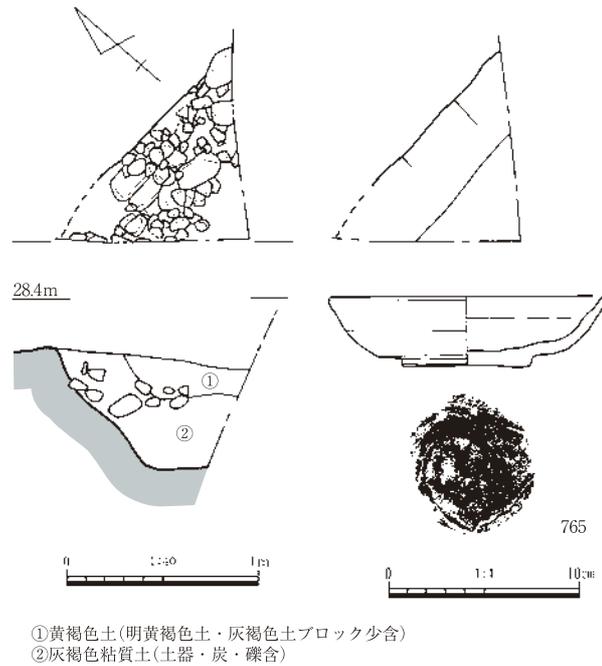


第208図 掘立柱建物18・出土遺物

し、残りは東側にのびると考えられる。確認した範囲で桁行は640cm、梁行は350cm、桁行の柱間距離は194～250cmを測り、主軸はN - 82° - E とほぼ東西方向を向く。柱穴は平面形が円形ないしは楕円形を呈しており、規模は長さ50～63cm、深さ28～58cmを測る。P 1 では幅24cmの柱痕跡を確認し、P 2 の底面には幅22cmほどの柱が沈み込んだと考えられる落ち込みが認められた。遺物は出土しておらず時期の特定はできないが、埋土がないしは 層に由来する灰褐色土となっていることから中世後期以降と考えられる。



第209図 土坑70・出土遺物



第210図 土坑71・出土遺物

掘立柱建物 18 (第 208 図、P L .21・44)

掘立柱建物 16・17 と重複し、溝 21 を切る。当遺構は部分的な調査であることから

全容を捉えることが難しく、調査中に建物として認識することができず、整理作業時に掘立柱建物としてまとめたものである。

遺構は北側 2 間、南側 1 間、西側 2 間分を確認した。規模は確認した範囲で桁行 662cm、梁行 430 cmを測り、軸は N - 84° - W とほぼ東西となる。柱間距離は 216 ~ 392cm であり、P 2 - P 3 間が広がる。柱穴は平面形が円形を呈し、規模は長さ 34 ~ 62cm、深さ 36 ~ 46cm を測る。P 2・P 3 において幅 18 ~ 24cm ほどの柱痕跡を確認し、P 3 の底面において幅 16cm ほどの柱が沈み込んだと考えられる円形の落ち込みを確認した。また、P 2 の柱痕跡内からは鉄製の馬具 M 153 が出土した。時期は溝 21 を切っていること、周囲の遺構の状況から中世後期以降と考えられる。

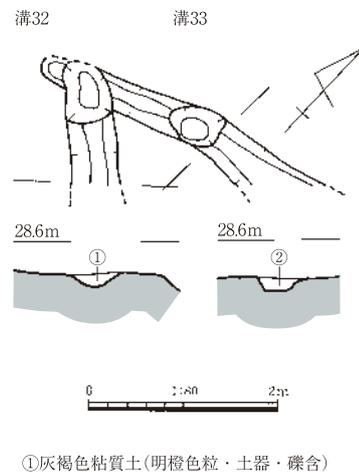
(2) 土坑

土坑 70 (第 209 図)

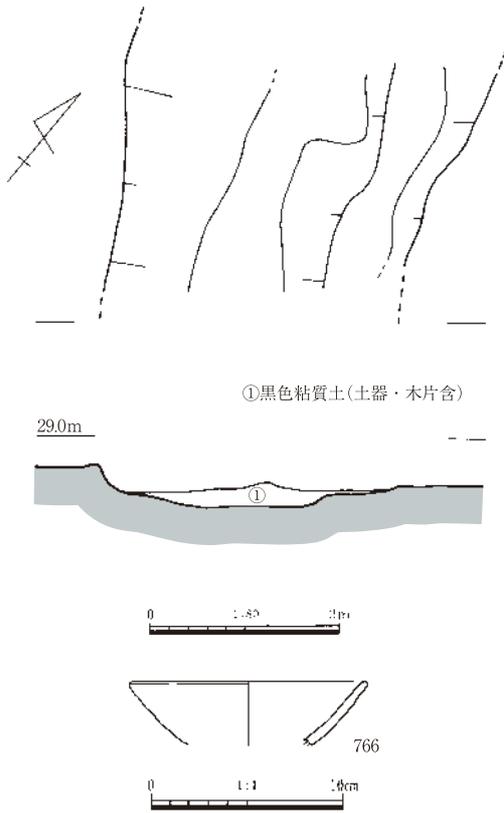
掘立柱建物 16 の東側 1.5 m に位置しており、A T 上面で検出した。平面形は隅丸長方形を呈しており、規模は長さ 114cm、幅 63cm、深さ 27cm を測る。床面はほぼ平坦で、やや浮いた状態で一辺 30cm ほどの礫を検出した。遺物は埋土中から鉄製の釘 M 154 が出土した。時期は中世以降と考えられる。

土坑 71 (第 210 図)

調査区東隅に位置しており、淡灰褐色細砂上面で検出した。大半が調査区外にのびているため全容は不明である。壁面には 6 ~ 50cm ほどの礫が多量に置かれており、11 区で検出した石列 2 と同じ様相を示す。このため、石列 2 の続きとなる可能性



第211図 溝32・33



第212図 溝34・出土遺物

が高いといえる。

(3) 溝

溝 32・33 (第 211 図)

土坑 71 の西側約 5 m に位置しており、淡灰褐色細砂上面で検出した。溝 32・33 は重複しているが、重複部分がピットによって壊され切り合いは不明である。これらは幅 32 ~ 50 cm、深さ約 14 cm を測り、断面形は「U」字状を呈する。埋土がともに 層に由来する灰褐色粘質土となることから、中世のものと考えられる。

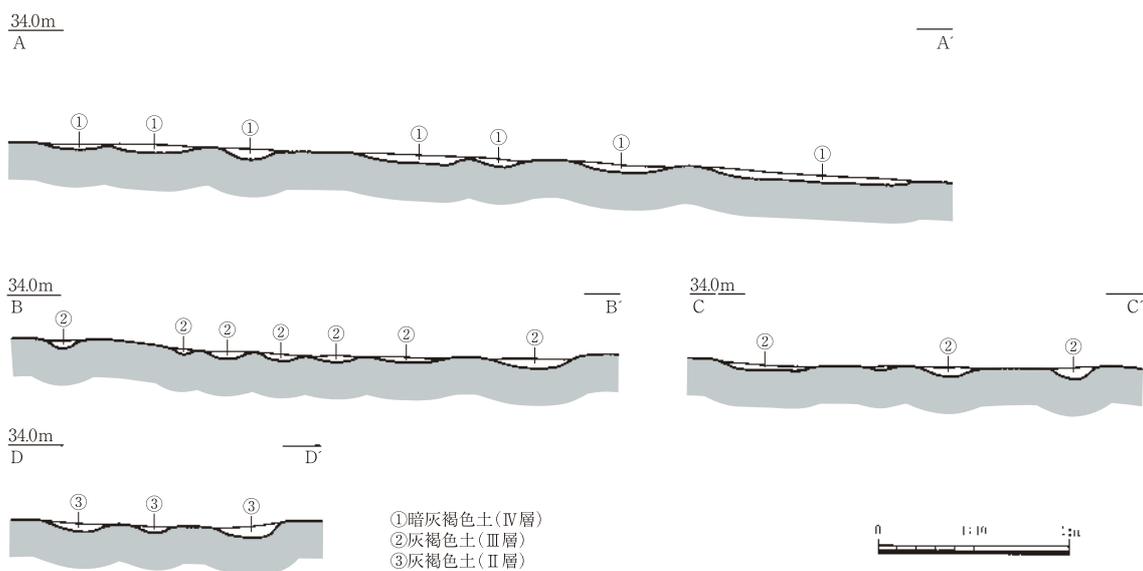
溝 34 (第 212 図、P L .21)

溝 32・33 の西側約 10 m に位置しており、暗灰褐色細砂上面で検出した。西岸は円礫が多く堆積し、その西側が黄褐色ロームとなることから、段丘と氾濫原との境にあたると思われる。規模は幅 325 cm、深さ 28 cm を測り、断面形は皿状を呈する。平面形及び掘り方が不明瞭となることから落ち込みの可能性がある。

(4) 耕作痕

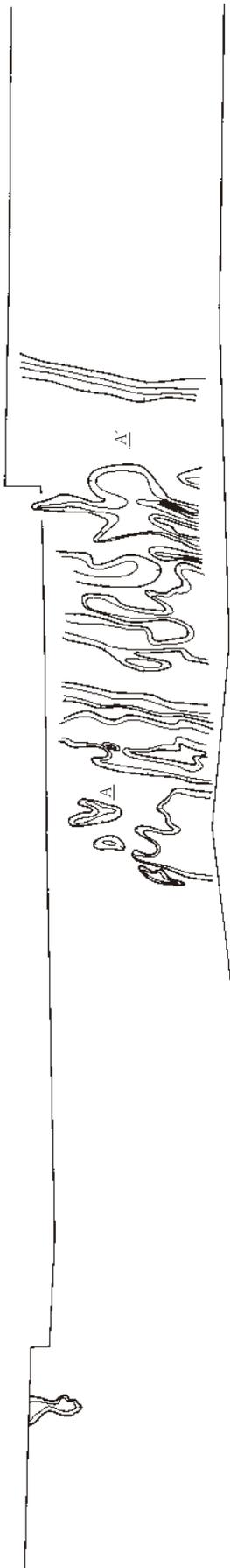
耕作痕 8 ~ 10 (第 213・214 図、P L .21)

調査区を中心に位置しており、 層上面で検出した。これらは埋土の違いによって分離することが

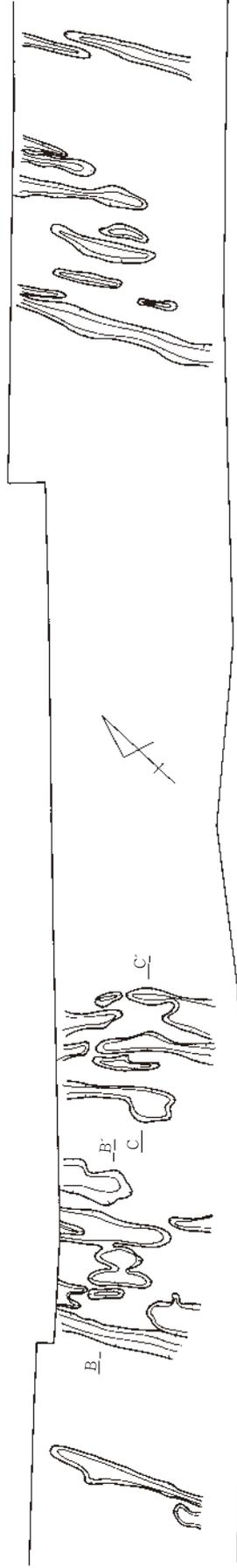


第213図 耕作痕 8 ~ 10

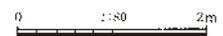
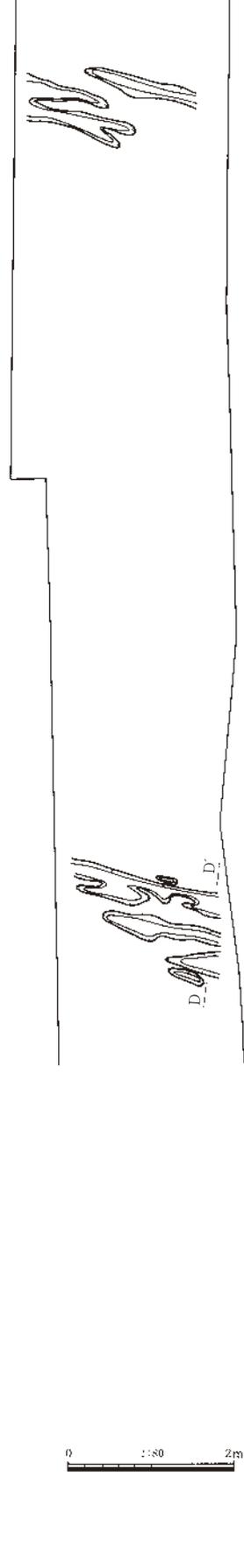
耕作痕8



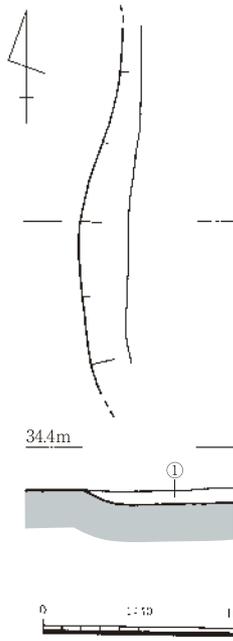
耕作痕9



耕作痕10



第214図 耕作痕8～10



①暗褐色土
(白色粒・マンガン多・鉄分含)

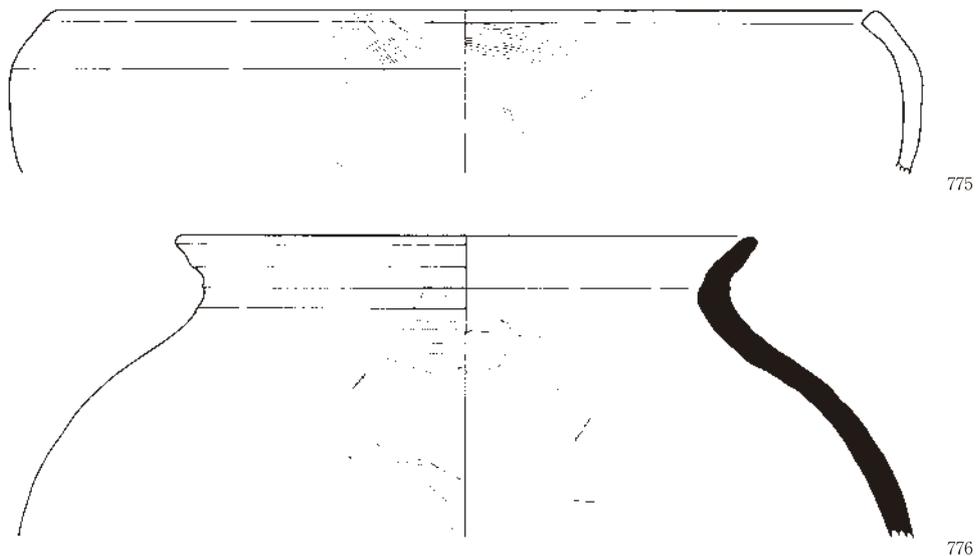
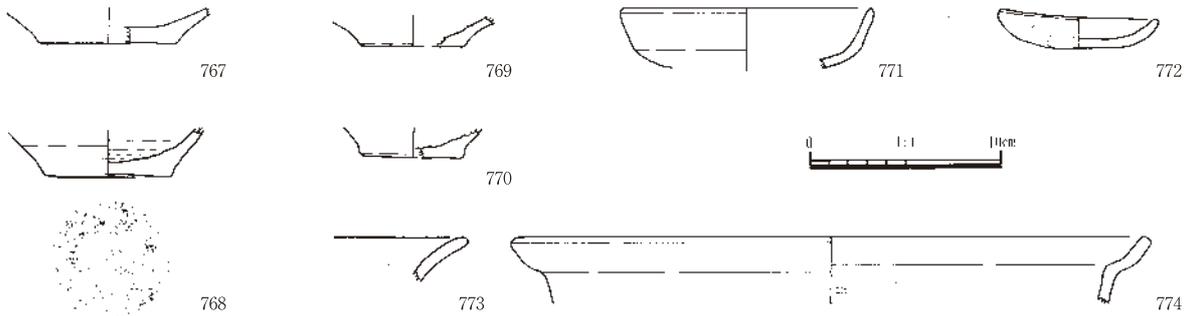
第215図 落ち込み2

可能であり、層を埋土にもつものを耕作痕8、層を埋土にもつものを耕作痕9、層を埋土にもつものを耕作痕10とした。これらは埋土の状況から、耕作痕8 耕作痕9 耕作痕10の順に変遷していくと考えられる。耕作痕8～10は北西から南東方向にかけて直線的にのびる溝群で構成される。掘り方は不明瞭であり、平面形は不定形でいびつなものとなっている。規模は幅12～50cm、深さ6～12cmを測り、断面形は皿状を呈する。時期は遺物が出土しておらず不明瞭であるが、埋土の状況から耕作痕8は中世前期、耕作痕9は中世前期～後期、耕作痕10は中世後期以降のものと推察される。

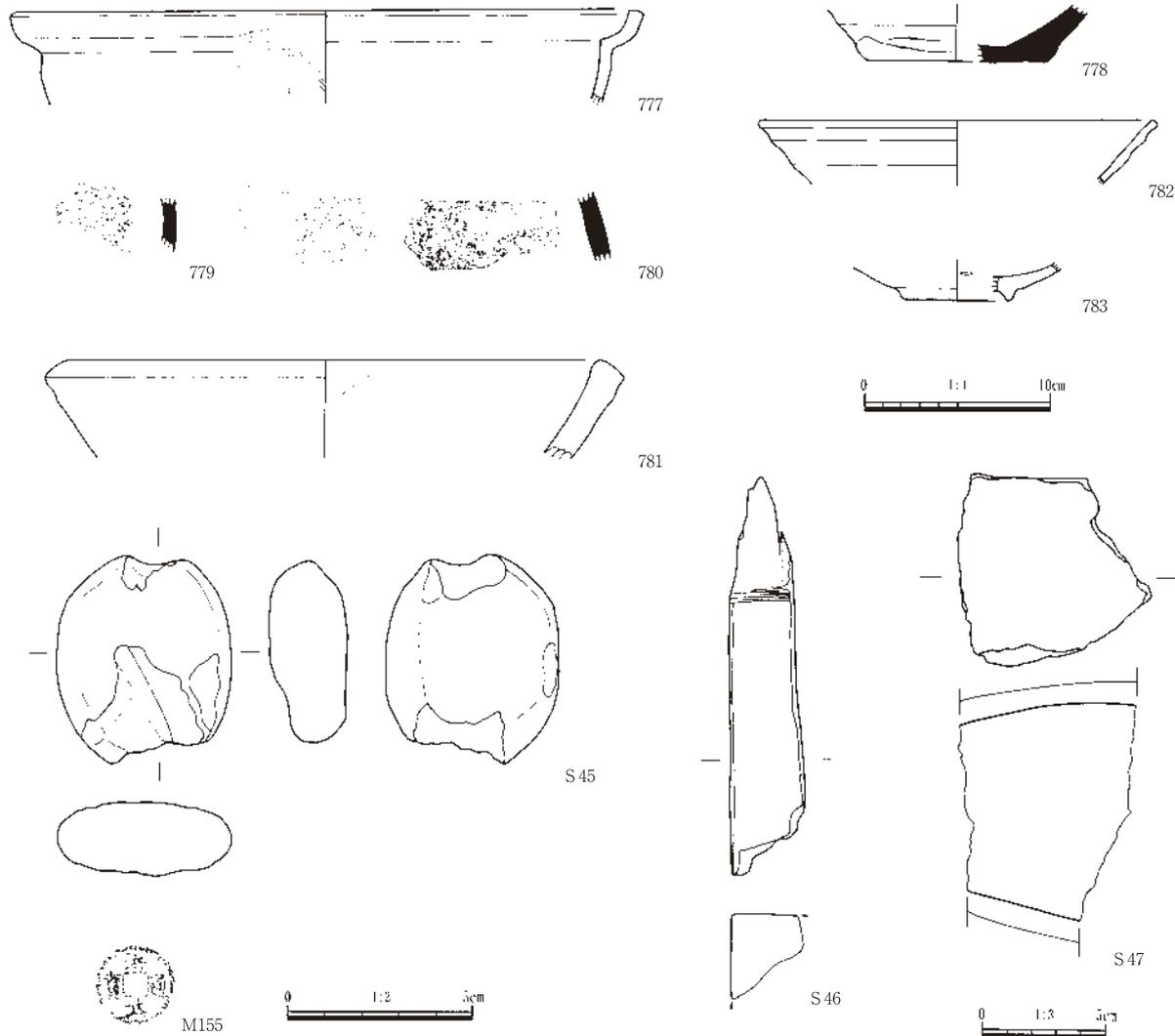
(5) 落ち込み

落ち込み2 (第215図)

土坑70の東側1.2mに位置しており、層上面で検出した。大半が調査区外にあるため全容は不明である。遺構は検出面から12cmほど落ち込み、段を形成する。埋土は層であり、これと同様の埋土をもつ耕作痕9がすぐ東側で確認されており、15区で検出した水田1・2の段と同様、耕作に伴う可能性が高いといえる。



第216図 遺構に伴わない遺物



第217図 17区遺構に伴わない遺物

(6) 遺構に伴わない遺物(第216・217図、P.L.47)

遺物は ~ 層及び遺構検出時に出土したものが大半である。第216図に掲げたものは中段から、第217図のものは上段から出土したものである。

767 ~ 775は土師器である。767 ~ 770は坏で、底部との境に段を有する。768の底部は回転系切り、770は回転ヘラ切りの可能性が高い。他は器面が摩滅し不明である。771・772は手づくね成形による皿であり、口縁部は横方向のナデにより仕上げる。773は「く」の字状に屈曲する口縁部をもつ鍋、774は受け部状の口縁部をもつ鍋、775は鉢である。

776は須恵器で、外面胴部から頸部にかけて縦方向のハケメ後、横方向のハケメを行い、一部において横方向のナデを施す。当地域において珍しい特徴をもつことから胎土分析を行ったところ、勝間田産であることが判明した(第5章第4節参照)。

777は瓦質の鍋で、受け部状の口縁部をもつ。778は須恵器の壺、779・780は須恵器の甕で、779は外面格子状の叩き、内面にナデを施す。780は外面に格子状の叩きを施した後ハケメを行い、一部においてヘラ状工具による沈線文を施す。内面にはうっすらと同心円状の当具の痕跡が残る。781は備前期の擂鉢と考えられるが、焼きが悪く軟質である。782は直縁大皿で瀬戸美濃産である。783は唐津の碗である。S45は石錘、S46は硯、S47は磨石、M155は洪武通寶である。

第10節 遺物観察表

表1 門前上屋敷遺跡15区試掘トレンチ出土遺物観察表

挿図	遺物番号	遺構・地区・層位名	種類	器種	材質	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第5図	1	15区試掘トレンチ	弥生土器	甕		器高 6.3	外面口縁部2条以上凹線。体部タテハケ。内面ヨコナデ。肩部指押さえ。	密	良好	内外面とも浅黄橙色。	外面肩部黒斑あり
第5図	2	15区試掘トレンチ	弥生土器	底部		器高 4.0 底径 4.0	外面体部縦方向ミガキ。底部ナデ。内面上方向ケズリ。	密	良好	外面にぶい橙～黄橙色。内面にぶい黄橙色	底部外面黒斑あり
第5図	3	15区試掘トレンチ	土師器	小皿		口径 8.2 器高 1.2 底径 5.8	外面体部ヨコナデ。底部回転系切り。内面ヨコナデ。	密	良好	外面灰褐色。内面明赤褐色	
第5図	S1	15区試掘トレンチ	石製品	鏃	サヌカイト	最大長1.9 最大幅1.4 最大厚0.4 重さ0.7g	小型の平基鏃。三角形を呈す。				

表2 門前上屋敷遺跡土器観察表(1)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第19図	1	8	掘立柱建物2	土師器	坏	器高 1.4	回転台成形。底部は糸切りか。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 ぶい橙色	
第19図	2	8	掘立柱建物2	白磁	碗	器高 1.7	白磁碗 類。口縁部は玉縁状を呈する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第21図	3	8	柱穴10	土師器	皿	器高 3.0 口径 11.2 底径 7.5	回転台成形。底部は糸切りか。内外面ともにヨコナデを施す。外面に煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 ぶい黄橙色	
第21図	4	8	柱穴18	土師器	皿	器高 1.0 底径 7.4	回転台成形。底部は糸切りか。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 ぶい黄橙色	
第21図	5	8	柱穴20	白磁	皿	器高 1.7	白磁皿E類か。口縁部は外反する。	密	良好	釉 灰白色 胎土 灰白色	
第22図	6	8	土坑36	染付	碗	器高 2.6	外面に暗緑色の 網目文を配す。	密	良好	釉 灰白色 胎土 灰白色	
第24図	7	8	土坑38	土師器	坏	口径 13.2 器高 3.2	回転台成形か。内外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	内外 ぶい黄橙色	
第24図	8	8	土坑38	土師器	皿	口径 6.0 器高 1.4	回転台成形か。外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	外 浅黄橙色 内 ぶい黄橙色	
第24図	9	8	土坑38	土師器	皿	口径8.2 器高1.4 底径6.9	回転台成形。底部は回転系切り後ナデか。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデか。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・橙色粒を含む	良好	内外 淡橙色	
第24図	10	8	土坑38	土師器	皿	口径7.7 器高1.4 底径6.3	回転台成形。底部は回転系切り後ナデか。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデか。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・橙色粒を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第25図	11	8	土坑39	陶器	鉢	口径 16.4 器高 10.0	口縁部が内側に張り出す。内外面ともに釉を施す。	密	良好	釉 オリーブ黄色 胎土 灰黄色	
第26図	12	8	土坑40	土師器	坏	器高 1.6 底径 8.7	回転台成形。底部は糸切り。内面はナデ、外面はヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第26図	13	8	土坑40	土師器	坏	器高 1.1 底径 10.0	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 明黄褐色	
第26図	14	8	土坑40	土師器	皿	口径 8.2 器高 1.4 底径 7.0	回転台成形。底部は回転系切り。内面は不定方向のナデ、外面はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 暗褐色	
第26図	15	8	土坑40	土師器	皿	口径 8.0 器高 1.2 底径 7.8	回転台成形。底部は糸切り。内面は不定方向のナデ、外面はヨコナデを施す。内面に稲初めの圧痕がみられる。	密	良好	内外 淡黄色	
第26図	16	8	土坑40	土師器	皿	器高 1.0	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部には不定方向のナデを施す。	密	良好	内外 灰黄色	
第26図	17	8	土坑40	弥生土器	壺	器高 5.4	外面は縦方向のハケメ後4条の凹線文を施す。内面は横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外断 ぶい黄褐色 褐色	
第28図	18	8	土坑42	土師器	皿	器高 1.3	回転台成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 灰白色	
第28図	19	8	土坑42	白磁	碗	器高 2.5	内外面ともに施釉。	密	良好	釉 灰白色 胎土 灰白色	
第30図	20	8	たわみ1	備前焼	壺	器高 3.3	備前 期か。口縁部は外側に折り曲げ玉縁状を呈す。内外面ともにナデ、内面口縁部に釉が付着する。	密、長石を含む	良好	内外 ぶい赤褐色	
第31図	21	8	P483	土師器	皿	器高 1.6	手づくね成形。口縁部は外反し、横方向のナデにより外面に段が付く。口縁部直下に凹線が付く。内面は丁寧なナデを施す。	密	良好	外 ぶい橙色 内 ぶい黄褐色	
第31図	22	8	P484	土師器	鼓形器台	器高 2.6	外面は横方向のナデ、内面はヘラミガキを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 ぶい黄褐色	
第31図	23	8	P485	土師器	坏	器高 2.5	回転台成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第31図	24	8	P486	土師器	坏	器高 1.9 底径 6.3	回転台成形。底部は静止系切りか。内面底部はナデ、他はヨコナデか。器面が摩滅し調整不明瞭。	密	良好	内外 ぶい黄褐色	
第32図	25	8	層	弥生土器	蓋	器高 3.1 底径 12.2	下に拡張した口縁部をもち、外面体部との境が突出する。外面にはナデ後3条以上の沈線文、内面は横方向のヘラケズリを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 橙色	
第32図	26	8	層	須恵器	坏身	口径 12.6 器高 2.7	内外面ともにヨコナデを施す。外面体部に釉が付着する。	密	良好	内外断 灰色 灰褐色	
第32図	27	8	層	須恵器	甕	器高 8.9	外面に平行叩き、内面に同心円状の当具痕が残る。口縁部の接合面に叩き痕が認められる。	密	良好	内外 灰色	

表3 門前上屋敷遺跡土器観察表(2)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第32図	28	8	層	備前焼	甕	器高 5.8 底径 12.4	内外面ともにナデ。内面底部に釉が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 赤灰色	
第33図	29	8	遺構外	須恵器	壺	器高 2.3 底径 7.8	細く短い口縁部をもつ。内外面ともにナデを施す。外面に釉が付着する。	密	良好	内外 灰色	
第33図	30	8	遺構外	土師器	坏	器高 1.4 底径 7.6	回転台成形。底部は静止系切りか。内面底部は不定方向のナデを施す。	密	良好	外 黒褐色 内 灰白色	
第33図	31	8	遺構外	瓦質土器	羽釜	器高 3.3	外面口縁部直下に短い罫が付く。口縁部は内傾し、内面端部直下に浅い凹線が付く。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外 黄褐色	
第33図	32	8	遺構外	須恵器	甕	器高 5.2	外面には格子状の叩き、内面には横方向のナデが施される。勝間田系。	密	良好	外 灰色 内 灰白色	
第33図	33	8	遺構外	須恵器	甕	器高 7.5	外面には格子状の叩き、内面には横方向のナデが施される。勝間田系。	密	良好	外 褐色 内 にぶい褐色	
第33図	34	8	遺構外	須恵器	甕	器高 4.3	外面には格子状の叩き、内面には横方向のナデが施される。勝間田系。	密	良好	外 褐色 内 にぶい褐色	
第33図	35	8	遺構外	陶器	壺	器高 2.0 底径 6.6	削り出しによる高台部をもつ。内面の一部に釉がかかる。	密	良好	胎土 灰オリブ色	
第33図	36	8	遺構外	陶器	皿	口径 8.2 器高 1.4	内面に釉がかかる。	密	良好	釉 暗 外 にぶい褐色	
第36図	37	9	柱穴29	弥生土器	甕	器高 2.7 底径 6.8	底面はナデ、底部外面は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 褐色	
第36図	38	9	柱穴40	弥生土器	壺	器高 1.8	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密	良好	内外 橙色 断 褐色	
第38図	39	9	P487	弥生土器	高坏	口径 18.4 器高 5.7	口縁部は水平で外側に拡張する。口縁部外面には2条の凹線文、内外面にはヘラミガキを施す。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・橙色粒を含む	良好	内外 明黄褐色	
第38図	40	9	遺構外	弥生土器	甕	口径 15.0 器高 2.2	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰黄褐色	
第38図	41	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 4.1	上下に拡張した口縁部をもち、そこに凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。外面口縁部に煤が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄色	
第38図	42	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 3.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	外 灰黄色 内 浅黄色	
第38図	43	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 2.1	上下に肥厚した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第38図	44	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 2.2	上下に拡張した口縁部をもち、2条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第38図	45	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 2.1	くの字状に屈曲した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第38図	46	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 3.6	上下に拡張した口縁部をもち、外面頸部に連続した刺突文を配す貼付突帯が付く。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 にぶい黄褐色 内 橙 - にぶい黄褐色	
第38図	47	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 3.4	複合口縁をもち、そこに6条の沈線文を施す。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 黄灰色 内 淡黄色	
第38図	48	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 3.1	上下に拡張した口縁部をもち、そこに凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第38図	49	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 2.8	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の沈線文を施す。内外面口縁部はナデ、内面は頸部まで横方向のヘラケズリを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	外 灰黄褐色 内 にぶい黄褐色	
第38図	50	9	遺構外	弥生土器	甕	口径 11.6 器高 6.0	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の平行沈線文を施す。外面肩部には連続した刺突文を配す。外面は縦方向のハケム後頸部にかけて横方向のナデ、内面は頸部付近まで横方向のヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第38図	51	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 2.2	上に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面に赤色顔料を塗布した痕跡がみられる。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外 断 淡黄色 断 褐色	
第38図	52	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 2.1	口縁部を外側に折り返す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第38図	53	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 1.9 底径 6.6	内外面ともにナデを施す。外面には黒斑がみられる。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 淡黄色	
第38図	54	9	遺構外	弥生土器	甕	器高 3.4 底径 8.0	内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、雲母を含む	良好	内外 淡黄色	
第38図	55	9	遺構外	弥生土器	壺	器高 4.2 底径 8.4	外面はハケム、内面はナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 浅黄 - 黄灰色 内 黄灰色	
第38図	56	9	遺構外	弥生土器	高坏	器高 1.8	端部は水平で内側に肥厚し、外側に2条以上の凹線文、内面にはナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	外 黄灰色 内 浅黄色	
第38図	57	9	遺構外	弥生土器	脚部	器高 2.8	端部は肥厚する。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 橙 - 褐色 内 にぶい黄褐色	
第38図	58	9	遺構外	須恵器	坏	器高 1.7 底径 8.4	外面底部境に貼付による高台が付く。内外面にヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	
第38図	59	9	遺構外	須恵器	坏身	口径 11.3 器高 2.6	内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 青灰色	
第38図	60	9	遺構外	須恵器	坏	器高 1.6 底径 8.2	底部は回転系切り。内面底部は不定方向のナデ、内外面体部はヨコナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 暗緑灰色	
第38図	61	9	遺構外	須恵器	坏	器高 1.4 底径 9.1	外面底部のやや内側に高台が付く。	密	良好	内外 緑灰色	
第38図	62	9	遺構外	須恵器	坏	器高 1.3 底径 9.0	外面底部のやや内側に高台が付く。内面底部は不定方向のナデを施す。	密	良好	内外 青灰色	
第38図	63	9	遺構外	須恵器	坏	器高 1.6 底径 11.0	外面底部のやや内側に高台が付く。内面底部はナデを施す。使用により摩滅する。	密、長石を少し含む	良好	内外 青灰色	
第38図	64	9	遺構外	須恵器	坏	器高 2.2 底径 10.8	底面やや内側に高台が付く。内外面口縁部にはヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰色	
第38図	65	9	遺構外	須恵器	坏	器高 3.2 底径 11.0	底面のやや内側に高台が付く。内外面口縁部はヨコナデ、内面は使用により摩滅する。	密	良好	内外 灰色	

表4 門前上屋敷遺跡土器観察表(3)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第38図	66	9	遺構外	須恵器	皿	器高 2.6 底径 11.9	内外面ともにヨコナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	外 緑灰色 内 暗青灰色	
第38図	67	9	遺構外	須恵器	甕	口径 13.4 器高 2.9	口縁部がやや下に張り出し段を有す。内外面ともにヨコナデを施す。内面口縁部に釉が付着する。	密	良好	内外 灰色	
第43図	68	9	溝3	土師器	坏	器高 1.7 底径 6.8	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第43図	69	9	溝3	土師器	皿	口径 7.4 器高 1.6 底径 6.0	回転台成形。底部は回転糸切り。内外面口縁部はヨコナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 橙色	
第43図	70	9	溝3	土師器	皿	口径 7.4 器高 1.6 底径 5.6	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 橙色	
第43図	71	9	溝21	土師器	皿	器高 2.5	手づくね成形。口縁部付近で細くなる。内面に煤が付着する。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第43図	72	9	溝21	土師器	皿?	器高 2.6	手づくね成形。口縁部に工具による刺突を行う。外面全体は発泡する。	密、石英・橙色粒を含む	良好	内外 明黄褐色	
第45図	73	9	溝22	土師器	坏	器高 1.4 底径 6.3	回転台成形。底部は静止糸切り。内面底部は不定方向のナデ、外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第45図	74	9	溝22	土師器	皿	口径 11.6 器高 2.5	手づくね成形。外反する口縁部をもつ。内外面口縁部には横方向のナデを施す。	密	良好	内外 淡黄色	
第45図	75	9	溝22	瓦質土器	羽釜	口径 13.0 器高 4.8	口縁部直下に短い鐙が付く。口縁部はやや内傾し、内面端直下に浅い凹みが付く。口縁部内外面は横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 淡黄色	
第45図	76	9	溝25	土師器	甕	器高 3.9	くの字状に屈曲する口縁部をもつ。内外面口縁部ともにナデ、内面頸部まで横方向のヘラケズリを施す。	密、長石・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 明黄褐色	
第47図	77	9	石列1	土師器	坏	器高 1.8 底径 6.8	回転台成形。底部は回転糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 橙色	
第47図	78	9	石列1	土師器	皿	口径 11.0 器高 1.7	手づくね成形。外反する口縁部をもち、外面に僅かな段が付く。内面口縁部直下には微かな凹線が付く。	密、長石を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第47図	79	9	石列1	土師器	鍋	器高 2.9	受け部状の口縁部をもつ。端部は平坦で内側がやや引き出される。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第47図	80	9	石列1	須恵器	甕	器高 6.0	外面は格子状の叩き、内面はナデを施す。勝間田系。	密	良好	外 灰色 内 黄褐色	
第47図	81	9	石列1	備前焼	甕	器高 4.2	底面と底部の境に横方向のヘラケズリ、内外面底部はナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 赤灰色	
第47図	82	9	石列1	瀬戸	天目茶碗	口径 11.6 器高 3.5	口縁部はやや屈曲しながら立ち上がる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 黒褐色	
第47図	83	9	石列1	白磁	碗	器高 2.5 底径 6.2	白磁碗類。内面見込みに段を有す。高台は細く高く直立する。外面にはヘラケズリが施される。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰オリブ色	
第47図	84	9	石列1	青磁	香炉	口径 10.0 器高 3.0	口縁部に断面形が三角形の煙返しがつく。	密	良好	内外 灰オリブ色 胎土 灰白色	
第47図	85	9	石列1	陶器	鉢	器高 5.2 底径 14.0	内面底部は不定方向のナデ、内外面体部は横方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 明赤褐色	
第47図	86	9	石列1	陶器	擂鉢	器高 2.8 底径 12.2	外面底部に型による高台が付く。内面は放射状に却目が施される。	密、石英・長石を含む	良好	外 暗褐色 内 明黄褐色	
第48図	87	9	土坑44	土師器	皿	器高 3.5	手づくね成形。外反する口縁部をもち、外面に段が付く。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第48図	88	9	土坑44	青磁	碗	器高 2.5	高麗青磁か。口縁部は外側へ屈曲し、端部が肥厚し断面形がにぶい三角形を呈する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰オリブ色	
第49図	89	9	遺構外	土師器	鉢	器高 2.5	口縁部内側が上に拡張し、外側付近に1条の凹線が付く。外面はナデ、内面は横方向のヘラミガキを施す。内面には煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	外 橙色 内 灰黄褐色	
第49図	90	9	遺構外	須恵器	甕	器高 4.4	外面には格子状の叩き、内面にはナデを施す。	密	良好	外 灰色 内 にぶい黄褐色	
第49図	91	9	遺構外	陶器	鉢	器高 4.5	口縁部外面を横方向に強くナデで段を付ける。内面には却目が施される。内外面に釉がかけられる。	密	良好	内外 褐灰色 断 にぶい赤褐色	
第49図	92	9	遺構外	青磁	碗	器高 3.6	龍泉窯系青磁碗類。内面に片彫・櫛目で施した花文様を有す。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ黄色	
第49図	93	9	遺構外	青磁	碗	器高 4.1	龍泉窯系青磁碗D類。2次火を受けたためか外面の器面に発泡がみられる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 明緑灰色	
第49図	94	9	遺構外	青磁	碗	器高 1.7 底径 6.0	龍泉窯系青磁碗類。内面に片彫蓮花文を有す。	密	良好	胎土 浅黄褐色 釉 灰オリブ色	
第49図	95	9	遺構外	青磁	碗	器高 3.5 底径 7.2	龍泉窯系青磁碗。底部のみ残存。内外面全体に釉がかかる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ灰色	
第53図	96	10・13	溝27	土師器	皿	口径 12.6 器高2.4 底径 8.2	回転台成形。底部は静止糸切り。口縁部は外反し、内面底部は不定方向のナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	内外 明黄褐色	
第53図	97	10・13	溝27	土師器	皿	口径 12.6 器高3.2 底径 9.2	回転台成形。底部は静止糸切り。内面底部は不定方向のナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	内外 黄褐色	
第53図	98	10・13	溝27	白磁	皿	口径 15.0 器高3.5 底径 8.0	白磁皿E類。高台の置付け部分は露胎する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第55図	99	11	柵列3	土師器	坏	器高 2.1 底径 5.9	回転台成形。底部は回転糸切り後板目が付く。底部内面は不定方向のナデを施す。	密、雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第55図	100	11	柵列3	土師器	皿	口径 7.6 器高1.2 底径 6.3	回転台成形。底部は静止糸切り。内面は不定方向のナデ、外面はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第55図	101	11	柵列3	土師器	皿	器高 0.9 底径 4.0	回転台成形。底部は回転糸切り。内外面体部はヨコナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	

表5 門前上屋敷遺跡土器観察表(4)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第55図	102	11	柵列3	弥生土器	甕	器高 2.1	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。内面には赤色顔料を塗布した痕跡が残る。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第57図	103	11	土坑47	土師器	坏	口径 12.3 器高 3.0 底径 7.0	回転台成形。底部は回転系切り。外面はヨコナデを施し凹凸が顕著に残る。内面はヨコナデ後ナデを施し、凹凸を磨り消す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 橙～にぶい黄褐色	
第57図	104	11	土坑47	土師器	皿	口径 13.2 器高 2.5	手づくね成形。外面口縁部には横方向のナデ、内面には不定方向のナデが施される。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙～浅黄色	
第57図	105	11	土坑47	土師器	皿	口径 14.2 器高 2.6	手づくね成形。内外面口縁部には横方向のナデが施される。	密、雲母・褐色粒を含む	良好	内外 橙色	
第57図	106	11	土坑47	土師器	皿	器高 2.6	手づくね成形。内面口縁部には横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 断 灰白色 褐灰色	
第57図	107	11	土坑47	土師器	坏	口径 11.2 器高 2.4	手づくね成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。器壁は薄い。	密、石英・長石・橙色粒を含む	良好	内外 橙～浅黄褐色	
第57図	108	11	土坑47	土師器	坏	器高 1.8 底径 6.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。内面には凹凸が認められる。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第57図	109	11	土坑47	土師器	坏	器高 1.8 底径 6.2	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。内面には凹凸が認められる。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第57図	110	11	土坑47	土師器	皿	口径 8.5 器高 1.7	手づくね成形。内外面口縁部には横方向のナデが施される。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 断 にぶい黄褐色 褐灰色	
第57図	111	11	土坑47	土師器	皿	口径 9.2 器高 1.2	手づくね成形。内外面口縁部には横方向のナデが施される。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第57図	112	11	土坑47	土師器	皿	口径 8.2 器高 1.4 底径 6.2	回転台成形。底部は糸切り。内外面口縁部ともにヨコナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 灰白色	
第57図	113	11	土坑47	土師器	皿	器高 1.0 底径 5.4	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部はナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第57図	114	11	土坑47	土師器	皿	器高 1.1 底径 4.6	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部は不定方向のナデ、外面口縁部はヨコナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第57図	115	11	土坑47	土師器	鍋	器高 3.7	受け部状の口縁部をもち、内面底部がやや肥厚する。端部には面取り様のナデ、内外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施す。外面には煤が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	外 灰黄褐色 内 にぶい橙色	
第57図	116	11	土坑47	瓦質土器	鍋	器高 2.7	受け部状の口縁部をもち、内面底部直下に微かな凹線が付く。内外面ともに横方向のナデを施す。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 黄灰色	
第57図	117	11	土坑47	弥生土器	甕	器高 3.5	上に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに縦方向のハケメ後頸部付近まで横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰白色	
第57図	118	11	土坑47	弥生土器	甕	器高 4.9 底径 7.4	内面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のナデを施す。内面には煤が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第59図	119	11	たわみ2	弥生土器	甕	口径 16.7 器高 1.6	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第59図	120	11	たわみ2	弥生土器	甕	器高 3.6	上に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面は縦方向のハケメ後頸部付近まで横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 明褐色～褐灰色	
第59図	121	11	たわみ2	弥生土器	甕	器高 2.7	上に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のナデを施す。外面に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第59図	122	11	たわみ2	弥生土器	高坏	器高 12.2 底径 10.2	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面は縦方向のヘラミガキ後頸部付近まで横方向のナデ、内面はナデを施す。外面全体に赤色顔料を塗布する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 赤色 内 灰白色	
第59図	123	11	たわみ2	土師器	皿	口径 7.4 器高 1.3 底径 5.0	回転台成形。底部は回転ヘラ切りか。内面底部は不定方向のナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第59図	124	11	たわみ2	瓦質土器	鍋	口径 28.9 器高 4.2	受け部状の口縁部をもち、内面底部直下に凹線が付く。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 灰白色	
第60図	125	11	溝28	土師器	坏	口径 15 器高 3.8	回転台成形。外面はヨコナデを施し凹凸が顕著に残る。内面はヨコナデ後ナデを施し凹凸を磨り消す。外面に煤が付着する。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第60図	126	11	溝28	土師器	皿	口径 8.8 器高 1.9	回転台成形。内外面ともにヨコナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第60図	127	11	溝28	土師器	皿	口径 8.0 器高 1.5	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第60図	128	11	溝28	土師器	鍋	口径 30.5 器高 10.2	口縁部はくの字状に屈曲し、端部は引き上げられる。端部と内面全体に横方向のハケメ、外面は縦方向のハケメ後横方向のハケメを施す。外面には煤が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	外 黒褐色 内 にぶい黄褐色	
第60図	129	11	溝28	須恵器	甕	器高 10.6	外面には格子状の叩き、内面には横方向のナデを施す。	密	良好	内外 灰黄色	
第60図	130	11	溝28	青花	皿	器高 1.6 底径 5.8	端反りの皿か。畳付け部分のみ露胎。2次火を受け内外面の文様が失われる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 にぶい黄褐色	
第60図	131	11	溝28	縄文土器	鉢	器高 2.4	外面口縁部直下には連続した刺突文を施す断面形が三角形を呈す刻目付貼付突帯文が付く。内外面ともにナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 黒褐色	
第60図	132	11	溝28	青磁	壺?	器高 1.7	肥前系。	密	良好	胎土 灰白色 釉 明オリープ灰	
第61図	133	11	石列2	土師器	坏	器高 1.6 底径 6.1	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部には不定方向のナデを施す。内面底部に同心円状の凹凸がみられる。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第61図	134	11	石列2	土師器	坏	口径 14.1 器高 2.1	回転台成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	

表6 門前上屋敷遺跡土器観察表(5)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第61図	135	11	石列2	土師器	坏	器高 1.5 底径 4.6	回転台成形。外面底部との境に段を有す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第61図	136	11	石列2	弥生土器	甕	器高 3.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条以上の凹線文を施す。外面頸部には連続した刺突文を配す貼付突帯文が付く。内外面ともに横方向のナデを施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第63図	137	11	遺構外	弥生土器	甕	口径 15.4 器高 3.3	上下に拡張した口縁部をもち、2条の沈線文を施す。口縁部は横方向のナデ、内面体部はハケメを施す。内外面ともに煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰黄褐色	
第63図	138	11	遺構外	弥生土器	甕	器高 4.0	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の沈線文を施す。内外面ともに縦方向のハケメを施した後、頸部付近まで横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	外 灰黄色 内 にぶい黄色	
第63図	139	11	遺構外	弥生土器	甕	器高 2.4 底径 4.7	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ後底面付近まで横方向のナデ、内面はナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 褐灰色	
第63図	140	11	遺構外	須恵器	坏身	器高 2.3	内外面ともにヨコナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 灰色	
第63図	141	11	遺構外	須恵器	坏	器高 1.9 底径 10.8	外面底部のやや内側に貼付による高台が付く。器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 緑灰色	
第63図	142	11	遺構外	須恵器	壺	器高 3.3 底径 8.2	底部は回転系切り。内外面体部はヨコナデを施す。内面は凹凸が顕著にみられる。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 灰色	
第63図	143	11	遺構外	土師器	坏	器高 2.2 底径 7.4	回転台成形。底部は糸切り後ナデ、内面底部は不定方向のナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	内外 明黄褐色	
第63図	144	11	遺構外	土師器	坏	器高 1.6 底径 6.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。2次火を受けた可能性がある。	密	良好	内外 橙色	
第63図	145	11	遺構外	土師器	坏	器高 1.6 底径 6.8	回転台成形。外面底部との境に段を有す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第63図	146	11	遺構外	土師器	坏	器高 2.1 底径 6.2	回転台成形。外面底部との境に段を有す。内外面口縁部はヨコナデを施す。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 灰白色	
第63図	147	11	遺構外	土師器	坏	器高 1.1 底径 5.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともに煤が付着する。外面底部に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密	良好	内外 黄褐色	
第63図	148	11	遺構外	土師器	坏	器高 2.1 底径 6.4	回転台成形。外面底部との境に段を有す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 断 浅黄褐色 褐灰色	
第63図	149	11	遺構外	土師器	坏	器高 2.0 底径 5.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	外 にぶい黄褐色 内 浅黄褐色	
第63図	150	11	遺構外	土師器	皿	口径 8.0 器高 2.2 底径 6.0	回転台成形。底部は回転系切り。外面体部に糸切りの失敗した跡がみられる。内面底部はナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第63図	151	11	遺構外	土師器	皿	口径 7.6 器高 1.7 底径 6.8	回転台成形。底部は糸切り。内外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	内外 淡黄色	
第63図	152	11	遺構外	土師器	皿	口径 7.8 器高 1.5 底径 5.9	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部には不定方向のナデ、内外面口縁部にはヨコナデを施す。外面に粘土接合痕がみられる。	密	良好	内外 灰白色	
第63図	153	11	遺構外	土師器	皿	口径 8.4 器高 1.5 底径 6.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。外面に赤色顔料を塗布した痕跡がみられる。	密	良好	内外 明赤褐色	
第63図	154	11	遺構外	土師器	皿	口径 7.8 器高 1.6 底径 6.2	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 明赤褐色	
第63図	155	11	遺構外	土師器	皿	口径 8.0 器高 1.4 底径 5.8	回転台成形。底部は回転系切り。口縁部内外面にはヨコナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	外 明黄褐色 内 にぶい褐色	
第63図	156	11	遺構外	土師器	皿	口径 6.9 器高 1.5 底径 5.1	回転台成形。外面底部は切り離し後ナデ、内面は不定方向のナデ、外面口縁部はヨコナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第63図	157	11	遺構外	土師器	坏	器高 1.1 底径 4.3	回転台成形。底部は回転ヘラ切り。内面底部は不定方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 明黄褐色	
第63図	158	11	遺構外	土師器	坏	器高 1.0 底径 5.0	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部には稲初めの圧痕が付く。外面底部との境に段を有す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 灰白色	
第63図	159	11	遺構外	土師器	皿	口径 7.4 器高 1.5	手づくね成形。口縁部は横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第64図	160	11	遺構外	土師器	鍋	口径 28.0 器高 6.4	くの字状に屈曲し、やや湾曲する口縁部をもち、外面は縦方向のハケメ後頸部付近まで横方向のナデを施す。内面は横方向のハケメ後肩部付近まで横方向のナデを施す。外面には煤が付着する。	密	良好	外 黒褐色 内 褐色	
第64図	161	11	遺構外	土師器	鍋	口径 28.0 器高 9.6	くの字状に屈曲する口縁部をもち、端部は上に引き上げられる。端部と内面全体に横方向のハケメ、外面は縦方向のハケメ後横方向のハケメを施す。外面には煤が付着する。	密	良好	外 黒褐色 内 明黄褐色 断 褐灰色	
第64図	162	11	遺構外	土師器	鍋	口径 24.2 器高 6.1	くの字状に屈曲する口縁部をもち、外面口縁部は横方向のナデ、体部はハケメ後ナデ、内面全体はハケメ後ナデを施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 黒褐色 内 にぶい黄褐色	
第64図	163	11	遺構外	瓦質土器	鍋	器高 5.0	受け部状の口縁部をもち、端部は面取り様のナデを施し、内側が突出する。内外面口縁部はヨコナデ、内面体部はハケメ、内側はナデを施す。外面には煤が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 断 褐灰色 灰白～黒色	
第64図	164	11	遺構外	瓦質土器	羽釜	器高 3.6	内湾して立ち上がる口縁部をもち、外面口縁部の直下に鐙が付く。端部は横方向のナデにより凹み、内側は引き出される。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 断 灰色 灰白色	
第64図	165	11	遺構外	瓦質土器	鉢	口径 31.0 器高 4.6	端部は外傾し、内側がやや上に拡張する。内面は横方向のハケメ、外面はナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 黒褐色	
第64図	166	11	遺構外	土師器	風炉	口径 27.6 器高 5.5	口縁部は直立し、端部は水平となる。口縁部の境には突帯が付く。外面口縁部には連子紋が施される。内外面は横方向のナデを施す。	密	良好	外 淡黄色 内 橙色	

表7 門前上屋敷遺跡土器観察表(6)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第64図	167	11	遺構外	須恵器	甕	口径 31.6 器高 3.5	外反する口縁部をもつ。外面端部直下には1条の凹線が付く。外面は縦方向のハケメ後横方向のナデ、内面は横方向のナデを施す。	密	良好	内外 灰色	
第64図	168	11	遺構外	須恵器	甕	器高 6.4	内外口縁部は横方向のナデ、外面体部は格子状の叩き、内面は横方向のナデを施す。勝間田系。	密、長石・雲母を含む	不良	内外 灰白色	
第64図	169	11	遺構外	須恵器	甕	器高 4.3	外面には格子状の叩き、内面には横方向のナデ、ハケメが施される。勝間田系。	密	不良	内外断 灰白色 褐灰色	
第64図	170	11	遺構外	白磁	碗	器高 1.6	白磁碗 類。口縁部は玉縁状を呈する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第64図	171	11	遺構外	白磁	碗	器高 2.3	白磁碗 類。口縁部は玉縁状を呈する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第64図	172	11	遺構外	白磁	皿	口径 11.8 器高 2.7	内面は櫛状の工具で文様が施される。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第64図	173	11	遺構外	白磁	碗	器高 3.0 底径 6.6	白磁碗 類。高台は細く高く直立する。高台の一部にまで釉がかかる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 にぶい黄褐色 灰白色	
第64図	174	11	遺構外	青磁	碗	器高 2.8 底径 5.6	龍泉窯系青磁碗。高台内部は露胎。2次火を受けたためか内外面の器面に発泡がみられる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリーブ灰色	
第64図	175	11	遺構外	白磁	合子	器高 2.1 底径 4.8	外面には蓮弁を有す。口縁部外面と内面の一部、底部の外面が露胎している。	密	良好	胎土 灰白-浅黄色 釉 浅黄色	
第64図	176	11	遺構外	青磁	碗	器高 1.7	龍泉窯系青磁皿 類。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリーブ黄色	
第64図	177	11	遺構外	青磁	皿	器高 1.7 底径 5.0	龍泉窯系青磁皿 類。内面見込み部分に櫛状の工具による花文を有す。底部外面の釉は削り取られる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰オリーブ色	
第64図	178	11	遺構外	青磁	碗	器高 3.2 底径 6.4	龍泉窯系青磁碗D類。内面に文様を有す。2次火を受けたためか内外面の器面に発泡がみられる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリーブ灰色	
第64図	179	11	遺構外	青花	皿	器高 1.4	端反りの皿か。高台を持ち、胴部外面と内面見込み部分に文様を描く。2次火を受けたためか内外面の器面に発泡がみられる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 明青灰色、暗青色	
第64図	180	11	遺構外	唐津	碗	器高 3.3 底径 5.0	釉が内外面にかかるが、体部外面の下半から高台部分にかけて露胎。高台は削り出しによる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰黄色	
第64図	181	11	遺構外	唐津	碗	器高 1.8 底径 4.6	唐津。底面には削り出しによる高台が付く。内外面ともに釉がかかる。内面に耐火粘土が付着する。	密、長石を含む	良好	内外断 褐色 にぶい褐色	
第68図	182	12	竪穴住居5	弥生土器	壺	口径 17.0 器高 2.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条以上の凹線文を施す。外面は横方向のナデを施す。内面は器面が剥離し調整不明。	密、石英・長石を多く含む	良好	外 褐色 内 にぶい褐色	
第68図	183	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	口径 13.8 器高 3.3	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後と横方向のナデ、内面は横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	184	12	竪穴住居5	弥生土器	壺	器高 2.3	下に拡張した口縁部をもち、内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・雲母を含む	良好	内外 淡黄色	
第68図	185	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 1.3	上に引き上げられた口縁部をもち、内外面ともにナデを施す。	密	良好	内外 灰黄色	
第68図	186	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	口径 15.8 器高 1.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	187	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	口径 14.6 器高 3.0	上下に拡張した口縁部をもち、器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰黄褐色	
第68図	188	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.0	上下に拡張した口縁部をもち、外面に赤色顔料を塗布する。	密	良好	内外 褐色	
第68図	189	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.0	上下に拡張した口縁部をもち、器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	190	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 3.3	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	外 にぶい黄褐色 内 褐色	
第68図	191	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	192	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.5	上に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	193	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	194	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条以上の凹線文を付く。外面頸部には刺突文を配す貼付突帯文が付く。	密、石英・長石を含む	良好	内外 褐色	
第68図	195	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.0	上下に拡張した口縁部をもち、内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい黄色	
第68図	196	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 1.9	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 灰白色	
第68図	197	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 1.8	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の沈線文を施す。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	198	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。内面に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密	良好	内外 浅黄色	
第68図	199	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 1.9	上下に拡張した口縁部をもち、そこに1条の沈線文、2条の平行沈線文を施す。内外面ともにナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	200	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 3.1	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	内外断 褐色 にぶい黄褐色	
第68図	201	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.8	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。内面に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密、0.5-1mm程度の雲母、石英を含む	良好	内外 浅黄色	
第68図	202	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.5	くの字状に屈曲した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	

表8 門前上屋敷遺跡土器観察表(7)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第68図	203	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.6	くの字状に屈曲した口縁部をもち、そこに3条以上の凹線ないしは沈線文を施す。器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 灰黄色	
第68図	204	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.7	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条以上の凹線ないしは沈線文を施す。器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	205	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 3.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面口縁部は横方向のナデ、内面肩部までヘラケズリを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第68図	206	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 3.3	上に拡張した口縁部をもち、器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外断 にぶい黄褐色 褐灰色	
第68図	207	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.2	口縁部直下に焼成前の穿孔を配す。内外面ともにナデを施す。	密	良好	外内 にぶい黄褐色 にぶい橙色	
第68図	208	12	竪穴住居5	弥生土器	壺	器高 6.0	外面にはハケメ後4条1単位の櫛描波状文と横方向の沈線文、内面はナデを施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、長石を少し含む	良好	内外 灰黄色	
第68図	209	12	竪穴住居5	弥生土器	壺	口径 7.8 器高 3.1	外面に3条以上の凹線文を施す。外面肩部に連続した刺突文、外面脚部に11条以上の沈線文を施す。外周脚部に赤色顔料を塗布する。	密	良好	内外断 にぶい黄褐色 褐色	
第68図	210	12	竪穴住居5	弥生土器	壺	器高 3.8 底径 9.8	内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外断 にぶい黄色 褐色	
第68図	211	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 4.6 底径 6.2	内面底部に縦方向のナデを施す。外面は器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	外内断 にぶい黄褐色 にぶい橙色	
第68図	212	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.8	内外面ともにナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	外内断 にぶい褐色 灰黄色	
第68図	213	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.2 底径 5.1	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。外面には煤が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 暗灰黄色	
第68図	214	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 3.1 底径 5.4	外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のナデを施す。外面底部は2次火のために器面が剥離する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外断 にぶい黄褐色	
第68図	215	12	竪穴住居5	弥生土器	甕	器高 2.2 底径 6.3	内外面ともにナデを施す。内面には煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外断 にぶい黄褐色	
第76図	216	12	遺構外	須恵器	蓋	器高 2.0	宝珠状のつまみ部分。	密	不良	内外 灰白色	
第76図	217	12	遺構外	須恵器	坏	器高 2.1 底径 10.6	外面底部の境に貼付による高台が付く。内面底部は一定方向のナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 明晴灰色	
第76図	218	12	遺構外	須恵器	高坏	器高 1.9	内外面ともにナデ。	密	良好	内外 灰色	
第76図	219	12	遺構外	緑釉陶器	坏	器高 1.2 底径 6.4	底部には高台が付く。内面と体外外面に釉がかかり、内面見込みに段・文様らしき沈線有す。	密	良好	胎土 灰色 釉 灰オリブ色	
第78図	220	12	掘立柱建物4	須恵器	坏	器高 2.1	口縁部内側がやや肥厚する。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰色	
第78図	221	12	掘立柱建物4	陶器	坏	器高 1.7	内面と外面口縁部に釉がかかる。内外ともにヨコナデを施す。瀬戸美濃産か。	密、瀬戸美濃のものに近似	良好	釉 灰オリブ色 赤褐色 胎土 灰白色	
第80図	222	12	土坑53・54	染付	皿	口径 13.4 器高 2.6	内外面ともに施釉し、内面に文様を施す。	密	良好	内外 灰白色	
第82図	223	12	遺構外	土師器	皿	器高 2.3 口径 9.9	回転成形。内面底部はナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第82図	224	12	遺構外	土師器	皿	口径 11.0 器高 2.2	回転成形か。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外断 にぶい橙色	
第82図	225	12	遺構外	土師器	皿	器高 1.8	回転成形か。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外断 にぶい橙色	
第82図	226	12	遺構外	土師器	坏	器高 1.5 底径 6.0	回転成形。底部は静止系切りか。器面が摩滅し調整不明。	密	良好	外 黄灰色 内 灰白色	
第82図	227	12	遺構外	土師器	皿	器高 0.6	回転成形。底部は回転系切り。内面底部はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外断 にぶい橙色	
第82図	228	12	遺構外	土師器	皿	口径 1.3 器高 7.6	回転成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。器壁は薄い。	密	良好	内外断 浅黄褐色	
第82図	229	12	遺構外	備前焼	播鉢	器高 3.3	備前 A期。端部内側が上へのび、外側がやや突出する。内面には卸目が付く。	密、石英・長石・橙色粒を含む	良好	外 赤褐色 内 褐灰色	
第82図	230	12	遺構外	瀬戸	卸皿	器高 1.8 底径8.0	古瀬戸中期か。内面に卸目を有す。底部は回転系切り。内外面の一部に釉がかかる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ灰色	
第86図	231	14・15	竪穴住居7	弥生土器	壺	口径 22.2 器高 6.1	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。口縁部内面には2条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外断 橙・褐灰色	
第86図	232	14・15	竪穴住居7	弥生土器	甕	口径 21.9 器高 9.3	上に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後横方向のナデを施す。内面は肩部までヘラケズリを施す。	密、長石・石英・雲母・橙色粒を含む	良好	内外断 にぶい黄褐色	
第86図	233	14・15	竪穴住居7	弥生土器	甕	口径 17.4 器高 12.2	上に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面は丁寧なナデを施した後縦方向のヘラミガキを施す。内面は体部の中位までヘラケズリを施す。外面に煤が付着。	密、長石を多く含む、雲母を少し含む	良好	外内断 灰褐色 浅黄褐色	
第86図	234	14・15	竪穴住居7	弥生土器	甕	口径 16.6 器高 6.0	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面は肩部までヘラケズリが施される。外面の一部に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外断 浅黄褐色	
第86図	235	14・15	竪穴住居7	弥生土器	甕	口径 25.4 器高 10.2	上に拡張した口縁部をもち、そこに2条の沈線文を施す。外面は叩き後ナデ、縦方向のヘラミガキ風の工具によるナデ(条痕)を施す。内面は頸部付近まで横方向のヘラケズリを施す。体部には黒斑がみられる。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外断 にぶい黄褐色	
第86図	236	14・15	竪穴住居7	弥生土器	甕	口径 15.6 器高 2.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。外面頸部には連続した刺突文を施す貼付突帯文が付く。内外面ともに横方向のナデを施し、外面口縁部付近に赤色顔料の塗布した痕跡がある。	密、石英・長石を含む	良好	外内断 灰赤色 灰褐色	
第86図	237	14・15	竪穴住居7	弥生土器	甕	口径 14.3 器高 5.0	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内面の頸部付近までヘラケズリが施される。外面は器面が摩滅し調整不明。内面に黒斑が認められる。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外断 浅黄褐色	
第86図	238	14・15	竪穴住居7	弥生土器	甕	口径 13.0 器高 2.9	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面頸部以下にハケメを施す。他は横方向のナデ。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外断 浅黄褐色	

表9 門前上屋敷遺跡土器観察表(8)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	
	第86図	239	14・15	竪穴住居7	弥生土器	壺	器高 6.1 底径 7.1	内面に縦方向のヘラズリを施す。外面は器面が摩滅し調整不明。外面に黒斑が認められる。	密、石英・長石を多く含む	良好	外内 ぶい黄褐色 褐灰色	
	第86図	240	14・15	竪穴住居7	弥生土器	壺	器高 3.3 底径 7.0	外面底部はハケメ、内面はナデを施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外内 浅黄褐色 褐灰色	
	第86図	241	14・15	竪穴住居7	弥生土器	壺	器高 2.8 底径 7.8	底面及び底部内面にはナデを施し、底部外面にはヘラミガキを施す。	密、石英・長石を多く含む	良好	外内 黒褐色 灰黄褐色	
	第88図	242	14・15	竪穴住居8	弥生土器	甕	口径 21.6 器高 3.7	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに4条の凹線文を施す。内面は頸部まで横方向のヘラズリを施す。外面は器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 ぶい橙色	
	第88図	243	14・15	竪穴住居8	弥生土器	甕	口径 18.2 器高 2.4	上に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデ、内面の一部に赤色顔料を塗布した痕跡がみられる。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄褐色	
	第88図	244	14・15	竪穴住居8	弥生土器	甕	口径 16.0 器高 4.6	上に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後ナデ、内面は肩部付近までヘラズリを施す。	密、石英・長石を少し含む	良好	内外 灰白色	
	第88図	245	14・15	竪穴住居8	弥生土器	甕	口径 16.0 器高 2.7	複合口縁をもち、そこに8条の平行沈線文を施す。	密	良好	外内 ぶい黄褐色 灰白色	
	第88図	246	14・15	竪穴住居8	弥生土器	甕	口径 11.0 器高 4.8	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面頸部には連続した刺突文を施し、その直下に1条の沈線文を配す。内面口縁部は横方向のナデ、内面体部は横方向のヘラズリ後ナデ、外面は器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
	第88図	247	14・15	竪穴住居8	弥生土器	壺	器高 6.3	外面は7条1単位の櫛描沈線文を2段以上施し、その間に7条1単位の櫛描波状文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面は中位まで横方向のヘラズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外内 浅黄褐色 褐色	
	第88図	248	14・15	竪穴住居8	弥生土器	脚部	口径 11.6 器高 5.0	下に拡張した端部をもち、器面が摩滅し調整不明。台付鉢か。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外内 ぶい黄褐色 浅黄-褐灰色	
	第88図	249	14・15	竪穴住居8	弥生土器	壺	器高 4.5 底径 8.0	底部のみ残存。内外面は器面が摩滅し調整不明。2次火を受けており、一部が赤く変色する。	密、石英・長石を少し含む	良好	外内 浅黄褐色 褐灰色	
	第94図	250	14・15	遺構外	縄文土器	鉢	器高 3.8	外面口縁部には文様を意識したのか左上方向への強いナデが認められる。調整は内外面ともにナデ。外面には煤が付着。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外内 黒褐 ぶい黄橙	
	第95図	251	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 26.0 器高 5.2	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面口縁部直下には断面三角形の貼付突帯が付く。内面はハケメ後ナデ、外面は器面が摩滅し不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 ぶい橙色	
	第95図	252	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 24.1 器高 3.3	上下に肥厚した口縁端部をもち、若干引き上げられる。外面口縁部には5条の沈線文を施し、口縁部直下には断面形が三角形の貼付突帯が付く。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外断 灰褐色 褐灰色	
	第95図	253	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 28.0 器高 3.3	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに4条の凹線文を施す。外面はナデ、内面はハケメ後ナデを施す。	密、石英・長石・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 橙色	
	第95図	254	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 21.0 器高 3.2	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに4条の凹線文を施す。内外面ともにナデか。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 ぶい橙色	
	第95図	255	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 16.5 器高 20.9	上下に拡張した口縁端部をもち、4条の凹線文を施した後、連続した刻目状の沈線文を施す。口縁部内面には波状文、頸部外面には8条の凹線文、胴部には5～6条を1単位とした沈線文を3段施し、その間に波状文を配す。調整は内外ともにハケメ、外面に赤色顔料を塗布した痕跡が認められる。	密、長石・石英・雲母を含む	良好	内外 浅黄色	
	第95図	256	14・15	遺構外	弥生土器	壺	器高 8.5	頸部外面に2条の貼付突帯文を施す。外面には縦方向のハケメ、内面の一部には斜め方向のハケメを施す。	密、石英・長石・雲母・橙色粒を含む	良好	内外断 ぶい橙色 褐灰色	
	第95図	257	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 17.0 器高 6.2	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに4条の凹線文を施す。頸部には凹線文を1条以上配す。外面に縦方向のハケメ後ナデ、内面にナデを施す。	密、長石を多く含む	良好	内外 ぶい橙-黒 褐色	
	第95図	258	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 16.8 器高 3.1	複合口縁をもち、そこに6条の沈線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 ぶい黄褐色	
	第95図	259	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 16.0 器高 9.2	複合口縁をもち、そこに6条の沈線文を施す。外面頸部には縦方向のハケメ後2条の沈線文を施す。内面はハケメ後ナデ、内外面口縁部は横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母・褐色粒を含む	良好	内外 浅黄褐色	
	第96図	260	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 16.4 器高 19.0	口縁部はくの字状に屈曲し、端部は引き上げられる。外面は頸部にかけて縦方向のハケメ後、縦方向のヘラミガキを施す。内面は体部の上半部に縦方向のハケメ、下半部に縦方向のヘラミガキを施す。	密、石英・雲母を含む	良好	内外 ぶい黄褐色	
	第96図	261	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 16.0 器高 16.0	口縁部はくの字状に屈折し、端部は引き上げられる。外面は縦方向のハケメ後縦方向のヘラミガキ、内面はハケメ後ヘラミガキを施す。	密、石英・長石・雲母を多く含む	良好	外内 黄灰色 赤灰色	
	第96図	262	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径16.0 器高9.5	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面はハケメ後ナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄褐色	
	第96図	263	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 15.4 器高 10.9	口縁部はくの字状に屈曲し、端部は粘土紐を貼付け上に拡張させ、その外面には凹線文を1条施す。外面は縦方向のハケメ、内面はハケメ後ナデを施す。外面には黒斑が認められる。	密、石英・長石・石英・雲母を含む	良好	内外 浅黄褐色	
	第96図	264	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 16.2 器高 7.4	上下に肥厚した口縁端部をもち、若干引き上げられる。外面には2条の凹線文が施される。内面口縁部はナデ、体部はハケメ、外面は器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄褐色	
	第96図	265	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 14.4 器高 5.5	上下に引き出された口縁端部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面はハケメ後ナデ、内面はナデか。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 ぶい黄褐色	
	第96図	266	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径15.0 器高6.8	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内面口縁部は横方向のナデ、内外面体部は縦方向のハケメを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰白色	
	第96図	267	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 14.0 器高 3.9	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに4条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外断 浅黄褐色 灰褐色	

表10 門前上屋敷遺跡土器観察表(9)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第96図	268	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 14.2 器高 6.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。外面は叩き後縦方向のハケメを施し、肩部付近までナデを施す。内面はハケメ後頸部付近まで横方向のヘラケズリを施す。	密、石英・長石を多く含む	良好	外断 にぶい橙色 褐灰色	
第96図	269	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 17.2 器高 7.2	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面は斜め方向のハケメを施す。外面に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 橙 - 浅黄橙色 内 浅黄橙色	
第96図	270	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径18.0 器高7.0	くの字状に屈曲した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面頸部には連続した刻目を施した貼付突帯文を配す。外面はナデ、内面はハケメ後ナデを施す。外面には煤が付着する。	密、長石・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第96図	271	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 15.9 器高 7.1	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。外面に煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄橙 - 灰黄褐	
第96図	272	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 15.0 器高 8.7	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後ナデ、内面は肩部までヘラケズリを施す。内面には黒斑がみられる。	密、長石、石英、金雲母、輝石を含む	良好	外 浅黄橙 - にぶい黄橙 内 浅黄橙 - 褐灰	
第96図	273	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 17.0 器高 5.3	くの字状に屈曲した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内面頸部との境に凹線状の段が付く。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外断 にぶい橙色 黒褐色	
第96図	274	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径16.6 器高4.0	上下に拡張した口縁部をもち、外面はハケメ後ナデ、内面は頸部付近までヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第96図	275	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径16.0 器高2.4	下に拡張した口縁部をもち、外面はナデ、内面は横方向のヘラミガキを施す。	密、石英・長石・雲母を多く含む	良好	外 橙色 内 黒色	
第96図	276	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 14.0 器高 5.2	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内面頸部以下ハケメ、外面はハケメ後ナデを施す。内外面ともに赤色顔料を塗布する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 橙 - 浅黄橙色	
第96図	277	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 11.5 器高 3.5	上下に拡張した口縁部をもち、外面に1条の凹線文を施す。口縁部内面は強い横方向のナデにより段を有す。内面は頸部までヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第96図	278	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 10.0 器高 5.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこには凹線文2条を施す。外面には縦方向のハケメ、内面には頸部までヘラケズリを施す。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・角尖石・雲母を含む	良好	外 橙色 内 橙 - 浅黄橙色	
第96図	279	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 10.6 器高 5.3	上下に拡張した口縁部をもち、そこに凹線文を施す。内面は頸部までヘラケズリを施す。外面は器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 橙 - にぶい橙色 内 橙色	
第96図	280	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 17.8 器高 3.8	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文と1条の沈線文を施す。内面頸部までヘラケズリを施す。	密、石英・長石・黒色粒・雲母を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第96図	281	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 16.0 器高 3.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともにナデ。	密、石英・長石を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第96図	282	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 19.0 器高 3.2	口縁部のみ残存。内外面に拡張した口縁部をもち、4条の凹線文を施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 橙 - 褐灰色 内 褐灰色	
第96図	283	14・15	遺構外	弥生土器	甕	器高 2.4	口縁部は外側に屈曲する。内面に連続した刺突文を配す。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第97図	284	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 21.2 器高 4.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。外面頸部には連続した刺突文を配す。内面は頸部まで横方向のヘラケズリを施す。	密、長石・橙色粒・小石・雲母を含む	良好	内外 灰白色	
第97図	285	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 18.0 器高 3.3	複合口縁をもち、そこに4条の沈線文を施す。内外面口縁部は横方向のナデ、内面は頸部までヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母・小石・橙色粒を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第97図	286	14・15	遺構外	弥生土器	壺	口径 10.8 器高 5.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2-3条の凹線文を施す。外面肩部には連続した刺突文を配す。内面は頸部付近まで横方向のヘラケズリが施される。外面全体と内面頸部まで赤色顔料を塗布する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 赤褐 - 暗赤灰色	
第97図	287	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 16.2 器高 5.0	複合口縁をもち、そこに5条の沈線文を施す。内面は頸部付近までヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母を多く含む	良好	内外 浅黄橙色	
第97図	288	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径15.0 器高3.0	複合口縁をもち、そこに3条の沈線文を施す。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 黒褐色 内 橙色	
第97図	289	14・15	遺構外	弥生土器	甕	口径 15.2 器高 3.7	複合口縁をもち、そこに6条の沈線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 灰黄褐色	
第97図	290	14・15	遺構外	土師器	甕	口径10.4 器高12.6	口縁部はくの字状に屈曲し、外反しながら立ち上がる。頸部に2個1対の焼成前に穿孔した孔を配す。外面は縦方向のハケメ後斜め方向のハケメ、内面は頸部までヘラケズリを施す。	密、長石を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第97図	291	14・15	遺構外	土師器	壺	口径 10.6 器高 2.3	口縁部はくの字状に屈曲し、直線的にのびる。胴部にはヘラケズリが施される。口縁部の外面には赤色顔料の痕跡、内面には黒斑が認められる。	密、石英・長石を含む	良好	内外 橙色	
第97図	292	14・15	遺構外	弥生土器	鉢	口径 13.0 器高 7.1	口縁部は胴部付近で屈曲し、内傾しながら立ち上がり、端部は水平となる。口縁部と屈曲部には連続した刺突文が配される。内外面ともハケメ後ヘラミガキを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第97図	293	14・15	遺構外	弥生土器	脚部	器高 4.4	脚部のみ残存。台付鉢の脚部か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第97図	294	14・15	遺構外	弥生土器	高坏	口径 28.4 器高 3.2	口縁部はやや外反しながら立ち上がり、端部付近で肥厚する。内外面ともに横方向のナデを施す。一部に赤色顔料が塗布された痕跡がある。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第97図	295	14・15	遺構外	弥生土器	高坏	口径 23.0 器高 2.5	上下に肥厚した口縁部をもち、上に引き上げられる。内外面ともにナデか。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第97図	296	14・15	遺構外	弥生土器	器台	口径 2.6 器高 1.7	下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。下端には凹線状の凹みが認められる。内面は横方向のハケメ後端部直下に5状1単位の櫛描波状文を施す。内面に黒斑が認められる。	密、石英・長石、石英を含む	良好	内外 褐灰色	

表11 門前上屋敷遺跡土器観察表(10)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	
	第97図	297	14・15	遺構外	弥生土器	器台	口径41.0 器高4.8	口縁部は大きく外反して立ち上がり、端部は上下に拡張する。そこには4条の凹線文を施す。内面端部直下には6条1単位の櫛描文、その下方には6条1単位の櫛描波状文を施す。内外面はナデを施す。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 浅黄橙色	
	第97図	298	14・15	遺構外	弥生土器	壺	器高6.4 底径8.4	底面にはハケメ、外面底部には縦方向のハケメ、内面にはナデが施される。外面に煤が付着し、内外面に黒斑がみられる。	密、長石・雲母を多く含む	良好	内外 浅黄橙色	
	第97図	299	14・15	遺構外	弥生土器	壺	器高8.0 底径7.6	底面はハケメ、底部は縦方向のハケメを施す。内面の調整は器面が摩滅し不明。外面底部には黒斑、虫が粘土を削り取った痕跡が認められる。	密、石英・橙色粒を含む	良好	外 浅黄橙色 内 褐色	
	第97図	300	14・15	遺構外	弥生土器	壺	器高3.8 底径9.4	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 橙色 内 濃い黄橙色 断 黒褐色	
	第97図	301	14・15	遺構外	弥生土器	壺	器高2.8 底径9.6	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面底部はナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
	第97図	302	14・15	遺構外	弥生土器	甗	器高2.9 底径3.0	突出した底部をもつ。内面はヘラケズリ、外面は不明。外面は2次火を受けたため赤色化し、煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 赤色 内 にぶい黄橙色	
	第97図	303	14・15	遺構外	弥生土器	甗	器高2.5 底径6.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面はナデ。外面に煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 黒褐色 内 にぶい橙色	
	第97図	304	14・15	遺構外	弥生土器	甗	器高3.5 底径6.0	底部には短い脚部が付く。内外面ともにナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 灰褐色	
	第97図	305	14・15	遺構外	弥生土器	甗	器高4.7 底径6.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面は横方向のナデ後縦方向のナデを施す。外面底部に黒斑が認められる。	密、長石・石英を含む	良好	外 灰白色 内 浅黄橙色	
	第97図	306	14・15	遺構外	弥生土器	甗	器高4.3 底径5.4	底部のみ残存。底面及び外面底部はナデ、内面は縦方向のヘラケズリ後一部にナデ。内外面に煤が付着。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 淡橙色	
	第97図	307	14・15	遺構外	弥生土器	壺	器高3.2 底径7.0	内外面は器面が摩滅し調整不明瞭。2次火を受けており、底部は赤く変色する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 赤橙-橙色 内 灰黄褐色	
	第97図	308	14・15	遺構外	弥生土器	壺	器高7.0 底径8.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のナデを施す。外面底部に黒斑が認められる。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
	第97図	309	14・15	遺構外	弥生土器	甗	器高9.3 底径5.0	底面はナデ、底部は縦方向のハケメ後縦方向のヘラミガキ、内面底部は縦方向のヘラミガキを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰褐色	
	第97図	310	14・15	遺構外	弥生土器	甗	器高7.1 底径5.8	内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 にぶい橙色 内 褐灰色	
	第97図	311	14・15	遺構外	弥生土器	壺	器高4.0 底径7.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。底面には黒斑がみられる。	密、石英・長石・雲母を多く含む	良好	外 橙色 内 灰色	
	第97図	312	14・15	遺構外	弥生土器	注口部		内外面ナデ。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
	第101図	313	14・15	掘立柱建物5	須恵器	坏	口径12.6 器高3.9 底径8.5	底部は回転ヘラ切り後ナデ、内面は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰白色	
	第105図	314	14・15	段状遺構1-2	土師器	坏	口径11.6 器高3.0 底径8.2	伯耆国庁2段階。底部を僅かに押圧する。内面底部は不定方向のナデ、内外面口縁部は横方向のナデを施す。内外面に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 赤-にぶい黄 褐色	
	第105図	315	14・15	段状遺構1-2	土師器	坏	器高1.5 底径7.6	外面底部の内側に貼付による高台が付き、静止糸切りの痕跡と考えられる凹凸がみられる。	密、長石・雲母を少し含む	良好	内外 褐色 断 褐灰色	
	第105図	316	14・15	段状遺構1-2	土師器	高坏	器高1.7	坏部と脚部の一部のみ残存。	密、石英・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 褐色	
	第105図	317	14・15	段状遺構1-2	土師器	甗	口径26.6 器高3.3	口縁部はくの字状に屈曲し、端部付近で上方に屈曲する。内面頸部以下ではヘラケズリ、他は横方向のナデが施される。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 灰褐色 内 にぶい褐色 断 褐灰色	
	第105図	318	14・15	段状遺構1-2	土師器	甗	口径26.8 器高3.7	口縁部はくの字状に屈曲し、端部付近で上方に屈曲する。内面頸部以下ではヘラケズリ、他はナデが施される。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
	第105図	319	14・15	段状遺構1-2	土師器	甗	口径32.6 器高2.4	口縁部はくの字状に屈曲し、外反して立ち上がる。内外面口縁部はともに横方向のナデ。内面頸部までヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 褐色	
	第105図	320	14・15	段状遺構1-2	土師器	甗	器高5.1	口縁部はくの字状に屈曲し、外反する。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を多く含む	良好	外 褐色 内 浅黄褐色	
	第105図	321	14・15	段状遺構1-2	土師器	甗	口径16.6器 高3.3	口縁部は大きく外反して立ち上がる。内外面ともにナデを施す。	密、長石・雲母を多く含む	良好	内外 橙-にぶい褐色	
	第105図	322	14・15	段状遺構1-2	土師器	甗	口径25.0器 高5.0	口縁部はくの字状に屈曲し、端部付近で若干上方に上がる。内外面口縁部は横方向のナデ、内面頸部はヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 褐色	
	第105図	323	14・15	段状遺構1-2	土師器	甗	器高3.1	口縁部はくの字状に屈曲し、外反する。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
	第105図	324	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径12.6 器高3.8 底径8.6	内外面ともにヨコナデ。	密	良好	内外 灰白色	
	第105図	325	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径4.8 器高5.5	内外面ともにヨコナデ。	密	良好	内外 黄灰色	
	第105図	326	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高9.5 底径7.6	底部は回転ヘラ切り後ナデ、内面はヨコナデを施す。	密	良好	内外 青灰色	
	第105図	327	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高0.6	底部は回転ヘラ切りで、やや内側に高台が付く。内面はヨコナデ後、十字状のヘラ記号を施す。内面底部は使用のため摩滅している。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 灰白色	
	第105図	328	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高2.5	底部には高台が付く。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰色	
	第105図	329	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径13.5 器高2.5	口縁部はくの字状に屈曲し、内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰色	
	第105図	330	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径6.9 器高4.4 底径9.2	底部のやや内側には高台が付く。内面底部は不定方向のナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。内面底部は使用のため摩滅している。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
	第105図	331	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高2.3 底径7.6	体部との境に高台が付く。内面底部は不定方向のナデ後ヘラ記号が施される。また、使用のため摩滅している。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 灰白色	
	第105図	332	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高3.0 底径7.8	底部はヘラ切り。内外ともにヨコナデが施される。底部のやや内側に高台がつく。高台端部は若干外側へ引き出される。	密、長石を含む	良好	内外 灰色	

表12 門前上屋敷遺跡土器観察表(11)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第105図	333	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 2.9 底径 11.0	体部との境に高台が付く。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 暗青灰色	
第105図	334	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏蓋	口径 18.9 器高 2.1	口縁端部は僅かに下へ屈曲する。天井部は回転ヘラケズリ後頂上部付近でヨコナデ、内面天井部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
第105図	335	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 17.0 器高 3.8	口縁端部が若干外側へ引き出される。内外ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰色	
第105図	336	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 16.4 器高 5.6 底径 10.8	口縁部の中位から下位にかけて凹凸が顕著にみられる。外面底部との境には貼付による高台が付く。	密、石英・長石・雲母を僅かに含む	良好	内外 灰色	
第105図	337	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 3.7 底径 10.0	底部のやや内側にはハの字状に広がる高台が付く。端部はナデにより凹む。底部内面は使用のため摩滅している。	密、石英・長石を僅かに含む	良好	内外 黄灰色	
第105図	338	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 1.9 底径 10.8	底部は糸切り。体部との境に高台が付く。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。底部内面は使用のため摩滅している。	密、石英・長石を含む	良好	内外 緑灰色	
第106図	339	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 14.0 器高 4.6	口縁部は湾曲しながら立ち上がり、端部で若干外側に折れる。内外面ともにヨコナデ、体部内外面に凹凸が顕著にみられる。回転台の方向は左方向。	密、長石を含む	良好	内外 灰色	
第106図	340	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 9.8 器高 3.5	口縁部は湾曲して立ち上がり、端部は内側が若干肥厚する。内外面ともにヨコナデを施す。回転台の方向は右方向。	密、長石を少し含む	良好	内外 暗オリブ灰-灰オリブ色	
第106図	341	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 13.1 器高 3.6 底径 9.0	底部は糸切り。口縁部は湾曲して立ち上がる。端部はハの字状に屈曲し、直下に凹線を有す。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
第106図	342	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 3.6 底径 9.0	底部は糸切りで上げ底となる。口縁部にかけて湾曲して立ち上がる。内外面体部はヨコナデ、内面底部はナデ、外面底部には植物の茎状の圧痕がみられる。	密	良好	内外 にぶい褐色	
第106図	343	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 2.0 底径 9.0	底部は回転糸切り。内面底部には不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 灰オリブ色	
第106図	344	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 1.8 底径 8.6	底部は回転糸切りで若干上げ底となる。外面はヨコナデ、内面は不定方向のナデを施す。	密、長石を少し含む	良好	内外 黄灰色	
第106図	345	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 1.1 底径 9.4	底部は糸切り。外面はヨコナデ、内面は不定方向のナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 灰色	
第106図	346	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 11.8 器高 4.2 底径 8.4	底部は回転糸切り。器面には空気の膨張による歪がみられる。外面底部は糸切り後に茎状の圧痕が付く。内面底部と外面口縁部に凹凸が顕著にみられる。内外面ともにヨコナデ。回転台の方向は右方向。	密	良好	内外 灰色	
第106図	347	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 12.6 器高 3.6 底径 8.5	底部は糸切り。口縁端部はハの字状に屈曲し、直下に凹線を有す。内外面口縁部はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
第106図	348	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 2.4 底径 7.4	底部は回転糸切り。内面底部は不定方向のナデ、内外面体部はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
第106図	349	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 12.0 器高 3.4 底径 7.8	底部は糸切り。口縁端部は外反し、直下に明瞭な凹線を有す。底部内面は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 青灰色	
第106図	350	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 11.4 器高 4.3 底径 7.8	口縁部は湾曲して立ち上がり、端部付近で外反し、直下に段を有す。内外面体部はヨコナデ、外面底部は回転糸切り後不定方向のナデ、内面底部は不定方向のナデを施す。	密	良好	内外 青灰色	
第106図	351	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	口径 2.3 器高 4.0	底部は回転糸切り。内面底部は不定方向のナデ、外面体部はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	不良	外 橙色 内 黄灰色	
第106図	352	14・15	段状遺構1-2	須恵器	坏	器高 1.2 底径 7.6	底部は糸切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデか。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密	良好	内外 灰黄色	
第106図	353	14・15	段状遺構1-2	須恵器	壺	器高 4.7 底径 11.0	底面は不定方向のナデ、他はヨコナデ。底面に煤が付着する。	密	良好	内外 灰白色	
第106図	354	14・15	段状遺構1-2	須恵器	高坏	器高 8.8	内外面ともにヨコナデ。外面には沈線がめぐり、内面には自然釉が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色 釉 オリブ黄色	
第106図	355	14・15	段状遺構1-2	須恵器	甕	口径 18.6 器高 3.4	外面は平行叩き後横方向のナデ、内面は横方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
第106図	356	14・15	段状遺構1-2	須恵器	横瓶	器高 5.9	外面には平行叩き、内面には同心円状の当具痕が残る。内面に釉が付着する。	密、長石・雲母を僅かに含む	良好	外 黒褐色 内 オリブ黒色 断 灰白色	
第107図	357	14・15	遺構外	土師器	甕	口径 26.4 器高 3.5	口縁部はハの字状に屈曲し、外反する。内外面口縁部にはナデ、内面頸部はヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第107図	358	14・15	遺構外	土師器	甕	口径 26.4 器高 4.1	口縁部はハの字状に屈曲し外反する。内外面口縁部には横方向のナデ、内面頸部はヘラケズリを施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第107図	359	14・15	遺構外	土師器	甕	口径 29.2 器高 3.7	口縁部はハの字状に屈曲し外反する。内外面口縁部は横方向のナデ、内面は頸部までヘラケズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第107図	360	14・15	遺構外	土師器	甕	口径 28.6 器高 3.2	口縁部はハの字状に屈曲し、端部付近で上に屈曲する。内面頸部付近までヘラケズリ、他はナデを施す。外面に煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第107図	361	14・15	遺構外	須恵器	坏蓋	口径 12.0 器高 0.4	外面天井部はヘラ切り不調整、内面天井部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密	良好	内外 暗青灰色	
第107図	362	14・15	遺構外	須恵器	坏蓋	口径 12.0 器高 1.9	内面口縁部には短いかえりがつく。外面天井部は回転ヘラケズリ、内面は不定方向のナデを施す。内外面体部はヨコナデ。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 灰色	
第107図	363	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 1.9 底径 9.4	体部との境に高台が付く。外面高台の接合部分が残る粗雑。外面はヨコナデ、内面は不定方向のナデ。底面には粘土紐接合痕がみられる。	密	良好	内外 灰色	
第107図	364	14・15	遺構外	須恵器	壺	器高 2.7 底径 8.2	体部との境に高台が付く。高台端部は平坦で、外側に若干張り出す。外面はナデ、内面はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰色	
第107図	365	14・15	遺構外	須恵器	壺	器高 2.4 底径 9.0	体部の境に高台が付く。底部は回転糸切り。内外面ともにヨコナデ、内面底部には釉が付着する。	密、長石を含む	良好	内外 灰色	

表13 門前上屋敷遺跡土器観察表(12)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第107図	366	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 2.1 底径 7.6	体部の境に高台が付く。外面はヨコナデ、内面底部は不定方向のナデ。内面底部は使用のため磨滅する。	密	良好	内外 黄灰色	
第107図	367	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 1.8 底径 10.2	底部に高台が付く。内面は使用のための磨耗が顕著。2次火を受けたのか器面が発泡し、煤が付着する。外面はヨコナデ、内面は不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰色	
第107図	368	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 1.7 底径 8.7	体部との境に高台が付く。高台端部は段が付く。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰白色	
第107図	369	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 3.0 底径 8.0	底部は回転系切り。体部との境には高台が付く。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
第107図	370	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 2.5 底径 10.4	底部は回転系切りで上げ底状となる。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。内面底部は使用のために磨滅する。	密、長石を含む	良好	内外 灰色	
第107図	371	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 2.7 底径 7.5	底部は回転系切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、長石・マンガンを含む	良好	内外 灰色	
第107図	372	14・15	遺構外	須恵器	坏	口径 13.0 器高 3.9	外面口縁部直下に凹線が付く。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 青灰色	
第107図	373	14・15	遺構外	須恵器	坏	口径 11.3 器高 3.3	口縁部は湾曲して立ち上がり、端部付近で内傾する。端部はやや外側へ屈曲し、内面は粘土を貼り付け肥厚させる。内外ともにヨコナデを施し、体部には凹凸が顕著にみられる。口縁部に自然釉が付着する。	密	良好	内外 灰色	
第107図	374	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 3.7 底径 8.0	底部は回転系切り。内面底部には不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 暗青灰色	
第107図	375	14・15	遺構外	須恵器	坏	器高 1.5	内面に線刻を有す。器面が磨滅し調整不明。	密、長石を含む	良好	内外 灰色	
第107図	376	14・15	遺構外	須恵器	高坏	器高 3.7	2方向で対をなす切込みによる透かしを配す。内外ともに横方向のナデを施す。	密、長石を少し含む	良好	内外 灰色	
第107図	377	14・15	遺構外	須恵器	壺	器高 3.2	脚を有すが剥落し不明。外面は平行叩き後ナデ、内面はナデを施す。	密、長石、雲母を少し含む	良好	外 灰色 内 灰白色	
第107図	378	14・15	遺構外	須恵器	壺	器高 3.8 底径 9.0	底部の境に短い高台が付く。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	外 褐色 内 灰色	
第107図	379	14・15	遺構外	須恵器	壺	器高 2.9 底径 10.1	外面は不定方向のナデ、内面はヨコナデ後不定方向のナデを行い凹凸を消す。底部外面と体部の境には高台がつく。	密、長石を少し含む	良好	内外 灰色	
第107図	380	14・15	遺構外	須恵器	皿	口径 14.7 器高 2.3 底径 12.8	外面口縁部直下に強いヨコナデが施され、やや外反するような印象を与える。端部は丸味をもち、やや内傾する。	密	良好	内外 黄灰色	
第107図	381	14・15	遺構外	須恵器	甕	器高 8.8	外面には平行叩き、内面には同心円状の当具痕が残る。	密	良好	内外 灰色	
第107図	382	14・15	遺構外	須恵器	甕	口径 15.4 器高 3.0	内外面ともに横方向のナデを施し、内面口縁部と外面肩部に釉が付着する。	密、長石を含む	良好	外 赤灰色 内 褐色	
第107図	383	14・15	遺構外	須恵器	壺	口径 34.0 器高 3.6	内外面ともに横方向のナデを施し、内面頸部以下に自然釉が付着し、外面には鉄釉が塗布される。	密、石英・長石を含む	良好	外 暗青灰 - 灰色 内 灰色	
第107図	384	14・15	遺構外	須恵器	甕	口径 24.3 器高 4.4	口縁部はくの字状に屈曲し、外反して立ち上がる。内外面ともに横方向のナデ。内面口縁部、外面に釉がかかる。	密	良好	内外 断 灰色 赤灰色	
第107図	385	14・15	遺構外	須恵器	鉢	口径 30.0 器高 3.3	内外面ともに横方向のナデを施す。	密、長石を少し含む	良好	外 灰白色 内 灰色	
第117図	386	14・15	掘立柱建物11	白磁	皿	口径 11.0 器高 2.6	内面見込みに段を有す。	密	良好	胎土 灰白色 釉 明緑灰色	
第118図	387	14・15	柵列 5	土師器	皿	口径 7.9 器高 1.7 底径 5.4	回転台成形。底部は回転系切り後ナデ、板目痕が付く。内面は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を少し含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第121図	388	14・15	土坑63	土師器	坏	口径 13.8 器高 4.0 底径 7.4	回転台成形。底部は回転系切りナデ。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第125図	389	14・15	道路 1・2	土師器	皿	口径 8.6 器高 1.7	回転台成形。底部は系切り後一部にナデを施し、上げ底状となる。内面底部は不定方向のナデで凹凸を消す。他はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第125図	390	14・15	道路 1・2	土師器	鍋	口径 28.0 器高 3.1	くの字状に屈曲する口縁をもつ。外面口縁部の一部にハケメ、外面端部から内面にかけて横方向のハケメを施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 灰褐 内 にぶい橙色	
第125図	391	14・15	道路 1・2	土師器	鍋	口径 31.0 器高 8.1	口縁部は僅かに外側に屈曲する。内面口縁部はナデ、体部は横方向のハケメを施す。外面には押圧の痕跡が顕著にみられ、全体的に煤が付着する。	密	良好	外 にぶい黄橙 - 灰黄橙 内 黄橙 - にぶい黄橙	
第125図	392	14・15	道路 1・2	瓦質土器	鍋	口径 24.6 器高 3.3	受け部状の口縁部をもつ。端部上面は水平で、内側が僅かに突出する。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 黄灰 - 淡黄色	
第125図	393	14・15	道路 1・2	瓦質土器	羽釜	口径 25.6 器高 4.6	口縁部はやや湾曲しながら立ち上がる。口縁部直下には長い罫が付く。外面口縁部は横方向のナデ、体部は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施す。外面には煤が付着する。	密	良好	内外 断 灰黄褐色 にぶい黄褐色	
第125図	394	14・15	道路 1・2	瓷器系	甕	器高 7.0	外面に格子状の叩き、内面にはナデを施す。外面には赤灰色の釉がかかる。	密	良好	胎土 灰赤色 釉 暗赤灰色	
第125図	395	14・15	道路 1・2	白磁	小壺	口径 2.2 器高 0.8	内外面に施釉される。	密	良好	胎土 明灰色 釉 明オリブ灰色	
第126図	396	14・15	P 489	瓦質土器	鍋	器高 2.2	受け部状の口縁部をもつ。端部は水平で、外側がやや引き出される。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 にぶい橙 - 灰白色 内 灰白 - 褐色	
第126図	397	14・15	P 490	瓦質土器	羽釜	器高 4.9	外面口縁部直下に短い罫がつく。外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデを施す。外面体部には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 灰色 内 黄灰色	
第129図	398	14・15	水田 1 内溝	土師器	皿	口径 8.8 器高 1.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面はヨコナデを施す。	密	良好	内外面ともににぶい黄褐色	
第129図	399	14・15	水田 1 内溝	土師器	皿	口径 8.4 器高 1.6 底径 5.1	回転台成形。底部は静止系切り。器壁は薄い。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデか。内外面ともに器面が磨滅し調整不明瞭。端部には煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	
第129図	400	14・15	水田 1 内溝	瓦質土器	羽釜	口径 24.6 器高 4.6	外面口縁部直下に断面三角形の短い罫がつく。口縁部は内傾する。内外面口縁部は横方向のナデ、内外面体部はナデを施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	

表14 門前上屋敷遺跡土器観察表(13)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第129図	401	14・15	水田1内溝	瓦質土器	羽釜	口径 24.1 器高	外面口縁部直下に短い罫が付く。口縁部は横方向のナデ、罫以下は粗いナデ、内面は横方向のナデを施す。	密、砂粒含む	良好	内外とも灰色	
第130図	402	14・15	水田1耕作土	土師器	坏	器高 2.4 底径 7.4	外面底部には高台が付く。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・橙色粒を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第130図	403	14・15	水田1耕作土	土師器	坏	器高 1.8	外面底部には高台が付く。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第130図	404	14・15	水田1耕作土	土師器	坏	器高 2.3 底径 5.4	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部は不定方向のナデ、外面体部はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	外 浅黄橙色 内 にぶい橙色	
第130図	405	14・15	水田1耕作土	土師器	坏	器高 1.8 底径 6.0	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部は一定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第130図	406	14・15	水田1耕作土	土師器	皿	口径 13.3 器高 2.7	手づくね成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 浅基橙色	
第130図	407	14・15	水田1耕作土	褐釉陶器	壺	器高 2.2 底径 9.2	内外面ともに露胎。底部は削り出しによる高台が付く。	密、白色粒・黒色粒を含む	良好	外 浅黄橙色 内 灰白色	
第130図	408	14・15	水田1耕作土	褐釉陶器	四耳壺	器高 18.8 底径 8.4	肩部に耳が付く。底部は削り出しによる高台が付く。内外面に釉が塗布されるが、底面は露胎する。	密	良好	胎土 褐灰色 釉 暗オリーブ～ 灰オリーブ色	
第130図	409	14・15	水田1耕作土	土師器	甕	口径 28.0 器高 3.4	くの字状に屈曲する口縁部をもち、端部は外側に屈曲する。外面は縦方向のハケメ後ナデ、内面は横方向のハケメ後ナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	外 褐灰色 内 にぶい橙色	
第130図	410	14・15	水田1耕作土	土師器	鍋	口径 32.4 器高 2.3	受け部状の口縁部をもち、端部はナデにより平坦となる。内側はやや鋭利となり、後側は丸味をもち、内外面ともに横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰色	
第130図	411	14・15	水田1耕作土	瓦質土器	羽釜	口径 24.8 器高 8.6	外面口縁部直下に短い罫が付く。端部は内傾し、ナデにより凹む。端部外側は若干外側に屈曲し、内面端部直下には凹線が付く。内外外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデが施される。外面に煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
第130図	412	14・15	水田1耕作土	瓦質土器	羽釜	器高 6.0	外面口縁部直下に断面三角形の短い罫がつく。口縁部は内傾し、ナデにより段を有す。内面端部直下には強い横方向のナデによる凹線が付く。内外外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	
第130図	413	14・15	水田1耕作土	瓦質土器	羽釜	器高 5.1	外面口縁部直下に断面三角形の短い罫がつく。口縁部は内傾する。内外外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデを施す。外面に粘土接合痕がみられる。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰色	
第130図	414	14・15	水田1耕作土	須恵器	甕	器高 4.8	くの字状に屈曲する口縁部をもち、内外面ともに横方向のナデを施す。	密	良好	内外 灰褐	
第130図	415	14・15	水田1耕作土	須恵器	甕	器高 4.3 底径 7.3	底面はナデ、他は横方向のナデを施す。外面には粘土紐接合の痕跡が顕著にみられる。やや軟質。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第130図	416	14・15	水田1耕作土	須恵器	鉢?	口径 40.6 器高 5.9	口縁部付近で外側に屈曲する。端部の上面には1条の沈線がめぐる。内外面は横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外断 灰褐色 にぶい赤褐色	
第133図	417	14・15	畠1耕作土	瓦質土器	羽釜	器高 3.8	外面口縁部直下に短い罫が付く。口縁部は内側に屈曲し、端部は内傾する。内面端部直下には凹線が付く。内外外面口縁部は横方向のナデ、内外外面体部はナデを施す。外面には煤が付着する。	密、長石を含む	良好	内外断 灰色 灰白色	
第134図	418	14・15	畠2耕作土	土師器	鍋	器高 4.0	受け部状の口縁部をもち、端部は水平となる。器面が摩滅し内外面ともに調整不明。外面口縁部に煤が付着。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第134図	419	14・15	畠2耕作土	青磁	碗	口径 14.8 器高 2.2	龍泉窯系青磁碗。体部外面に鎗蓮弁文を有す。	密	良好	胎土 灰白色 釉 緑灰色	
第135図	420	14・15	畠3耕作土	備前焼	甕	器高 5.4	内外面ともに横方向のナデ。内面にヘラ記号が施される。	密、長石を多く含む	良好	内外 明赤褐色	
第135図	421	14・15	畠3耕作土	土師器	風炉	口径 31.6 器高 6.6	口縁部は垂直に立ち上がり、端部は水平となる。口縁部の境と胴部に突帯が付き、胴部に透かしが付く。外面口縁部に菊花スタンプ文、胴部に菱形スタンプ文を押し印する。胴部はヘラミガキ、他はナデを施す。内面に煤が付着。	密、砂粒含む	やや不良	外面 褐灰色 内面 黒褐色	
第135図	422	14・15	畠3耕作土	土師器	皿	口径 8.8 器高 2.1 底径 5.0	回転台成形。底部は静止系切り。内面底部は不定方向のナデ、他は内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	外 灰白～赤褐色 内 灰白色	
第135図	423	14・15	畠3耕作土	土師器	坏	器高 1.1 底径 4.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・橙色粒・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第135図	424	14・15	畠3耕作土	陶器	皿?	器高 2.2 底径 6.4	底部は回転系切りか。内外面ともにナデを施す。	密、黒色粒を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第135図	425	14・15	畠3耕作土	土師器	鍋	器高 2.3	受け部状の口縁部をもち、端部は若干膨らむ。端部には面取り風のナデが施される。内外面ともにナデ。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第135図	426	14・15	畠3耕作土	土師器	鍋	口径 35.2 器高 3.3	受け部状の口縁部をもち、端部はやや丸味をもち、外面口縁部は横方向のハケメ後ナデ、内面口縁部は横方向のナデ、外面体部は縦方向のハケメを施す。外面には煤が付着する。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第135図	427	14・15	畠3耕作土	土師器	鍋	口径 28.0 器高 6.8	受け部状の口縁部をもち、端部は平坦で、内側が若干張り出す。外面口縁部はハケメ後横方向のナデ、内面は横方向のナデ、外面体部は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施す。外面には煤が付着する。	密、石英を僅かに含む	良好	内外 浅黄橙色	
第135図	428	14・15	畠3耕作土	瓦質土器	羽釜	器高 4.2	外面口縁部直下に短い罫がつく。端部は内傾し、横方向のナデにより段を有す。内面端部直下には微かな凹線が付く。内外外面口縁部に横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面はナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第135図	429	14・15	畠3耕作土	瓦質土器	羽釜	口径 27.8 器高 4.8	外面口縁部直下に断面三角形の短い罫が付く。端部は内傾し、外側はやや反する。内面端部直下には微かな凹線が付く。内外外面口縁部は横方向のナデ、内外外面体部はナデを施す。外面体部には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外断 暗灰色 灰白色	

表15 門前上屋敷遺跡土器観察表(14)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考	
	第135図	430	14・15	畠3耕作土	瓦質土器	羽釜	口径 28.0 器高 8.4	外面口縁部直下に断面三角形の短い鐙が付く。端部は丸く外側に屈曲する。内面端部直下に明瞭な凹線を有す。内外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデを施す。外面に煤が付着する。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外 灰色	
	第135図	431	14・15	畠3耕作土	瓦質土器	鉢	口径 27.8 器高 6.8	玉縁状の口縁部をもつ。口縁部は横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデを施す。	密、石英を少し含む	良好	外内 灰白色 暗青灰色	
	第135図	432	14・15	畠3耕作土	白磁	皿	口径 12.8 器高 2.7	口縁部のみ残存。内面に沈線を有す。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
	第135図	433	14・15	畠3耕作土	白磁	碗	口径 1.6 底径 6.0	白磁碗 類。壘付け、高台内面は露胎。	密、黒色粒を含む	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
	第135図	434	14・15	畠3耕作土	青磁	碗	口径 15.6 器高 3.8	龍泉窯系青磁碗 類。内面に片彫蓮花文を有す。	密	良好	内外 灰オリブ色	
	第135図	435	14・15	畠3耕作土	青磁	碗	口径 10.0 器高 2.3	龍泉窯系青磁碗 類。内面に片彫蓮花文を有す。	密	良好	内外 灰オリブ色	
	第135図	436	14・15	畠3耕作土	青磁	碗	口径 2.7 底径 5.6	龍泉窯系青磁碗 類。底部内面に片彫の文様を有す。高台の壘付け、内面は露胎。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ灰	
	第135図	437	14・15	畠3耕作土	青磁	碗	口径 1.9 底径 5.2	龍泉窯系青磁碗 類。高台の壘付け、内面は露胎。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ灰色	
	第136図	438	14・15	畠3耕作土	須恵器	甕	口径 40.0 器高 4.8	口縁部はくの字状に屈曲し、外反しながら立ち上がる。内外面口縁部はナデ、外面肩部は格子状の叩き、内面はナデを施す。外面口縁部、内面頸部以下に釉が付着し、内面口縁部に粘土が付着。勝間田系。	密	良好	内外 灰白色-暗灰色	
	第136図	439	14・15	畠3耕作土	須恵器	甕	器高 10.3	外面はハケメ、内面はハケメ後ナデを施す。勝間田系。	密	良好	内外 灰色	
	第136図	440	14・15	畠3耕作土	須恵器	甕	器高 7.8	外面は格子状の叩き後頸部付近をナデ消す。内面は工具によるナデを施す。勝間田系。	密	良好	外 灰白色 内 灰色	
	第136図	441	14・15	畠3耕作土	須恵器	甕	器高 9.5	外面には格子状の叩き、内面にはハケメを施す。	密	良好	内外断 黄灰色 にぶい赤褐色	
	第136図	442	14・15	畠3耕作土	瓷器系	甕	器高 7.7	外面に格子状の叩きを一部に施す。	密、石英、長石を含む。	良好	外 にぶい赤褐色 内 赤灰色	
	第141図	443	14・15	溝29	土師器	坏	口径 2.0 器高 6.4	底部は回転系切り。体部外面の調整はヨコナデ。底部内面はナデにより凹凸を消す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
	第141図	444	14・15	大畦畔1	瓦質土器	鍋	口径 29.4 器高 4.7	受け部状の口縁部をもち、端部付近で肥厚する。端部上面はナデによりやや凹み、端部外側は張り出す。内外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデを施す。	密	良好	内外断 暗灰色 灰白色	
	第141図	445	14・15	溝29	瓦質土器	鍋	口径 27.8 器高 3.3	受け部状の口縁部をもち、端部は平坦で内側がやや引き出される。内外面に横方向のナデを施す。	密、長石を少し含む	良好	胎土 灰白色 内外 灰色	
	第141図	446	14・15	溝29	土師器	鍋	器高 3.0	受け部状の口縁部をもち、端部付近で若干膨らむ。端部はナデにより若干凹む。内外ともにハケメ後ナデを施す。外面には煤が付着する。	密、長石を含む	良好	内外 浅黄橙色	
	第141図	447	14・15	溝29	瓦質土器	羽釜	口径 23.7 器高 8.1	口縁部直下に短い鐙が付く。端部は内傾し、丸味をもつ。内面端部直下には横方向のナデにより凹線状の凹みが付く。外面体部は粗いナデ、内面体部は丁寧なナデを施す。外面体部には煤が付着する。	密、長石・石英・雲母を含む	良好	内外 淡黄色 黄灰色	
	第141図	448	14・15	溝29	瓦質土器	羽釜	口径 21.8 器高 5.1	口縁部直下には短い鐙が付く。端部は内傾し、その直下にはナデによる凹線が付く。外面体部は粗いナデ、内面は丁寧なナデを施される。外面には煤が付着する。	密、石英・長石を多く含む	良好	外 浅黄橙色 内 灰白色	
	第141図	449	14・15	溝29	瓦質土器	羽釜	口径 24.5 器高9.6 底径10.8	内外面は横方向のナデを施す。内面には5条1単位の節目が付く。	密	良好	内外面とも灰白-暗黄灰色	
	第141図	451	14・15	溝30	白磁	碗	口径 2.7	白磁碗 類。口縁部は小さな玉縁状を呈する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
	第141図	452	14・15	溝29	白磁	碗	口径 1.8 底径 3.5	白磁碗 類。高台部分は露胎。	密	良好	胎土 灰白色 釉 淡黄色	
	第144図	453	14・15	層	土師器	坏	口径 1.9 底径 6.2	回転台成形。底部は糸切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石・褐色粒を含む	良好	内外 橙色	
	第144図	454	14・15	層	土師器	坏	口径 2.1 底径 5.3	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともにヨコナデ。	密、長石を含む	良好	内外 灰色	
	第144図	455	14・15	層	土師器	鍋	口径 3.6	受け部状の口縁部をもち、内外面ともに横方向のナデを施す。外面には煤が付着する。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
	第144図	456	14・15	層	瓦質土器	羽釜	口径 2.5	外面口縁部直下に鐙が付く。端部は外傾する。内外面口縁部に横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 黄灰-灰色	
	第144図	457	14・15	層	瓦質土器	羽釜	口径 19.0 器高 5.8	口縁部直下に短い鐙が付く。端部は内傾し、丸味をもつ。内面端部直下には横方向のナデにより凹線状の凹みを有す。外面体部は粗いナデ、内面体部は丁寧なナデを施す。外面体部には煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	
	第144図	458	14・15	層	須恵器	甕	口径31.0 器高7.0	口縁部はくの字状に屈折し、端部付近でさらに外反する。内外面口縁部は横方向のナデ、外面肩部は幅の広い格子状叩き後、横方向のナデを施す。内面肩部は縦方向のハケメを施す。	密、長石・褐色粒を含む	良好	外 褐灰色 裏 黄灰色	
	第145図	459	14・15	層	青磁	碗	口径 14.4 器高 2.5	龍泉窯系青磁碗。体部外面に鎗蓮弁文を有す。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰オリブ色	
	第146図	460	14・15	~ 層	土師器	皿	口径 8.6 器高 1.5 底径 7.0	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内外面ともにヨコナデ。	密、雲母を含む	良好	内外 橙色	
	第146図	461	14・15	~ 層	白磁	碗	口径 1.8 底径 7.0	白磁A類か。内外面施釉。壘み付け・高台内は露胎。	密	良好	内外 灰白色	
	第146図	462	14・15	~ 層	土師器	皿	口径 7.4 器高1.8 底径 5.0	回転台成形。底部は回転系切りか。内外面はヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
	第146図	463	14・15	~ 層	土師器	皿	口径 6.4 器高2.3 底径 5.8	回転台成形。底部は回転系切り。内外面はヨコナデを施す。	密、砂粒を含む	良好	内外 黄褐色	

表16 門前上屋敷遺跡土器観察表(15)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第146図	464	14・15	～層	土師器	皿	口径 8.4 器高 11.0 底径 3.4	手づくね成形。口縁部外面、内面全体に横方向のナデを施す。内外面全体に煤が吸着し、口縁部には油分を燃焼してできた煤が付着する。	密、石英を僅かに含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第146図	465	14・15	～層	瓦質土器	羽釜	口径 21.4 器高 3.7	口縁部直下に短い鑊が付く。外面口縁部は横方向のナデ、体部は粗いナデ、内面はナデを施す。	密、砂粒を含む	良好	外 オリーブ灰色 内 灰黄褐色	
第146図	466	14・15	～層	瓦質土器	播鉢	口径 31.2 器高 9.7	外面口縁部に2条の沈線を施す。体部は粗いナデ、内面は横方向のナデを施す。内面には8～9条の粗い節目が付く。外面底部に煤付着。	密、石英を僅かに含む	良好	外 灰～オリーブ黒色 内 オリーブ黒色	
第147図	467	14・15	層	黒色土器	坏	口径 7.0 器高 1.2 底径 4.8	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデ。内黒焼成。外面煤付着。	密	良好	外 明黄褐色 内 褐灰色	
第147図	468	14・15	層	土師器	坏	口径 9.0 器高 1.5 底径 6.4	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデ。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第147図	469	14・15	層	土師器	皿	口径 14.9 器高 2.8	回転台成形。底部は糸切りか。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第147図	470	14・15	層	白磁	碗	口径 24.9 器高 1.8	白磁碗類。口縁部は長い扁平な玉縁状を呈する。外面の釉が発泡する。	密、黒色粒を含む	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第147図	471	14・15	層	土師器	鍋	口径 34.6 器高 5.2	くの字状に屈曲する口縁部をもち、端部はやや内傾する。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第147図	472	14・15	層	土師器	鍋	口径 26.2 器高 4.6	受け部状の口縁部をもつ。端部はやや丸味をもつ。口縁部外面は横方向のハケメ後ナデ、内面・体部外面はナデを施す。外面には煤が付着。	密、石英・雲母を僅かに含む	良好	内外 にぶい橙色	
第147図	473	14・15	層	瓦質土器	鍋	口径 30.0 器高 5.7	受け部状の口縁部をもち、端部はやや丸味をもつ。内外面に横方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白～黒褐色	
第147図	474	14・15	層	瓦質土器	羽釜	口径 22.2 器高 4.4	外面口縁部直下に断面三角形の短い鑊が付く。口縁部は内傾し、ナデによりやや凹む。内外面口縁部に横方向のナデ、内外面体部にナデを施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外 断 暗灰色 浅黄色	
第148図	475	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	坏	口径 5.1 器高 7.4	底部は糸切り。体部外面には凹凸が顕著に認められる。体部と底部の境には高台がつく。内外ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第148図	476	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	坏	口径 1.7 器高 7.6	体部との境に高台が付く。外面は横方向のナデ、内面は器面が剥離し調整不明。	密、長石・橙色粒・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第148図	477	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	坏	口径 7.2 器高 7.2	回転台成形。底部は静止系切り。底部内面は一定方向のナデを施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英・長石・小石を含む	良好	内外 淡赤褐色	
第148図	478	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	坏	口径 2.7 器高 6.0	回転台成形。底部は回転系切り。外面底部と体部の境に段が付く。外面はヨコナデ、内面はナデによって凹凸部分を消す。	密	良好	内外 橙色	
第148図	479	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	柱状高台	口径 3.0 器高 5.6	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石を少し含む	良好	内外 にぶい橙色	
第148図	480	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	皿	口径 8.5 器高 1.8 底径 3.5	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、長石・雲母を僅かに含む	良好	内外 橙色	
第148図	481	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	皿	口径 10.2 器高 1.5 底径 8.2	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第148図	482	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	皿	口径 8.4 器高 1.7 底径 6.4	回転台成形。底部は糸切り。器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第148図	483	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	皿	口径 8.2 器高 1.6 底径 5.8	回転台成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・橙色粒を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第148図	484	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	皿	口径 12.8 器高 1.4 底径 9.0	手づくね成形。内面は不定方向のナデを施す。外面は器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第148図	485	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	鍋	口径 3.2	くの字状に屈曲する口縁部をもつ。外面は縦方向のハケメ後頸部付近で一部にナデ、内面は横方向のハケメ、口縁部に横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 灰褐色	
第148図	486	14・15	遺構外段状遺構1・2	土師器	鍋	口径 5.7	受け部状の口縁部をもつ。内面口縁部は横方向のナデ、内面体部は横方向のハケメ後ナデを施す。外面の調整は器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第148図	487	14・15	遺構外段状遺構1・2	瓦質土器	羽釜	口径 20.8 器高 3.1	外面口縁部直下に断面三角形の短い鑊が付く。口縁部は内傾しやや凹む。内外面口縁部に横方向のナデを施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外 断 灰色 灰白色	
第148図	488	14・15	遺構外段状遺構1・2	瓦質土器	羽釜	口径 25.0 器高 5.0	口縁部直下に短い鑊が付く。口縁部は強い横方向のナデにより段を有す。内外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は粗いナデ、内面体部は丁寧なナデを施す。	密	良好	外 灰色 内 灰白色	
第148図	489	14・15	遺構外段状遺構1・2	瓦質土器	羽釜	口径 5.8	口縁部直下に短い鑊が付く。端部は細く丸味をもつ。内面端部直下には凹線がめぐる。内外面ともにナデ。内面に煤が付着。	密、石英・長石を少し含む	良好	表 にぶい橙色 裏 暗赤褐色	
第148図	490	14・15	遺構外段状遺構1・2	瓦質土器	鍋	口径 26.0 器高 7.5	口縁部直下に短い鑊が付く。端部はやや丸味をもつ。口縁部は横方向のナデを施す。外面体部は粗くナデ、内面は丁寧なナデ。外面には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を多く含む	良好	内外 褐灰色	
第148図	491	14・15	遺構外段状遺構1・2	白磁	皿	口径 9.4 器高 2.8 底径 3.8	白磁皿類。口縁部は外反する。体部内面には沈線を有す。外面の体部下半から高台部分は露胎。	密	良好	外 にぶい黄褐色 内 灰白色	
第149図	492	14・15	遺構外	土師器	坏	口径 11.8 器高 3.8 底径 5.6	回転台成形。底部は静止系切り。底面は糸切り後一部にナデ、他はヨコナデ。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第149図	493	14・15	遺構外	土師器	坏	口径 2.6 器高 8.4	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデ。内面に煤が付着する。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第149図	494	14・15	遺構外	土師器	坏	口径 11.0 器高 6.8	回転台成形による。底部は回転系切り。底部内面はナデにより凹凸部分を消す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第149図	495	14・15	遺構外	土師器	坏	口径 2.7 器高 6.7	底部に貼付による高台が付く。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい赤褐色	
第149図	496	14・15	遺構外	土師器	柱状高台付坏	口径 3.6	底部は糸切りか。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。一部に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第149図	497	14・15	遺構外	土師器	坏	口径 1.2 器高 5.8	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部は不定方向のナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	

表17 門前上屋敷遺跡土器観察表(16)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第149図	498	14・15	遺構外	土師器	坏	器高 1.8 底径6.2	回転台成形。底部は回転系切り。外面はヨコナデ、内面は不定方向のナデを施す。内面には同心円状に凹凸が認められる。	密、石英・長石を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第149図	499	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 8.2 器高 1.3 底径 5.8	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデ。底部内面には微かに凹凸がみられる。器壁はやや薄い。	密	良好	内外 にぶい黄橙色	
第149図	500	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 7.8 器高 1.3 底径 3.8	回転台成形。底部は糸切り。器面が摩滅し調整不明。	密、長石を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第149図	501	14・15	遺構外	土師器	皿	器高 1.4 底径 3.8	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第149図	502	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 7.2 器高 1.6 底径 4.8	回転台成形。底部は静止系切り。内面底部は不定方向のナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密	良好	内外 橙色	
第149図	503	14・15	遺構外	土師器	鍋	口径 16.4 器高 4.7	くの字状に屈曲する口縁部をもち、端部は上に引き上げられる。外面は縦方向のハケメ後横方向のナデ、内面は横方向のハケメが施される。	密、長石を含む	良好	内外 橙色	
第149図	504	14・15	遺構外	土師器	鍋	口径 28.4 器高 3.8	くの字状に屈曲する口縁部をもち、端部付近で肥厚する。端部上面は水平であるがナデにより若干窪み、その外側は若干引き出される。外面には縦方向のハケメ、内面には横方向のハケメが施される。	密、長石を少し含む	良好	内外 にぶい黄橙	
第149図	505	14・15	遺構外	土師器	鍋	口径 22.0 器高 3.0	受け部状の口縁部をもち、端部は水平となり若干肥厚する。内外面ともに器面が剥離し調整不明。2次火を受けたのが一部が赤色化している。	密、長石・雲母を僅かに含む	良好	内外断 浅黄橙色 褐灰色	
第149図	506	14・15	遺構外	瓦質土器	羽釜	口径 22.0 器高 8.7	口縁部直下に短い鐳が付く。端部は内傾し、外側が若干外方に折れ曲がる。外面体部では粗いナデ、内面は丁寧なナデによって仕上げられる。外面には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 暗灰色	
第149図	507	14・15	遺構外	瓦質土器	羽釜	口径 24.0 器高 8.1	口縁部直下に短い鐳が付く。端部は内傾し、外側が若干引き出される。内面端部直下には横方向のナデにより若干凹む。外面体部では粗いナデ、内面は丁寧なナデが施される。外面には煤が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 暗灰色	
第149図	508	14・15	遺構外	備前焼	播鉢	口径 28.4 器高 11.0	備前 A期。口縁部内面が上へのび、外側がやや突出する。内面には8条1単位の卸目を2本以上もつ。	密	良好	内外 にぶい赤褐色	
第149図	509	14・15	遺構外	白磁	碗	器高 2.3	底部内面に沈線を有す。外面は露胎。	密、黒色粒を含む	良好	胎土 浅黄橙色 釉 灰白色	
第149図	510	14・15	遺構外	青磁	碗	口径 15.6 器高 3.1	龍泉窯系青磁碗 類。内面に片彫蓮花文を有す。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ灰	
第149図	511	14・15	遺構外	須恵器	甕	器高 3.0	外面には格子状の叩き、内面にはハケメを施す。勝間田系。	密	良好	外 灰色 内 暗灰色	
第149図	512	14・15	遺構外	須恵器	甕		胴部のみ残存。外面には格子状の叩き、内面にはハケメを施す。勝間田系。	密、長石・橙色粒を含む	良好	内外断 灰色 灰赤色	
第151図	513	14・15	第2次造成土中	土師器	皿	口径 9.0 器高 1.2	手づくね成形。横方向のナデを施し、口縁部外面に段を有す。口縁部は細くなる。内面は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 にぶい黄橙色	
第151図	514	14・15	第2次造成土中	土師器	皿	口径 9.0 器高 1.5 底径 4.5	手づくね成形。内面口縁部直下には微かな凹線を有す。外面口縁部には横方向のナデを施す。内面は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第151図	515	14・15	第2次造成土中	青磁	碗	口径 15.0 器高 3.2	青磁碗D類。口縁部は外反する。2次火を受けたためか内外面の釉が剥落する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 明緑灰色	
第151図	516	14・15	第2次造成土中	黒釉陶器	天目茶碗	器高 5.2 底径 4.4	体部外面の下半から底部は露胎。高台は削り出しによる。中国産か。	密	良好	胎土 浅黄色 釉 黒褐色	
第151図	517	14・15	第2次造成土中	青磁	碗	器高 1.8	肥前系磁器。	密	良好	胎土 灰白色 釉 明緑灰	
第151図	518	14・15	第2次造成土中	染付	碗	口径 11.0 器高 5.7 底径 7.4	広東碗。底部外面に足の高い高台が付く。畳付け部分に砂目跡が付く。外面には植物をモチーフにした文様、内面見込みには不明の文様が描かれる。	密	良好	釉 明緑灰色、暗青色 胎土 灰白色	
第152図	519	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.9 底径5.4	回転台整形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密	良好	内外 橙色	
第152図	520	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.5 底径5.2	回転台成形。底部は回転系切り。外面はヨコナデ、内面は風化のため調整不明。	密	やや不良	内外 橙色	
第152図	521	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 2.0 底径4.8	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	やや不良	内外 橙色	
第152図	522	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.8 底径5.4	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。外面はヨコナデ、内面は風化のため調整不明。	密	やや不良	外 黄橙色 内 浅黄橙色	
第152図	523	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 2.0 底径5.0	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	やや不良	内外 黄橙色	
第152図	524	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.1 底径5.4	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 黄橙色	
第152図	525	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.9 底径5.0	回転台成形。外面は底部回転系切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	やや不良	内外 橙色	
第152図	526	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.2 底径5.0	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	やや不良	内外 にぶい橙色	
第152図	527	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.4 底径5.2	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内外面ともにヨコナデを施す。内面は器面が摩滅し調整不明瞭。	密	やや不良	内外 橙色	
第152図	528	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 2.0 底径5.0	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内外面ともにヨコナデを施す。	密	やや不良	内外 黄橙色	
第152図	529	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.4 底径5.4	回転台整形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。内面は器面が摩滅し調整不明瞭。	密	良好	内外 橙色	
第152図	530	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 2.0 底径5.4	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。外面はヨコナデ、内面はナデを施す。	密	良好	内外 橙色	
第152図	531	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.2 底径 5.2	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	やや不良	内外 橙色	
第152図	532	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.1 底径 5.8	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 橙色	
第152図	533	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.8 底径5.2	回転台成形。底部は回転系切り。外面は器面が摩滅し調整不明。内面はヨコナデを施す。底部に「普庵」と墨書。	密	やや不良	内外 橙色	

表18 門前上屋敷遺跡土器観察表(17)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第152図	534	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.2 底径5.2	回転台成形。底部は回転系切りか。外面は器面が摩滅し調整不明。内面はヨコナデを施す。	密	やや不良	外 黄橙色 内 にぶい橙色	
第152図	535	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 7.0 器高1.8 底径 3.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 橙色	
第152図	536	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 7.3 器高1.7 底径 4.0	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	やや不良	内外 橙色	
第152図	537	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 9.8 器高1.8 底径 4.0	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第152図	538	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	器高 1.2 底径 4.6	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。外面底部に黒斑がみられる。	密	良好	外 にぶい橙色 内 浅黄橙色	
第152図	539	14・15	第2次造成土以前	土師器	坏	器高 1.6 底径 3.8	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。外面体部に糸切りの痕跡がみられる。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第152図	540	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	器高 1.4 底径 3.4	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内面はヨコナデを施す。	密	やや不良	外 黄橙色 内 橙色	
第152図	541	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	器高 0.9 底径3.0	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄色	
第152図	542	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	器高 1.4 底径3.4	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 黄橙色	
第152図	543	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	器高 1.3 底径3.2	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	やや不良	外 橙色 内 浅黄橙色	
第152図	544	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	器高 0.5 底径 3.7	回転台成形。底部は回転系切り。内面はナデを施す。	密	良好	内外 橙色	
第152図	545	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 7.2 器高1.7 底径 3.6	回転台成形。底部はケズリ。内外面はヨコナデを施す。口縁端部に油煙が付着する。	密	やや不良	内外 浅黄橙色	
第152図	546	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 6.6 器高1.7 底径 2.2	内外面ヨコナデ。	密	良好	外 浅黄橙色 内 橙色	
第152図	547	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 8.0 器高2.3 底径 4.8	回転台成形。底部は回転系切り。内外面ともにヨコナデを施す。外面体部から底部にかけて墨書。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第152図	548	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 10.6 器高1.8	手づくね成形。口縁部は横方向のナデにより外面に段が付く。内面は横方向のナデを施す。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第152図	549	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 10.2 器高1.3	手づくね成形。口縁部は外反し、横方向のナデにより外面に段が付く。内面は横方向のナデを施す。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第152図	550	14・15	第2次造成土以前	土師器	皿	口径 11.8 器高 1.3	手づくね成形。口縁部は外反し、横方向のナデにより外面に段が付く。内面は横方向のナデを施す。	密	良好	外 灰黄褐色 内 褐灰色	
第153図	551	14・15	第2次造成土以前	瓦質土器	羽釜	器高 5.0	口縁部直下に鈿が付く。口縁端部は内傾する。外面口縁部及び内面は横方向のナデ、外面はケズリを施す。	密	良好	外 灰色 内 灰白色	
第153図	552	14・15	第2次造成土以前	瓦質土器	火鉢	器高 3.0	口縁端部は水平で内側に拡張する。外面には沈線が施され、その間に花形スタンプ文、格子スタンプ文を押し印する。	密	良好	外 黄灰色 内 黒褐色	
第153図	553	14・15	第2次造成土以前	土師器	風炉	口径 31.1 器高 7.1	口縁部は垂直に立ち上がり、端部は水平となる。口縁部は横方向のナデ、外面胴部はヘラミガキ、内面は粗い横方向のハケスを施す。	密	良好	内外 にぶい黄橙色	
第153図	554	14・15	第2次造成土以前	瓦質土器	播鉢	口径 32.4 器高 6.6	内外面ともに横方向のナデを施す。内面には5条1単位の卸目が付く。	密	良好	内外 灰褐色	
第153図	555	14・15	第2次造成土以前	備前焼	壺	口径 10.5 器高 3.7	口縁端部が若干外側に屈曲する。内外面ともに横方向のナデを施す。	密	良好	内外 暗赤灰色	
第153図	556	14・15	第2次造成土以前	備前焼	甕	器高 8.0	玉縁状の口縁部をもつが欠損し詳細は不明。内外面ともに横方向のナデを施す。	密	良好	内外 暗赤褐色	
第153図	557	14・15	第2次造成土以前	備前焼	水屋甕		外面に裝飾が付く。内外面ともに横方向のナデを施す。	密	良好	内外 暗赤褐色	
第153図	558	14・15	第2次造成土以前	備前焼	播鉢	器高 5.3	備前期。外面口縁端部は横方向のナデ、内面は横方向のナデ後卸目が付く。	密	不良	内外 灰黄色 内 橙褐色	
第153図	559	14・15	第2次造成土以前	備前焼	播鉢	口径 25.0 器高 5.7	備前期。外面は横方向のナデ、内面は横方向のナデ後7条1単位の卸目が付く。	密	良好	内外 にぶい赤褐色	
第153図	560	14・15	第2次造成土以前	備前焼	播鉢	器高 7.9 底径 12.1	外面は横方向のナデ、内面は横方向のナデ後6条1単位の卸目が付く。	密	良好	外 橙色 内 にぶい赤褐色	
第153図	561	14・15	第2次造成土以前	備前焼	播鉢	口径 22.3 器高 8.3	備前期。外面は横方向のナデ、内面は横方向のナデ後7条1単位の卸目が付く。	密	良好	内外 にぶい赤褐色	
第153図	562	14・15	第2次造成土以前	備前焼	播鉢	器高 5.9 底径 12.4	外面は横方向のナデ、内面は横方向のナデ後6条1単位の卸目が付く。	密	良好	内外 にぶい赤褐色	
第153図	563	14・15	第2次造成土以前	青磁	碗	口径 14.1 器高7.9 底径5.6	龍泉窯系青磁碗D a類。高台部は露胎している。内面見込みに花文が押し印される。	密	良好	内外 オリーブ灰- 淡緑色	
第153図	564	14・15	第2次造成土以前	青磁	碗		龍泉窯系青磁碗B類。外面に線描き蓮弁が施される。	密	良好	内外 灰オリーブ色	
第153図	565	14・15	第2次造成土以前	李朝青磁	碗	器高 0.9 底径 3.6	内外面に釉がかかる。内面見込みに胎土目、高台豊付に耐火粘土が付着する。	密	良好	内外 灰色	
第153図	566	14・15	第2次造成土以前	瀬戸	卸皿	器高 2.0	古瀬戸後期。口縁端部に釉がかかる。それ以下は露胎する。	密	良好	外 浅黄色 内 黄灰色	
第153図	567	14・15	第2次造成土以前	染付け	碗	器高 1.7 底径 5.0	内外面に釉がかかる。内面見込みに釉剥ぎ。	密	良好	内外 灰白色	
第153図	568	14・15	第2次造成土以前	唐津	坏	器高 1.7 底径 5.8	内外面ともに釉がかかる。外面体部下半は露胎する。底部は削り出しによる高台がつく。内面見込みに砂目痕がつく。	密	良好	内外 橙色	
第155図	569	14・15	第1次造成土	土師器	坏	器高 2.3 底径 7.8	回転台成形。底部は静止系切り。内外面とも器面が剥離・摩滅し調整不明瞭。	密・石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第155図	570	14・15	第1次造成土	土師器	皿	口径 11.6 器高 2.1	手づくね成形。口縁部は外側に屈曲し、横方向のナデが施される。端部は先端に向かい徐々に細くなる。	密・石英・長石・雲母を含む	良好	内外 淡黄-橙色	
第155図	571	14・15	第1次造成土	土師器	坏	器高 2.1 底径 5.5	回転台成形。底部は回転系切り。外面底部は糸切り後ナデ、内面は不定方向のナデ、内外面体部はヨコナデを施す。	密・長石・雲母を含む	良好	内外 橙-灰褐色	
第155図	572	14・15	第1次造成土	土師器	坏	器高 1.5 底径 6.4	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内外面はヨコナデを施す。底部に墨書か。	密	良好	内外 明黄褐色	
第155図	573	14・15	第1次造成土	土師器	坏	器高 1.4 底径5.5	回転台成形。底部は回転系切り。内外面はヨコナデを施す。底部に「智光」と墨書。	密	良好	内外 橙色	

表19 門前上屋敷遺跡土器観察表(18)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第155図	574	14・15	第1次造成土	土師器	坏	器高 1.3 底径 6.0	回転台成形。底部は回転系切り。外面底部は糸切り後ナデを施し、板目痕が付く。内面は不定方向のナデを施す。	密	良好	内外 橙色	
第155図	575	14・15	第1次造成土	土師器	坏	器高 2.3 底径 5.2	回転台成形。底部外面には板目痕が付く。内面はナデを施す。	密、石英・長石・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 橙色	
第155図	576	14・15	第1次造成土	土師器	皿	器高 1.0 底径 5.4	回転台成形。底部は回転系切り後ナデ、内面は不定方向のナデを施す。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第155図	577	14・15	第1次造成土	土師器	坏	器高 2.9 底径 5.6	回転台成形。外面は底部回転系切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。外面に化粧土を施す。	やや粗	良好	内外 浅黄橙色。	
第155図	578	14・15	第1次造成土	土師器	皿	器高 2.0 底径 2.0	回転台成形。底部は糸切りか、内面底部と体部の境には段がつく。内外面はヨコナデ、底部内面は横方向のナデを施す。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英を僅かに含む	良好	内外 にぶい橙色	
第155図	579	14・15	第1次造成土	土師器	皿	口径 7.9 器高1.5 底径5.6	回転台成形。底部は回転系切り後板目痕が付く。内外面ともにヨコナデを施す。	密	やや不良	内外 浅黄橙色	
第155図	580	14・15	第1次造成土	土師器	皿	口径 8.8 器高 1.7	手づくね成形。外面口縁部直下に明瞭な凹線、内面口縁部直下に微かな凹線を有す。内外面口縁部に横方向のナデを施し、内面は丁寧に仕上げられる。内面には煤が付着し、外面には化粧土が塗布された痕跡がある。	密	良好	内外 灰白色	
第155図	581	14・15	第1次造成土	土師器	皿	口径 8.8 器高 1.8	手づくね成形。口縁部は外側へ屈曲し、内面口縁部直下には微かな凹線を有す。外面口縁部は横方向のナデにより段を有す。内面全体は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第155図	582	14・15	第1次造成土	土師器	皿	器高 1.6	口縁部付近で外反する。外面口縁部は横方向のナデにより段を有す。内面は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密、長石を少し含む	良好	内外 にぶい橙色	
第155図	583	14・15	第1次造成土	土師器	皿	口径 12.4 器高 2.0	手づくね成形。口縁部は外側へ屈曲し、外面に僅かな断を有す。内外面口縁部は横方向のナデが施され、内面は丁寧に仕上げられる。	密、石英・長石・雲母・橙色粒を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第155図	584	14・15	第1次造成土	土師器	皿	口径 12.2 器高 2.3	手づくね成形。口縁部は外側へ屈曲し、外面に僅かな段を有す。内外面口縁部は横方向のナデが施され、内面は丁寧に仕上げられる。	密、長石、雲母を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第155図	585	14・15	第1次造成土	土師器	皿	口径 13.0 器高 1.9 底径 6.0	手づくね成形。口縁部付近で僅かに外反する。外面口縁部は横方向のナデを施し、内面は横方向のナデにより丁寧に仕上げる。底部内外面に煤が付着する。	密	良好	内外 灰黄褐 - 黒褐	
第155図	586	14・15	第1次造成土	土師器	羽釜	口径 23.2 器高 2.9	口縁部はやや内傾し、内面口縁部直下は強い横方向のナデにより段を有す。口縁部の直下には短い鑄がつく。2次火を受けたため内外面の器面が赤色となる。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 赤褐色 内 浅黄橙 - 赤褐色 断 褐灰色	
第155図	587	14・15	第1次造成土	備前焼	擂鉢	器高 8.4 底径 15.0	内外面ともにナデを施し、内面には7条1単位の粒目が3本以上つく。	密、長石・橙色粒を少し含む	良好	内外 橙 - 明赤灰色	
第155図	588	14・15	第1次造成土	備前焼	甕?	器高 6.0	外面には7条1単位の櫛状工具により文様が施される。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい赤褐色	
第155図	589	14・15	第1次造成土	備前焼	甕	器高 3.3 底径 33.0	内外面に横方向のナデを施す。	密、長石・橙色粒を含む	良好	外 赤褐色 内 暗灰色	
第155図	590	14・15	第1次造成土	青磁	碗	口径 16.8 器高 4.2	青磁碗D類。口縁部のみ残存。口縁部は外反する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリーブ灰色	
第155図	591	14・15	第1次造成土	瀬戸	平碗	口径 15.2 器高 7.2	古瀬戸後期。口縁部 - 体部にかけて残存。釉がかかる。	密	良好	胎土 灰黄色 釉 オリーブ色	
第157図	592	14・15	掘立柱建物12	備前焼	甕	口径 12.6 器高 3.0	玉縁状の口縁部をもつ。内面口縁部は横方向のナデ、外面は釉が付着し調整不明。	密、長石を多く含む	良好	内外 暗灰色	
第157図	593	14・15	掘立柱建物12	備前焼	甕	器高 10.8	肩部にボタン状の裝飾が付く。内外面ともに横方向のナデ、内面に沈線が4条以上付く。外面には釉が付着する。	密、長石を含む	良好	外 暗赤褐色 内 赤黒色	
第157図	594	14・15	掘立柱建物12	備前焼	甕	器高 9.0 底径 21.6	底面はナデ、外面底部は横方向のヘラケズリ、内面は横方向のナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 にぶい赤褐色 断 暗青灰色、明赤褐色	
第160図	595	14・15	掘立柱建物13	土師器	皿	口径 15.0 器高 1.9	手づくね成形。口縁部付近で僅かに外反する。口縁部に横方向のナデを施す。内面はナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第160図	596	14・15	掘立柱建物13	土師器	皿	口径 11.0 器高 1.8	手づくね成形。口縁部付近で外反する。外面口縁部に横方向のナデを施し、外面に明瞭な段が付く。内面はナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第160図	597	14・15	掘立柱建物13	土師器	皿	口径 10.8 器高 1.1	手づくね成形。内面口縁部直下には凹線を有す。外面口縁部に横方向のナデを施す。内面は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第160図	598	14・15	掘立柱建物13	備前焼	甕	器高 7.8	内外面ともに横方向のナデ、外面には3条1単位の沈線文が施される。外面には釉が付着する。	密	良好	外 黒褐色 内 灰赤色	
第160図	599	14・15	掘立柱建物13	備前焼	甕	器高 13.7 底径 25.4	底面はナデで一部に粘土を削り取った痕跡を有す。外面底部は底面との境付近でヘラケズリを施した後、全体に縦横方向のナデ、内面は横方向のナデを施す。内面底部に釉が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	内外 赤褐 - 暗赤灰色	
第161図	600	14・15	掘立柱建物14	須恵器	甕	器高 3.0	外面には格子状の叩き、内面にはナデを施す。勝間田系。	密	不良	内外 灰白色	
第162図	601	14・15	掘立柱建物15	土師器	坏	口径 9.6 器高 2.2	回転台成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 橙色	
第162図	602	14・15	掘立柱建物15	土師器	坏	口径 6.7 器高 1.7 底径 5.6	回転台成形。底部は糸切り。底部には粘土が剥落してできた円状の孔がみられる。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 浅黄橙色	
第162図	603	14・15	掘立柱建物15	土師器	皿	口径 12.0 器高 2.0	手づくね成形。口縁部は外側へ屈曲し、内面口縁部直下には微かな凹線を有す。口縁部には横方向のナデが施され、外面に段が付く。内面全体は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第162図	604	14・15	掘立柱建物15	土師器	皿	口径 11.0 器高 2.7	手づくね成形。口縁部付近で僅かに外反する。口縁部には横方向のナデを施し、外面に微かな段が付く。内面全体は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第162図	605	14・15	掘立柱建物15	土師器	皿	口径 8.0 器高 2.0 底径 2.9	手づくね成形。内外面口縁部に横方向のナデ、内面には右回転のハケの痕跡がみられる。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 浅黄橙色	
第162図	606	14・15	掘立柱建物15	土師器	皿	口径 10.4 器高 2.0	手づくね成形。口縁部付近で僅かに外反する。口縁部には横方向のナデを施し、外面に微かな段が付く。内面は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	

表20 門前上屋敷遺跡土器観察表(19)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上的特徴	胎土	焼成	色調	備考
第163図	607	14・15	柱穴55	土師器	皿	口径 9.0 器高 1.7	回転台成形か。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第164図	608	14・15	柱穴56	土師器	皿	口径 13.0 器高 1.7	手づくね成形。口縁部付近で僅かに外反する。口縁部には横方向のナデを施し、外面に微かな段が付く。内面は横方向のナデにより丁寧に仕上げられる。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 にぶい橙色	
第164図	609	14・15	柱穴56	土師器	皿	口径 12.4 器高 1.6	手づくね成形。口縁部付近で外反する。口縁部には横方向のナデを施し、外面に段が付く。内面は横方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第164図	610	14・15	柱穴56	土師器	皿	口径 12.8 器高 1.7	手づくね成形。口縁部にかけて湾曲しながら立ち上がり、端部付近で外反する。外面口縁部には横方向のナデを施し、体部との境に微かな段が付く。内面は横方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第164図	611	14・15	柱穴56	土師器	皿	口径 8.4 器高 1.8	手づくね成形。口縁部に横方向のナデを施し、外面に段が付く。内面は横方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第165図	612	14・15	柱穴57	土師器	皿	口径 10.5 器高 2.0	手づくね成形。口縁部に横方向のナデを施し、外面に段が付く。内面は横方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 灰白～橙色	
第165図	613	14・15	柱穴57	土師器	皿	器高 1.1 底径 3.0	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰黄褐色	
第166図	614	14・15	土坑65	陶器	小型碗	口径7.2 器高3.9 底径3.1	外面はケズリ、内面はナデを施す。外面には赤色顔料を塗布する。	密	良好	内外 淡黄色	
第167図	615	14・15	土坑66	土師器	皿	口径 10.6 器高 1.5	手づくね成形。口縁部は外側に屈曲し、内面は横方向のナデを施し、外面に段が付く。内面全体は横方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密、長石を僅かに含む	良好	外 橙～にぶい橙色 内 橙色	
第168図	616	14・15	土坑67	土師器	皿	口径 15.6 器高 2.0	手づくね成形。口縁部付近で外反する。口縁部に横方向のナデを施し、外面に段が付く。内面は横方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 橙色	
第168図	617	14・15	土坑67	土師器	皿	口径 12.8 器高 2.1	手づくね成形。口縁部付近で外反する。外面口縁部には横方向のナデを施し、体部との境に段を有す。内面は横方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄橙～褐灰色	
第168図	618	14・15	土坑67	土師器	皿	口径 11.4 器高 2.2 底径 5.0	手づくね成形。口縁部付近で外反する。口縁部に横方向のナデを施し、外面に段が付く。内面は横方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第168図	619	14・15	土坑67	土師器	坏	器高 1.2 底径 5.0	回転台成形。底部は糸切り。底部内面には不定方向のナデが施され平坦となる。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密	良好	内外 灰白色	
第168図	620	14・15	土坑67	白磁?	皿	口径 14.8 器高 3.2	内外面ともに釉がかかるが、外面底部付近が露胎する。	密 褐色粒含む	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第169図	621	14・15	P 492	土師器	皿	口径 11.6	回転台成形か。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第173図	622	14・15	遺構外	須恵器	口縁部	口径 13.4 器高 3.6	平瓶又は提瓶の口縁部か。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外面とも灰色	
第173図	623	14・15	遺構外	土師器	坏	器高 2.8 底径 6.4	回転台成形。底部は静止糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明瞭。	密、石英、長石を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第173図	624	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 9.0 器高 1.1	回転台成形。底部は静止糸切り。底面は糸切り後一部にナデ、他はヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第173図	625	14・15	遺構外	土師器	坏	器高 1.7 底径 5.2	回転台成形。底部は静止糸切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデか。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第173図	626	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 9.0 器高 1.8 底径 6.0	回転台成形か。内外ともにヨコナデ。口縁部には煤が付着する。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第173図	627	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 12.4 器高 1.8	手づくね成形。口縁部付近で外反する。内面は横方向のナデを施し、外面に明瞭な段が付く。内面はナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第173図	628	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 11.8 器高 2.1 底径 34.0	手づくね成形。口縁部は外側に屈曲する。口縁部には横方向のナデが施され、外面に段が付く。内面は横方向のナデを施し、外面に丁寧な仕上げられる。底面に黒斑がある。	密、石英・長石を含む	良好	内外 橙色	
第173図	629	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 10.2 器高 1.7	手づくね成形。口縁部は外側に屈曲する。口縁部には横方向のナデが施され、外側に段が付く。内面は横方向のナデを施し、外面に丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第173図	630	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 10.6 器高 1.4	手づくね成形。口縁部付近で外反する。内面は横方向のナデを施す。口縁部には横方向のナデを施す。内面はナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第173図	631	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 8.7 器高 1.4 底径 4.0	手づくね成形。口縁部にかけて湾曲して立ち上がる。口縁部には横方向のナデが施され、内面は横方向のナデを施す。内面は横方向、不定方向のナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第173図	632	14・15	遺構外	土師器	皿	口径 8.8 器高 1.3 底径 3.0	手づくね成形。口縁部直下には凹線を有す。口縁部に横方向のナデを施し、外面に微かな段が付く。内面はナデにより丁寧な仕上げられる。	密	良好	内外 灰白色	
第173図	633	14・15	遺構外	瀬戸	丸皿	口径 10.6 器高 2.1 底径 6.1	大窯2段階。口縁部は内湾して立ち上がる。底部には高台がつく。内外面には釉がかかる。内面見込みに印花文が押印される。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリーブ灰色	
第173図	634	14・15	遺構外	瓦質土器	火鉢	口径 21.2 器高4.9 底径 15.0	口縁部は湾曲し、端部は水平で肥厚する。底部脚欠損する。外面はナデ、内面口縁部ヨコナデ、体部は工具によるナデを施す。	密	良好	外 灰～灰白色 内 灰色	
第173図	635	14・15	遺構外	瓦質土器	火桶	口径 11.3 器高 21.1	外面体部はミガキ、底面はヨコナデ、内面はケズリを施す。	密	良好	外 灰色 内 暗灰色	
第173図	636	14・15	遺構外	青磁	碗	口径 11.3 器高 3.2	龍泉窯系青磁碗B類。内外面施釉する。外面には崩れた鎊運弁が付く。	密	良好	内外 オリーブ灰色	
第177図	637	16	遺構外・層	弥生土器	甕	口径 23.0 器高 20.1	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線ないし沈線文を施す。器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第177図	638	16	遺構外層	弥生土器	甕	口径 2.7 器高 6.3	内外面ともにナデ。外面に煤が付着する。	密、石英・長石を含む	良好	外 褐灰色 内 にぶい黄褐色	

表21 門前上屋敷遺跡土器観察表(20)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第177図	639	16	遺構外溝8	須恵器	坏身	口径11.2 器高1.5	内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰色	
第181図	640	16	耕作痕5	土師器	坏	口径1.2 器高5.0 底径	回転台成形。底部は回転糸切り。外面はヨコナデ、内面底部は器面が剥離し調整不明。	密、石英・長石を少し含む	良好	内外 明黄褐色	
第184図	641	16	溝8最下層	土師器	坏	口径13.4 器高2.7	回転台成形か。内外面はヨコナデを施す。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	
第184図	642	16	溝8最下層	土師器	坏	口径1.4 器高2.7	回転台成形。底部は回転糸切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	
第184図	643	16	溝8最下層	土師器	皿	口径16.6 器高2.6	手づくね成形。口縁部にかけて肥厚しながら立ち上がり、端部付近で細くなる。内外面には横方向のナデを施す。	密	良好	内外 にぶい黄橙	
第184図	644	16	溝8最下層	白磁	皿	口径8.2 器高1.8	白磁皿類。口縁部は玉縁状を呈する。	密	良好	胎土 灰白色 明オリープ灰	
第184図	645	16	溝8下層	土師器	坏	口径14.0 器高2.6	回転台成形か。内外面ともに横方向のナデ。外面に沈線が2条みられる。	密	良好	内外 浅黄色	
第184図	646	16	溝8下層	土師器	坏	口径2.5 器高8.0 底径	底部のやや内側に高台を有す。内外面ともに赤色顔料の痕跡がある。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 灰白色	
第184図	647	16	溝8下層	土師器	皿	口径8.8 器高1.9 底径6.4	回転台成形。底部は回転糸切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 橙色	
第184図	648	16	溝8下層	土師器	皿	口径8.4 器高1.6 底径6.0	回転台成形。底部は回転糸切り。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石・黒色粒を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第184図	649	16	溝8下層	土師器	皿	口径7.0 器高2.4 底径	回転台成形。底部は糸切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。外面口縁部直下にはヨコナデによる凹みを有す。	密、石英・長石を少し含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第184図	650	16	溝8上層	土師器	坏	口径2.9 器高7.5 底径	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともにヨコナデを施す。内面には凹凸が認められる。	密、石英・長石・金雲母を含む	良好	外 明褐色 内 褐色	
第184図	651	16	溝8上層	土師器	坏	口径1.3 器高7.6 底径	回転台成形。底部は糸切りで上げ底状となる。内外面ともにヨコナデを施す。内面底面には凹凸が認められる。	密、長石を含む	良好	外 浅黄褐色 内 灰白色	
第184図	652	16	溝8上層	土師器	坏	口径1.4 器高5.6 底径	回転台成形。底部は回転糸切り。内外面口縁部ともにヨコナデ、内面底面にはナデが一部に施される。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 浅黄褐色	
第184図	653	16	溝8上層	土師器	皿	口径7.2 器高1.8 底径5.8	回転台成形。底部は回転糸切り。口縁部はやや湾曲して立ち上がる。口縁部内外面はヨコナデ、内面底部はナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第184図	654	16	溝8上層	土師器	皿	口径6.6 器高1.5 底径4.8	回転台成形。底部は回転糸切り。器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を少し含む	良好	外 橙～淡褐色 内 淡褐色	
第184図	655	16	溝8上層	土師器	皿	口径9.1 器高2.0 底径5.2	回転台成形。底部は回転糸切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。外面に黒斑がある。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第184図	656	16	溝8上層	土師器	皿	口径7.2 器高2.0 底径5.6	回転台成形。底部は回転糸切り。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第184図	657	16	溝8上層	須恵器	甕	口径7.6 器高	外面には格子状の叩き、内面にはハケメを施す。勝間田系。	密	不良	内外 灰白色	
第185図	658	16	溝9	土師器	皿	口径10.6 器高1.8 底径7.8	回転台成形。底部は糸切り。器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第185図	659	16	溝9	土師器	皿	口径8.4 器高1.7 底径6.6	回転台成形。底部は回転糸切りか。内面底部と口縁部の境は凹む。内外ともにヨコナデを施す。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 橙色	
第185図	660	16	溝9	土師器	皿	口径7.2器高1.7 底径5.2	回転台成形。底部は回転糸切り。内面底部と口縁部の境は強いナデによって凹み、中心部は高くなる。中心部には横方向のナデにより凹凸が消される。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第185図	661	16	溝9	瓦質土器	羽釜	口径3.7 器高	口縁部にかけて湾曲して立ち上がり、外面口縁部直下に鐙が付く。口縁部は若干内傾し肥厚する。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 断 黒褐色 灰白色	
第186図	662	16	溝8・9	土師器	坏	口径8.8 器高2.5	回転台成形。底部は回転糸切り。体部との境に高台が付く。内面底部は一定方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第186図	663	16	溝8・9	青磁	碗	口径8.4 器高2.5		密	良好	胎土 灰白色 釉 緑灰色	
第186図	664	16	溝8・9	土師器	皿	口径8.2 器高1.7 底径6.5	回転台成形。底部は回転糸切り。内面底部はナデによって凹み、中心部は高くなる。内面底部はナデ、他はヨコナデを施す。	密、長石を僅かに含む	良好	内外 浅黄褐色	
第186図	665	16	溝8・9	土師器	皿	口径8.2 器高1.6 底径8.6	回転台成形。底部は糸切りか。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第186図	666	16	溝8・9	土師器	皿	口径6.7 器高1.3 底径5.2	回転台成形。底部は糸切り。内面底部は不定方向のナデ、内外面口縁部はヨコナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 明赤褐色	
第186図	667	16	溝8・9	土師器	鍋	口径35.0 器高3.3	受け部状の口縁部をもつ。口縁部はナデが施され先端部が若干突出する。外面は細かい縦方向のハケメ後、口縁部付近で横方向のハケメ及びナデを施す。内面は横方向のハケメ後、口縁部ではナデを施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 橙～浅黄褐色 内 黄褐色	
第188図	668	16	土坑69	土師器	皿	口径11.0 器高4.2 底径	回転台成形。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を僅かに含む	良好	外 にぶい橙色 内 浅黄褐色	
第190図	669	16	溝20	土師器	坏	口径1.5 器高6.2 底径	回転台成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第190図	670	16	溝20	土師器	坏	口径12.6 器高3.0	手づくね成形。外面端部直下に1条の凹線が付く。内外面口縁部は横方向のナデ、内面はナデで丁寧に仕上げる。	密、長石を僅かに含む	良好	外 灰褐色 内 にぶい橙色	
第190図	671	16	溝20	土師器	皿	口径7.6器高1.2 底径6.6	回転台成形。底部は回転糸切り後ナデ。内面底部には凹凸が顕著に認められる。内外面ともにヨコナデを施す。	密	良好	内外 灰白色	
第190図	672	16	溝20	土師器	鍋	口径23.4 器高3.0	受け部状の口縁部をもち、端部はやや丸味をもつ。口縁部内外面はハケメ後横方向のナデ、外面体部は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施す。外面には煤が付着する。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第190図	673	16	溝20	青花	碗	口径12.4 器高2.7	口縁部のみ残存。口縁部内外面に2条の界線、胴部外面に文様が描かれる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 明褐色、コバルトブルー	

表22 門前上屋敷遺跡土器観察表(21)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第190図	674	16	落ち込み1	土師器	皿	口径 10.8 器高 2.1	手づくね成形。口縁端部付近で外反する。内面端部直下には微かな凹線を有す。口縁部に横方向のナデを施し、外面に段が付く。	密	良好	内外 灰白	
第190図	675	16	落ち込み1	土師器	鉢	器高 3.3	口縁部にかけて湾曲して立ち上がり、端部は工具により面取りを行う。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 黄橙～橙色	
第190図	676	16	落ち込み1	陶器	碗	器高 1.7 底径 3.6	体部外面の下半から高台部分にかけて露胎。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第190図	677	16	落ち込み1	青磁	碗	口径 14.2 器高 3.8	青磁碗C類。口縁部外面に雷文帯、体部内面に文様を有す。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰オリブ色	
第191図	678	16	耕作痕7	白磁	碗	口径 16.8 器高 3.3	白磁碗 類。口縁部は玉縁状を呈する。	密	良好	胎土 灰白色 釉 灰白色	
第192図	679	16	層	土師器	坏	口径 8.1 器高 1.8 底径 6.0	回転台成形。底部は回転系切り。内面底部は不定方向のナデ、他はヨコナデを施す。	密、石英・長石・橙色粒を少し含む	良好	内外 浅黄橙色	
第192図	680	16	層	瀬戸	山茶碗	器高 2.7 底径 7.8	底部のみ残存。底部外面に糸切りの痕跡。高台部分は貼り付けによる。内面の一部に釉がかかる。	密	良好	胎土 灰黄色 釉 オリブ黄色	
第193図	681	16	層	青磁	碗	口径 17.6 器高 4.7	青磁碗D類。口縁部のみ残存。口縁部は外反する。2次火を受けたためか内外面の器面に発泡がみられる。	密	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ灰色	
第193図	682	16	層	青磁	坏	口径 12.0 器高 2.3	龍泉窯系青磁坏。端反り坏。	密、白色粒を含む	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ灰	
第193図	683	16	層	土師器	皿	口径 8.2 器高 1.5 底径 6.4	回転台成形。底部は糸切り。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石・石英を含む	良好	内外 橙色	
第193図	684	16	層	瓦質土器	鉢	口径 24.8 器高 3.0	内外面ともにナデ。内外端部に面取りが施される。外面に煤が付着する。	密、長石・石英を含む	良好	内外 灰色	
第193図	685	16	層	瓦質土器	火鉢	器高 2.9 底径 25.2	外面に2条の沈線の間に連続した菊文を押しする。	密、石英・長石を含む	良好	内外 黄灰～浅黄灰色 断 にぶい黄橙色	
第198図	686	17	竪穴住居2	弥生土器	壺	口径 24.8 器高 24.5	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。口縁部の外面直下には断面形が三角形を呈する貼付突帯を配する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 にぶい橙色 内 にぶい黄橙色	
第198図	687	17	竪穴住居2	弥生土器	甕	口径 17.2 器高 4.8	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面はハケメ、内面はナデを施す。	密、長石を多く含む	良好	内外 灰褐色	
第198図	688	17	竪穴住居2	弥生土器	甕	口径 17.6 器高 2.3	上に拡張した口縁端部をもち、そこに凹線文を施す。外面頸部には連続した刺突文を施した貼付突帯文を配す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 浅黄色	
第198図	689	17	竪穴住居2	弥生土器	甕	口径 18.2 器高 3.25	上方に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。頸部外面は縦方向のハケメ後ナデ、内面はナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 にぶい橙色 内 にぶい褐色	
第198図	690	17	竪穴住居2	弥生土器	甕	口径 18.8 器高 12.3	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに4条の凹線文を施す。外面はハケメ後ナデ、内面はナデ、体部中位までヘラズリを施す。外面に煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第198図	691	17	竪穴住居2	弥生土器	甕	口径 18.0 器高 2.6	上下に拡張した口縁端部をもち、4条の凹線文を施した後、連続した刻目状の沈線文を施す。	密、石英・長石・雲母・黒色粒を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第198図	692	17	竪穴住居2	弥生土器	甕	口径 14.6 器高 3.5	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに3条の凹線文を施す。頸部外面は縦方向のハケメ後横方向のナデを施す。外面には赤色顔料の痕跡が認められる。	密、石英・長石を含む	良好	内外 橙色	
第198図	693	17	竪穴住居2	弥生土器	壺	器高 5.6 底径 8.0	底部のみ残存。底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のヘラズリを施す。	密	良好	外 にぶい褐～明赤褐色 内 にぶい黄褐色	
第198図	694	17	竪穴住居2	弥生土器	甕	器高 4.5 底径 4.4	底面はナデ、外面は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。外面に煤が付着する。	密、石英・長石・角尖石を含む	良好	外 にぶい黄褐色 内 浅黄褐色	
第198図	695	17	竪穴住居2	弥生土器	甕	器高 5.7 底径 6.0	底部のみ残存。底面はナデ、底面は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のヘラズリを施す。底面に黒斑が認められる。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第200図	696	17	竪穴住居4	弥生土器	壺	口径 25.0 器高 7.4	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後ナデ、内面は横方向のハケメ後ナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色 断 褐色	
第200図	697	17	竪穴住居4	弥生土器	甕	口径 17.0 器高 4.5	上下に拡張した口縁端部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面は叩き後縦方向のハケメ、内面はハケメを施す。	密、石英・長石・雲母を少し含む	良好	内外 橙～浅黄褐色	
第200図	698	17	竪穴住居4	弥生土器	壺	器高 8.3	外面に連続した刺突文を施した貼付突帯文を3条配する。外面は縦方向のハケメを施す。内面の調整は器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	外 にぶい黄褐色 内 灰黄褐色	
第200図	699	17	竪穴住居4	弥生土器	甕	器高 5.3 底径 6.6	底面はナデ、底面は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のヘラズリを施す。底面に黒斑が認められる。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外 にぶい橙色	
第200図	700	17	竪穴住居4	弥生土器	甕	器高 3.8 底径 6.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。	密、長石を含む	良好	外 にぶい橙色 内 橙色	
第200図	701	17	竪穴住居4	弥生土器	高坏	器高 5.1 底径 11.8	上下に拡張した端部をもち、そこに2条の凹線文を施す。外面には連続した2条1単位の八の字状をなすヘラ描沈線紋を2段以上配す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 断 にぶい黄褐色 褐色	
第201図	702	17	竪穴住居9	土師器	甕	口径 13.2 器高 3.7	複合口縁をもつ。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第201図	703	17	竪穴住居9	土師器	低脚坏	口径 14.0 器高 5.1 底径 5.0	底面には八の字に開く短い脚部をもつ。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	内外 浅黄褐色	
第201図	704	17	竪穴住居9	土師器	鼓形器台	器高 3.8 底径 15.0	内面端部付近までヘラズリを施す。外面は横方向のナデを施す。内外面には赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第201図	705	17	竪穴住居9	土師器	鼓形器台	器高 4.1 底径 14.6	内面端部付近までヘラズリを施す。外面は器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	外 橙色 内 橙～淡褐色	
第201図	706	17	竪穴住居9	土師器	高坏	器高 6.3	外面は幅の広い縦方向のヘラミガキ後細い横方向のヘラミガキを施す。内面はナデ。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 橙色	
第202図	707	17	遺構外下段 層	縄文土器	深鉢	器高 3.7	外面は縄文を施した後沈線文を配し、その周りを磨り消す。内面はナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 断 にぶい黄褐色 褐色	
第202図	708	17	遺構外下段 層	縄文土器	深鉢	器高 2.3	粗製土器。外反する口縁部をもつ。端部と内面には横方向の糸痕、外面は不定方向の糸痕を施す。	密	良好	内外 にぶい黄褐色	

表23 門前上屋敷遺跡土器観察表(22)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第202図	709	17	遺構外下段 層	縄文土器	深鉢	器高 4.3	波状口縁をもつ。口縁部は体部との境で屈曲し、外反して立ち上がる。屈曲部には連続した刺突文を配す。内外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は横方向のハケメ、内面は縦方向のハケメを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第202図	710	17	遺構外下段 層	縄文土器	鉢	口径 21.0 器高 4.2	精製土器。口縁部は体部との境で屈曲し、端部付近でやや外反する。内外面ともに横方向のヘラミガキを施す。	密	良好	内外 にぶい黄橙色	
第202図	711	17	遺構外下段 層	縄文土器	深鉢	口径 20.0 器高 13.9	粗製土器。外反する口縁部をもつ。端部と内面には横方向の条痕、外面は不定方向の条痕を施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰黄褐色	
第202図	712	17	遺構外下段 層	縄文土器	深鉢	口径 18.0 器高 5.6	粗製土器。口縁部のみ残存。内外面にナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 明赤褐色 内 にぶい黄橙色	
第202図	713	17	遺構外下段 層	縄文土器	深鉢	器高9.1 底径8.0	粗製土器。内外面に植物質工具によるナデを施す。	密、石英・長石を多く含む	良好	外 橙色 内 にぶい黄褐色	
第202図	714	17	遺構外下段 層	縄文土器	深鉢	器高 6.4	外面端部には断面形が三角形を呈する刻目付貼付突帯文が付く。体部には焼成後に外面からの穿孔が施される。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	外 灰黄褐色 内 にぶい黄褐色	
第202図	715	17	遺構外溝34	縄文土器	鉢	口径 10.0 器高 2.8	口縁部のみ残存。外面端部には連続した工具による刻目を施した断面形が三角形の貼付突帯文を施す。内外面には丁寧な横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 黄灰色	
第203図	716	17	遺構外下段 層	弥生土器	壺	口径 19.0 器高 4.3	下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の沈線文と2条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後横方向のナデ、内面は横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外断 にぶい赤褐色 褐灰色	
第203図	717	17	遺構外下段 層	弥生土器	壺	口径 21.0 器高 4.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面に横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外断 浅黄褐色 褐灰色	
第203図	718	17	遺構外下段 層	弥生土器	壺	口径 18.8 器高 5.5	くの字状に屈曲した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面頸部には3条以上の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後横方向のナデ、内面はハケメ後ナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外断 灰黄褐色 褐灰色	
第203図	719	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	壺	口径 8.8 器高 6.0	くの字状に屈曲した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面頸部には3条以上の凹線文が施される。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、長石を含む	良好	内外断 灰白色 褐灰色	
第203図	720	17	遺構外 上段	弥生土器	壺	口径 8.1 器高 4.5	やや肥厚した口縁部をもつ。外面は縦方向のハケメ後横方向のナデ、内面は横方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 明褐色	
第203図	721	17	遺構外 下段 層	弥生土器	壺	口径 16.7 器高 3.0	上に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面口縁部は横方向のナデ、外面体部は縦方向のハケメを施す。外面に煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第203図	722	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	口径 18.0 器高 4.5	上に拡張した口縁部をもち、そこに1条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面はナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第203図	723	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	口径 15.2 器高 7.2	上に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ、内面は斜め方向のハケメを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 にぶい黄橙 - 褐灰色 内 浅黄褐色	
第203図	724	17	遺構外 下段 層	弥生土器	甕	口径 19.4 器高 2.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。頸部には連続した刺突文を配した貼付突帯文が付く。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 明褐色	
第203図	725	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	口径 22.4 器高 6.9	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面頸部には連続した刺突文を配す貼付突帯が付く。外面は縦方向のハケメ、内面は横方向のハケメを施す。外面に煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰黄褐色	
第203図	726	17	遺構外 上段	弥生土器	甕	口径 23.0 器高 3.3	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面頸部には連続した刺突文を配した貼付突帯が付く。口縁部内外面には横方向のナデ、内面頸部以下にはハケメを施す。	密、長石・雲母を少し含む	良好	内外 にぶい橙色	
第203図	727	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	口径 15.8 器高 3.6	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4～5条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後ナデ、内面は横方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙 - 灰黄褐色	
第203図	728	17	遺構外 下段 層	弥生土器	甕	口径 25.0 器高 2.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の沈線文を施す。内外面ともにナデ。	密	良好	内外断 明褐灰色 褐灰色	
第203図	729	17	遺構外 下段 層	弥生土器	甕	口径 14.0 器高 4.3	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケメ後横方向のナデ、内面は幅の広い横方向のハケメを施す。外面には黒斑が認められる。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第203図	730	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	口径 13.2 器高 4.2	上下に拡張した口縁部をもつ。外面はナデ、内面は頸部までヘラケズリを施す。外面に煤が付着。	密、長石を多く、雲母を含む	良好	表 にぶい褐色 裏 にぶい褐色	
第203図	731	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	口径 16.2 器高 1.7	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 浅黄橙 - 褐色	
第203図	732	17	遺構外 下段 層	弥生土器	甕	口径 17.0 器高 3.7	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内面頸部付近にまで横方向のヘラケズリを施す。	密、長石を多く含む	良好	内外 橙色	
第203図	733	17	遺構外 上段	弥生土器	甕	口径 18.6 器高 3.7	複合口縁をもち、そこに5条の平行沈線文を施す。内面頸部までヘラケズリが行われ、他はナデが施される。	密、長石を多く含む	良好	内外断 浅黄褐色 褐灰色	
第203図	734	17	遺構外 溝32・33	弥生土器	壺	口径 27.0 器高 3.4	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。内外面ともにナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第203図	735	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 2.5	上に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。器面が摩滅し調整不明。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第203図	736	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	口径 13.0 器高 2.1	上に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第203図	737	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 2.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	
第203図	738	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 2.2	上に拡張した口縁部をもち、そこに2条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐色	

表24 門前上屋敷遺跡土器観察表(23)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第203図	739	17	遺構外下段 層	弥生土器	甕	器高 4.5	上下に拡張した口縁部をもち、そこに凹線文を施す。頸部には連続した刺突文を配した突帯文が付く。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・橙色粒を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第203図	740	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 2.6	上下に拡張した口縁部をもち、そこに凹線文を施す。外面には煤が付着する。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 灰褐～橙色	
第203図	741	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 2.8	上下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。内外面ともに横方向のナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第203図	742	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	口径 13.0 器高 3.0	上に拡張した口縁部をもち、そこに凹線文を施す。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第203図	743	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 5.9	上下に拡張した口縁部をもち、そこに3条の凹線文を施す。外面は縦方向のハケム後頸部付近で横方向のナデ、内面はナデを施す。内面には赤色顔料を塗布した痕跡が残る。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第203図	744	17	遺構外 溝34	弥生土器	壺	器高 7.6	外面に連続した刺突文を施した貼付突帯文を3条配する。外面は縦方向のハケム、内面は横方向のヘラミガキを施す。	密	良好	外 浅黄橙色 内 灰白色	
第203図	745	17	遺構外 下段	弥生土器	壺	器高 5.5	外面には連続した押圧を三段施した貼付突帯文を配す。内面には突帯を貼り付けた際にできた圧痕が認められる。	密、長石を多く含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第203図	746	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	高坏	器高 5.9	外面には4条1単位の櫛描沈線文を施す。内外面ともにナデを施す。外面に赤色顔料を塗布した痕跡がある。	密、長石を含む	良好	内外 断 浅黄橙色 褐灰色	
第203図	747	17	遺構外 下段 層	弥生土器	高坏	器高 6.2	外面には上に7条の沈線文、下に2条以上の沈線文を施し、その間に内面まで貫通しない透かしを配す。外面はナデ、内面は横方向のヘラズリを施す。外面には赤色顔料を塗布する。	密、石英・長石を含む	良好	外 にぶい橙色 内 にぶい黄橙色	
第203図	748	17	遺構外 下段 層	弥生土器	高坏	器高 11.4 底径 2.6	上下に拡張した口縁部をもち、そこに1条の凹線文を施す。外面頸部直上には3条の凹線文が施され、その上には貫通する透かしを配す。外面は縦方向のハケム後ナデ、内面は横方向のナデを施す。頸部には黒斑がみられる。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙～灰白色	
第204図	749	17	遺構外 下段 層	弥生土器	壺	口径 48.3 器高 12.2	下に拡張した口縁部をもち、そこに4条の凹線文を施す。外面頸部と体部の境には1.5cm程度の粘土粒が連続して付く。外面は縦方向のハケム後部分的に横方向のナデを施す。内面は器面が摩滅し調整不明。	密 石英・長石・雲母を含む	良好	内外 断 にぶい黄橙色 褐灰色	
第204図	750	17	遺構外 下段 層	弥生土器	壺	器高 8.8 底径 9.0	底面は不定方向のハケム、外面底部は縦方向のハケム、内面は縦方向のナデを施す。外面には黒斑がみられる。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	
第204図	751	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 2.5 底径 6.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。	密、長石を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第204図	752	17	遺構外 溝32・33	弥生土器	甕	器高 3.9 底径 6.6	底面はナデ、底部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のナデを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	外 橙色 内 灰黄褐色	
第204図	753	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 2.8 底径 5.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。底部内側から穿孔される。	密、長石・石英・雲母を含む	良好	外 橙色 内 にぶい褐色	
第204図	754	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	甕	器高 2.7 底径 5.4	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面はナデを施す。	密、長石・雲母を含む	良好	外 にぶい橙色 内 灰褐色	
第204図	755	17	遺構外 下段	弥生土器	甕	器高 4.4 底径 5.2	外面底部にはハの字状に広がる短い脚部が付く。外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のナデ、脚部内面は横方向のナデを施す。脚部内面には黒斑がみられる。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第204図	756	17	遺構外 下段 層	弥生土器	甕	器高 3.4 底径 6.0	外面底部にはハの字状に広がる短い脚部が付く。内外面ともにナデを施す。脚部内面には黒斑がみられる。外面底部には煤が付着する。	密、石英・長石を多く含む	良好	外 にぶい橙色 内 浅黄橙色	
第204図	757	17	遺構外 上段	弥生土器	甕	器高 3.9 底径 6.2	底面のみ残存。底部には脚が付く。外面底部はヘラミガキ、内面はナデを施す。	密、石英・雲母を含む	良好	外 にぶい黄橙色 内 褐灰色	
第204図	758	17	遺構外 上段	弥生土器	壺	器高 8.6 底径 8.0	内外面ともに器面が摩滅し調整不明。内面はハケム後縦方向ヘラズリを施す。外面に黒斑が認められる。	密、長石を多く含む	良好	内外 にぶい橙色	
第204図	759	17	遺構外 竪穴住居 9	弥生土器	壺	器高 3.3 底径 9.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のヘラズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄褐～黄橙色	
第204図	760	17	遺構外 上段	弥生土器	壺	器高 3.9 底径 10.0	底面はナデ、外面底部は縦方向のヘラミガキ、内面は縦方向のヘラズリを施す。	密、長石を多く含む	良好	外 にぶい橙色 内 褐灰色	
第205図	761	17	遺構外 溝34	土師器	甕	口径 13.0 器高 3.6	口縁部はくの字状に屈曲し、端部は上方に引き上げられる。口縁部内外面は横方向のナデ、内面頸部以下はヘラズリを施す。	密、石英・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第205図	762	17	遺構外 溝34	土師器	甕	口径 12.4 器高 10.3	口縁部はくの字状に屈曲し、端部は上方に引き上げられる。口縁部内外面は横方向のナデ、外面頸部以下はハケム、内面頸部以下はヘラズリを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第205図	763	17	遺構外 溝34	土師器	甕	口径 13.6 器高 14.3	くの字状に屈曲する複合口縁部を呈する口縁部をもち、内外面口縁部は横方向のナデ、外面は縦方向のハケム後横方向のハケム、その後肩部付近まで横方向のナデを施す。内面は肩部付近まで横方向のヘラズリを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第205図	764	17	遺構外 上段	土師器	羽釜	器高 4.5	鐔の部分のみ残存。外面には押圧の痕跡が認められる。内面には虫によって粘土を掻き取られた痕跡が認められる。	密、長石を多く含む	良好	内外 断 にぶい黄橙色 褐灰色	
第210図	765	17	土坑71	土師器	坏	口径14.4 器高3.8 底径6.4	回転台成形。底部は糸切りか？体部との境に明確な段が付く。全体的に歪んでいるが椀形を呈す。底部内面はナデにより凹凸を消す。器面が摩滅し調整不明。回転台の回転方向は右。	密、長石・雲母を少し含む	良好	内外 黒褐色	
第212図	766	17	溝34	土師器	坏	口径 12.4 器高 3.4	体部から口縁部にかけてやや内湾しながら立ち上がる。器壁は薄く、外面はヨコナデを施す。内面の調整は器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第216図	767	17	遺構外 下段	土師器	坏	器高 1.9 底径 7.4	回転台成形か。内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	内外 黄橙色	
第216図	768	17	遺構外 下段	土師器	坏	器高 2.6 底径 6.6	回転台成形。底部は回転糸切り。内面底部から体部にかけて凹凸が顕著にみられる。内外面ともにヨコナデ、内面底部ではナデ施す。	密	良好	内外 橙色	
第216図	769	17	遺構外 下段	土師器	坏	器高 1.5 底径 5.6	回転台成形。切り離しは不明。内外面ともにヨコナデを施す。内面には凹凸が認められる。	密	良好	内外 浅黄橙色	

表25 門前上屋敷遺跡土器観察表(24)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	法量 (cm)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第216図	770	17	遺構外下段	土師器	坏	器高 1.5 底径 2.8	回転台成形。切り離しはヘラ切りによるものか? 内外ともに器面が摩滅し調整不明。	密	良好	内外 浅黄橙色	
第216図	771	17	遺構外下段 層	土師器	皿	口径 13.0 器高 3.1	手づくね成形。内外面口縁部は横方向のナデ、内面は不定方向のナデを施す。	密、石英・長石・橙色粒を少し含む	良好	内外 淡橙 - 褐灰色	
第216図	772	17	遺構外下段 層	土師器	皿	口径 4.3 器高 1.7	手づくね成形。内外面口縁部は横方向のナデ、内面は不定方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第216図	773	17	遺構外下段 層	土師器	鍋	器高 2.5	口縁部はくの字状に屈曲し、外反して立ち上がる。内外面ともにハケメ後ナデを施す。器面が摩滅し調整不明瞭。	密、長石・石英を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第216図	774	17	遺構外下段	土師器	鍋	口径 32.6 器高 4.6	受け部状の口縁部をもち、内外面ともに器面が摩滅し調整不明。	密、石英・長石を含む	良好	内外 浅黄橙色	
第216図	775	17	遺構外下段	土師器	火鉢?	口径 43.0 器高 8.7	口縁部は湾曲して立ち上がる。内外面に横方向のナデを施したのち端部をナデで平坦に仕上げる。内外面体部は不定方向のハケメを施す。	密、石英・長石・雲母を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第216図	776	17	遺構外下段	須恵器	甕	口径 30.1 器高 15.1	口縁部はくの字状に屈曲する。口縁部は横方向のナデ、外面体部は縦方向のハケメ後横方向のハケメ、一部横方向のナデを施す。内面はハケメ後横方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	
第217図	777	17	遺構外上段 層	瓦質土器	鍋	口径 24.4 器高 5.2	受け部状の口縁部をもち、端部は平坦で、内側がナデにより若干引き出される。外面口縁部は横方向のハケメ後端部付近でナデ、体部は縦方向のハケメ後斜め方向のハケメ、内面は丁寧なナデを施す。外面口縁部に煤が付着。	密、石英・長石を多く含む	良好	外 にぶい黄橙色 内 灰黄色	
第217図	778	17	遺構外上段 層	須恵器	壺	器高 3.1 底径 9.6	外面底部の境にはナデ後横方向のヘラケズリ、内面は横方向のナデを施す。	密、石英・長石を含む	良好	内外 灰白色	
第217図	779	17	遺構外上段	須恵器	甕	器高 4.5	外面には間隔の広い格子状の叩き、内面はナデを施す。勝間田系。	密	良好	内外 灰白色	
第217図	780	17	遺構外上段	須恵器	甕	器高 7.6	外面には間隔の広い格子状の叩き後ハケメを施し、その後一部にヘラ状工具で沈線文を配する。内面はナデを施しており、一部にうっすらと同心円状の当具の痕跡が残る。	密、長石含む	良好	外 暗灰色 内 灰色	
第217図	781	17	遺構外上段 層	備前焼	擂鉢	口径 29.6 器高 5.4	備前期。口縁端部が平坦で内側がやや上に飛び出る。内面には4条1単位の卸目を有す。	密、石英・長石を多く含む	良好	内外 にぶい黄橙色	
第217図	782	17	遺構外上段 層	瀬戸	直縁大皿	口径 21.0 器高 4.1	古瀬戸後期 期か 期。内外面に釉がかかる。	密 長石を含む	良好	胎土 灰白色 釉 オリブ黄色	
第217図	783	17	遺構外上段 層	唐津	碗	器高 2.1 底径 6.0	底部のみ残存。底部内面に胎土目痕有り。釉が内外面にかかるが、体部外面の下半から高台部分にかけて露胎。	密	良好	胎土 灰白色 釉 にぶい黄橙色	

表26 門前上屋敷遺跡石器観察表

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	器種	材質	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重さ (g)	手法・形態上の特徴	備考
第33図	S 1	8	遺構外	鏃	黒曜石	1.5	1.7	0.3	0.3		
第33図	S 2	8	遺構外	鏃	黒曜石	1.9	1.8	0.4	0.9	一部欠損する。	
第38図	S 3	9	遺構外溝3	鏃	黒曜石	1.2	1.5	0.4	0.5	一部欠損する。	
第38図	S 4	9	遺構外石列1	鏃	黒曜石	1.7	1.5	0.3	0.7		
第38図	S 5	9	遺構外	鏃	サヌカイト	2.1		0.3	0.5	一部欠損する。	
第38図	S 6	9	遺構外層	鏃	黒曜石	1.9	1.3	0.4	0.6		
第38図	S 7	9	遺構外竪穴住居9	鏃	サヌカイト	2.1	1.6	0.3	0.9		
第38図	S 8	9	遺構外溝25	鏃	黒曜石	2.3	1.6	0.4	0.9	一部欠損する。	
第38図	S 9	9	遺構外竪穴住居9	鏃	サヌカイト	3.5	2.0	0.4	2.4		
第38図	S10	9	遺構外石列1	鏃	サヌカイト	1.7	1.4	0.3	0.5		
第38図	S11	9	遺構外	鏃	サヌカイト	2.2	1.4	0.4	1.1		
第38図	S12	9	遺構外石列1	鏃	サヌカイト	2.2	1.2	0.3	0.8		
第38図	S13	9	遺構外石列1	鏃	黒曜石	2.2	1.7	0.6	2.3		
第38図	S14	9	遺構外溝24	鏃	サヌカイト	2.9	1.8	0.4	1.7		
第39図	S15	9	遺構外溝3	剥片	サヌカイト	15.2	10.3	2.6	486.0		
第64図	S16	11	遺構外	鏃	黒曜石	1.5	1.1	0.3	0.3	一部欠損する。	
第64図	S17	11	遺構外	鏃	黒曜石	2.0	1.4	0.4	0.7		
第64図	S18	11	遺構外	未成品	黒曜石	2.5	1.6	0.5	2.0		
第64図	S19	11	遺構外	鏃	黒曜石	2.0	1.3	0.3	0.5		
第68図	S20	12	竪穴住居5	鏃	サヌカイト	2.4	1.6	0.6	1.2		
第76図	S21	12	遺構外	鏃	黒曜石	1.3	1.2	0.3	0.4		
第76図	S22	12	遺構外	鏃	黒曜石	2.2	1.7	0.4	0.9	一部欠損する。二次火を受け表面が発泡する。	
第76図	S23	12	遺構外	鏃	黒曜石	2.0	1.7	0.3	0.7		
第76図	S24	12	遺構外	鏃	黒曜石	1.6	2.0	0.4	0.9	先端部が欠損する。	
第98図	S25	14・15	遺構外	楔形石器	黒曜石	3.3	2.9	0.8	9.7		
第98図	S26	14・15	遺構外層	異形石器	サヌカイト	6.0	4.2	1.0	17.2		
第98図	S27	14・15	遺構外溝29	スクレイパー	黒曜石	5.0	3.9	1.2	18.2		
第98図	S28	14・15	遺構外	磨製石剣	安山岩	4.2	2.6	0.6	9.5		
第98図	S29	14・15	遺構外層	磨製石斧	安山岩	8.5	6.1	2.1	168.0		
第98図	S30	14・15	遺構外層	磨石	安山岩	5.8	7.7	2.2	108.0		
第98図	S31	14・15	遺構外段状遺構1・2	敲石	安山岩	9.4	8.7	4.5	505.0		
第136図	S32	14・15	畝3耕作土	砥石	流紋岩	8.6	3.3	2.0	71.0		
第147図	S33	14・15	包含層層	砥石	流紋岩	7.8	3.3	2.0	63.0		
第148図	S34	14・15	遺構外段状遺構1・2	砥石	流紋岩	14.5	4.7	3.7	280.0		
第157図	S35	14・15	掘立柱建物12	未成品	堆積岩?	4.7	3.6	1.4	36.0	硯を転用する。	
第163図	S36	14・15	柱穴55	砥石	流紋岩	6.8	2.9	0.6	10.0		
第165図	S37	14・15	柱穴57	錘?	安山岩	6.5	4.2	1.5	59.5		
第177図	S38	16	遺構外	鏃	黒曜石	1.7	1.1	0.3	0.5		
第177図	S39	16	遺構外	鏃	黒曜石	0.9	1.0	0.3	0.2		
第198図	S40	17	竪穴住居2	鏃	サヌカイト	2.3	2.1	0.3	1.1		
第200図	S41	17	竪穴住居4	凹石	安山岩	9.0	5.8	2.5	184.0		
第204図	S42	17	遺構外	鏃	サヌカイト	1.8	1.5	0.3	1.1	先端部が欠損する。	
第204図	S43	17	遺構外竪穴住居9	楔形石器	頁岩?	3.2	4.9	0.9	16.8		
第204図	S44	17	遺構外	未成品	緑色凝灰岩	3.4	1.5	1.1	8.3	玉未成品か。	
第217図	S45	17	遺構外層	錘	安山岩	5.5	4.7	2.0	67.5		
第217図	S46	17	遺構外層	硯	頁岩	10.7	3.2	2.0	88.0	外面の一部に線刻を施す。	
第217図	S47	17	遺構外層	磨石	安山岩	7.6	7.1	8.9	700.0		

表27 門前上屋敷遺跡金属器観察表(1)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	径(cm)	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重(g)	備考
第18図	M 1	8	掘立柱建物 1	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		4.2	1.7	1.3	13.4	構成No.2.
第19図	M 2	8	掘立柱建物 2	鉄製品(鍛造品)	板状不明品		2.7	3.0	0.3	8.3	構成No.3.
第25図	M 3	8	土坑39	鉄製品(鍛造品)	釘		3.1	1.2	0.7	2.2	構成No.1.
第31図	M 4	8	P 484	鉄製品(鍛造品)	小釘		4.2	0.5	0.5	0.8	構成No.4.
第32図	M 5	8	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	釘?		2.9	1.0	1.0	21.4	構成No.5.
第32図	M 6	8	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	釘状不明品		2.5	1.0	0.7	1.4	構成No.6.
第32図	M 7	8	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		2.1	1.3	1.0	4.5	構成No.7.
第32図	M 8	8	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	板状不明品		5.4	3.2	1.3	21.4	構成No.8.
第49図	M 9	9	遺構外	銅製品	銭	2.3			0.1	2.2	寛永通寶.
第61図	M10	11	石列 2	銅製品	銭	2.4			0.1	3.2	寛永通寶.
第82図	M11	12	遺構外	青銅塊	不明		1.6	2.4	1.2	8.5	構成No.11.
第82図	M12	12	遺構外	銅製品	銭	2.4			0.1	2.6	寛永通寶.
第111図	M13	15	掘立柱建物 7	椀形鍛冶滓			4.7	2.7	2.2	36.4	構成No.34.
第119図	M14	15	土坑61	鉄製品(鍛造品)	刀子		10.7	1.1	0.3		構成No.31. 柄の部分が残る。
第119図	M15	15	土坑61	鉄製品(鍛造品)	板状不明品		7.6	2.3	0.6		構成No.31.
第119図	M16	15	土坑61	鉄製品(鍛造品)	刀		36.7	5.0	2.5	532.0	構成No.31. 鞘、柄の部分が残る。
第126図	M17	15	P 488	鉄製品(鍛造品)	薄板状不明品		3.3	1.6	1.0	5.2	構成No.46.
第126図	M18	15	P 488	椀形鍛冶滓	極小		3.4	2.5	1.5	19.2	構成No.45.
第131図	M19	15	水田 1 耕作土	鍛冶滓	含鉄		3.2	2.8	1.4	23.6	構成No.60.
第131図	M20	15	水田 1 耕作土	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		4.0	1.3	1.0	5.5	構成No.68.
第131図	M21	15	水田 1 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(体部)		4.1	4.8	2.0	29.8	構成No.79.
第131図	M22	15	水田 1 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(体部又は注口部)		2.9	1.4	0.8	5.6	構成No.76.
第131図	M23	15	水田 1 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(口縁部)		4.1	5.2	2.8	60.5	構成No.80.
第131図	M24	15	水田 1 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(体部)		8.2	5.4	2.4	122.0	構成No.83.
第132図	M25	15	水田 2 耕作土	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		6.3	1.6	1.3	24.2	構成No.70.
第132図	M26	15	水田 2 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(体部)		2.6	3.8	0.9	13.0	構成No.71.
第132図	M27	15	水田 2 耕作土	鉄製品(鍛造品)	鎌		5.0	3.1	1.0	22.6	構成No.75.
第133図	M28	15	畠 1 耕作土	鉄製品(鍛造品)	薄板状不明品		3.5	1.4	0.6	5.3	構成No.65.
第133図	M29	15	畠 1 耕作土	鉄製品(鍛造品)	釘?		6.0	1.4	1.1	13.8	構成No.69.
第133図	M30	15	畠 1 耕作土	鉄製品(鍛造品)	釘?		2.0	0.7	0.7	1.8	構成No.94.
第133図	M31	15	畠 1 耕作土	鉄製品(鍛造品)	鎌		5.0	3.8	0.8	22.2	構成No.74.
第133図	M32	15	畠 1 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(口縁部)		6.7	5.6	1.4	99.5	構成No.82.
第133図	M33	15	畠 1 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(体部から底部)		9.0	8.7	4.3	269.0	構成No.84.
第133図	M34	15	畠 1 耕作土	椀形鍛冶滓	極小		3.8	3.1	1.8	27.2	構成No.56.
第133図	M35	15	畠 1 耕作土	流動滓			3.2	6.1	1.7	55.5	構成No.62.
第133図	M36	15	畠 1 耕作土	鍛冶滓			2.8	2.0	1.5	8.0	構成No.90.
第133図	M37	15	畠 1 耕作土	流動滓			8.7	4.7	1.8	126.0	構成No.63.
第133図	M38	15	畠 1 耕作土	椀形鍛冶滓	中		10.3	8.7	5.2	647.0	構成No.85.
第134図	M39	15	畠 2 耕作土	鉄製品(鍛造品)	刀子?		3.5	1.5	1.2	6.8	構成No.67.
第134図	M40	15	畠 2 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(体部)		3.2	3.6	1.7	25.6	構成No.77.
第136図	M41	15	畠 3 耕作土	鉄製品(鑄造品)	鍋(底部)		9.8	6.9	2.8	157.0	構成No.30.
第136図	M42	15	畠 3 耕作土	鉄製品(鍛造品)	大型釘?		9.4	3.4	2.6	76.0	構成No.29.
第136図	M43	15	畠 3 耕作土	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		3.9	1.2	1.0	7.6	構成No.66.
第136図	M44	15	畠 3 耕作土	鉄製品(鍛造品)	釘状鉄製品		4.4	2.5	1.6	16.2	構成No.72.
第136図	M45	15	畠 3 耕作土	鉄製品(鍛造品)	薄板状不明品		3.8	1.9	0.9	9.8	構成No.73.
第137図	M46	15	畠 3 耕作土	椀形鍛冶滓	極小		3.9	4.3	2.6	47.8	構成No.27.
第137図	M47	15	畠 3 耕作土	椀形鍛冶滓	極小・含鉄		3.7	3.4	1.9	32.6	構成No.57.
第137図	M48	15	畠 3 耕作土	椀形鍛冶滓	極小・含鉄		4.3	3.1	2.1	33.2	構成No.58.
第137図	M49	15	畠 3 耕作土	椀形鍛冶滓	中・含鉄		8.5	8.2	2.5	257.0	構成No.55.
第137図	M50	15	畠 3 耕作土	鍛冶滓			3.5	2.3	1.0	9.1	構成No.28.
第137図	M51	15	畠 3 耕作土	鍛冶滓	含鉄		3.1	2.3	2.5	18.8	構成No.59.
第137図	M52	15	畠 3 耕作土	流動滓			1.5	2.1	1.3	9.4	構成No.61.
第141図	M53	15	大畦畔 1・溝29・30	鉄製品(鍛造品)	刀?		6.2	3.1	1.3	26.8	構成No.100.
第141図	M54	15	大畦畔 1・溝29・30	鉄製品(鍛造品)			3.5	1.4	1.3	6.9	構成No.97.
第141図	M55	15	大畦畔 1・溝29・30	鉄製品(鍛造品)			15.0	4.4	4.0	267.0	構成No.101.
第141図	M56	15	大畦畔 1・溝29・30	椀形鍛冶滓	中		6.2	3.8	2.9	69.0	構成No.53.
第141図	M57	15	大畦畔 1・溝29・30	椀形鍛冶滓			3.5	4.3	1.9	32.8	構成No.89.
第141図	M58	15	大畦畔 1・溝29・30	椀形鍛冶滓	極小		5.3	3.0	2.5	43.6	構成No.88.
第141図	M59	15	大畦畔 1・溝29・30	鍛冶滓			3.0	2.5	1.9	13.8	構成No.91.
第141図	M60	15	大畦畔 1・溝29・30	粘土質溶解物			5.3	5.6	2.7	61.5	構成No.93.
第141図	M61	15	大畦畔 1・溝29・30	椀形鍛冶滓	小・含鉄		6.5	5.1	4.5	168.0	構成No.87.
第143図	M62	15	包含層 層	椀形鍛冶滓	中		8.5	8.9	3.7	294.0	構成No.54.
第143図	M63	15	包含層 層	鉄製品(鑄造品)	鍋(底部)?		4.9	5.2	2.8	71.5	構成No.81.
第143図	M64	15	包含層 層	鉄製品(鑄造品)	鍋(注口部)		3.4	3.8	1.6	22.8	構成No.78.
第144図	M65	15	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	刀子?		3.4	1.8	1.3	6.6	構成No.99.
第144図	M66	15	包含層 層	鉄製品(鑄造品)	鍋(底部)?		4.4	3.8	0.7	35.4	構成No.103.

表28 門前上屋敷遺跡金属器観察表(2)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	径(cm)	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重(g)	備考
第144図	M67	15	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		3.8	1.1	0.7	4.2	構成No.96。
第144図	M68	15	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		3.6	1.4	0.7	5.2	構成No.95。
第144図	M69	15	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		5.3	1.7	1.5	13.2	構成No.98。
第144図	M70	15	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	鍋(底部)?		8.2	5.3	2.8	121.0	構成No.104。
第144図	M71	15	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	鍋(底部)?		3.0	2.3	1.1	7.5	構成No.102。
第144図	M72	15	包含層 層	腕形鍛冶滓	小・含鉄		6.1	5.8	3.4	127.0	構成No.86。
第145図	M73	15	包含層 層	腕形鍛冶滓	極小		2.4	2.3	1.0	15.6	構成No.105。
第147図	M74	15	包含層 層	腕形鍛冶滓	含鉄		2.4	2.7	2.0	14.2	構成No.108。
第147図	M75	15	包含層 層	腕形鍛冶滓	極小		3.8	2.8	1.9	28.0	構成No.106。
第147図	M76	15	包含層 層	腕形鍛冶滓	極小		6.6	3.9	2.3	80.0	構成No.107。
第148図	M77	15	遺構外 段状遺構1・2	鉄製品(鍛造品)	鍋		4.3	5.6	1.7	57.0	構成No.52。
第148図	M78	15	遺構外 段状遺構1・2	鉄製品(鍛造品)	釘		3.4	1.1	1.1	6.4	構成No.50。
第148図	M79	15	遺構外 段状遺構1・2	鉄製品(鍛造品)	釘		3.8	1.0	0.9	3.1	構成No.49。
第148図	M80	15	遺構外 段状遺構1・2	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		8.7	1.9	1.7	34.0	構成No.51。
第148図	M81	15	遺構外 段状遺構1・2	腕形鍛冶滓	極小		3.0	2.2	2.0	19.0	構成No.47。
第148図	M82	15	遺構外 段状遺構1・2	金属製品	中・含鉄		5.1	3.3	3.7	83.5	構成No.48。
第149図	M83	15	遺構外	鉄製品(鍛造品)	刀子		1.0	1.3	0.4	1.1	構成No.14。
第149図	M84	15	遺構外	流動滓	含鉄		2.0	3.6	1.7	12.8	構成No.13。
第151図	M85	15	第2次造成土	銅製品	銭	2.3			0.1	1.7	寛永通寶。一部欠損。
第151図	M86	15	第2次造成土	銅製品	銭	2.5			0.1	25.2	元豊通寶。錆により10枚が貼り付く。
第153図	M87	15	第2次造成土以前	銅製品	銭	2.5			0.1		景祐元寶か嘉祐元寶。
第157図	M88	15	掘立柱建物12	腕形鍛冶滓	小		3.4	2.2	1.7	17.4	構成No.36。
第158図	M89	15	柵列6	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		3.0	1.7	1.5	5.9	構成No.32。
第158図	M90	15	柵列6	鉄製品(鍛造品)	釘		4.5	1.1	0.9	5.1	構成No.33。
第160図	M91	15	掘立柱建物13	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		1.5	0.7	0.6	0.5	構成No.16。
第160図	M92	15	掘立柱建物13	鉄製品(鍛造品)	釘又は鉄鎌		2.6	0.6	0.5	1.5	構成No.41。
第160図	M93	15	掘立柱建物13	鉄製品(鍛造品)	釘		2.5	1.0	0.8	2.9	構成No.42。
第160図	M94	15	掘立柱建物13	鉄製品(鍛造品)	釘?		3.1	1.4	1.1	4.9	構成No.43。
第160図	M95	15	掘立柱建物13	腕形鍛冶滓	極小		2.7	2.4	2.1	15.2	構成No.39。
第160図	M96	15	掘立柱建物13	腕形鍛冶滓	極小		2.8	2.2	2.3	20.0	構成No.40。
第161図	M97	15	掘立柱建物14	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		2.6	0.6	0.7	0.8	構成No.18。
第161図	M98	15	掘立柱建物14	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		2.3	1.0	1.0	1.4	構成No.17。
第161図	M99	15	掘立柱建物14	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		4.3	1.9	1.7	13.0	
第161図	M100	15	掘立柱建物14	鉄製品(鍛造品)	刀子?		1.6	0.8	0.5	0.8	構成No.20。
第162図	M101	15	掘立柱建物15	鉄製品(鍛造品)	釘		6.6	1.5	1.5	10.1	構成No.44。
第164図	M102	15	柱穴56	鍛冶滓	含鉄		1.7	2.5	1.1	6.4	構成No.15。
第164図	M103	15	柱穴56	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		2.5	1.4	1.2	4.0	構成No.19。
第164図	M104	15	柱穴56	鉄製品(鍛造品)	刀子		2.2	0.8	0.3	3.0	構成No.21。
第165図	M105	15	柱穴57	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		3.2	1.2	1.0	4.7	構成No.38。
第165図	M106	15	柱穴57	腕形鍛冶滓	極小		3.0	1.5	1.7	8.5	構成No.37。
第166図	M107	15	土坑65	銅製品	煙管吸口		4.3	1.1	1.1		砲弾形。表面に円形浮文。裏面で閉じ合わせる。
第168図	M108	15	土坑67	鉄製品(鍛造品)	円盤状不明品		3.0	2.7	0.7	4.4	構成No.24。
第168図	M109	15	土坑67	鉄製品(鍛造品)	鍋(口縁部)		2.2	2.9	1.3	7.1	構成No.25。
第168図	M110	15	土坑67	鉄製品(鍛造品)	鍋(体部)		2.3	3.6	1.6	11.8	構成No.26。
第168図	M111	15	土坑67	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		1.6	0.6	0.6	0.9	構成No.22。
第168図	M112	15	土坑67	鉄製品(鍛造品)	鎌?		5.9	1.2	0.9	8.5	構成No.23。
第169図	M113	15	P491	鍛冶滓			2.5	1.9	1.9	7.2	構成No.35。
第173図	M114	15	遺構外	銅製品	銭	2.6			0.1	3.0	嘉 通宝。背面には記号が付く。
第173図	M115	15	遺構外	銅製品	銭	2.5			0.1		寛永通宝。背上に「文」。
第173図	M116	15	遺構外	銅製品	銭	2.4			0.1	2.8	寛永通宝。
第177図	M117	16	遺構外	銅製品	耳環		2.4		0.5	4.6	
第184図	M118	16	溝8	腕形鍛冶滓	極小		5.5	4.6	3.8	89.0	構成No.110。
第184図	M119	16	溝8	鍛冶滓			3.9	3.0	2.6	19.0	構成No.112。
第184図	M120	16	溝8	腕形鍛冶滓	極小・含鉄		5.1	3.5	3.3	44.6	構成No.111。
第184図	M121	16	溝8	流動滓			4.0	3.4	2.7	45.2	構成No.113。
第185図	M122	16	溝9	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		2.7	1.3	1.0	2.6	構成No.119。
第185図	M123	16	溝9	腕形鍛冶滓	極小		3.8	2.5	1.7	18.0	構成No.116。
第185図	M124	16	溝9	腕形鍛冶滓	極小・含鉄		4.0	4.5	2.7	50.5	構成No.117。
第185図	M125	16	溝9	粘土質溶解物			3.1	3.4	1.7	10.8	構成No.118。
第186図	M126	16	溝8・9	鉄製品(鍛造品)	釘		7.1	1.3	1.2	8.6	構成No.115。
第186図	M127	16	溝8・9	腕形鍛冶滓	極小		3.2	2.9	1.6	17.8	構成No.114。
第188図	M128	16	土坑69	鉄製品(鍛造品)	釘?		2.1	0.7	0.5	1.1	構成No.120。
第189図	M129	16	溝19	鉄塊系遺物	含鉄		5.0	2.6	2.1	35.0	構成No.109。
第190図	M130	16	落ち込み1	鍛冶滓			2.6	2.2	1.9	14.2	構成No.121。
第190図	M131	16	落ち込み1	鉄製品(鍛造品)	刀子?		3.3	1.4	0.6	3.6	構成No.126。
第190図	M132	16	落ち込み1	鉄製品(鍛造品)	鍋(体部)		3.5	5.3	0.3	12.6	構成No.127。

表29 門前上屋敷遺跡金属器観察表(3)

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	径(cm)	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	備考
第190図	M133	16	落ち込み1	鉄製品(鍛造品)	釘?		2.7	0.8	0.8	2.0	構成No.123。
第190図	M134	16	落ち込み1	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		3.1	1.2	0.9	3.5	構成No.124。
第190図	M135	16	落ち込み1	鉄製品(鍛造品)	釘?		2.0	1.5	1.0	4.1	構成No.122。
第190図	M136	16	落ち込み1	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		4.5	1.2	1.1	7.5	構成No.125。
第193図	M137	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	釘		3.2	1.0	0.9	3.3	構成No.132。
第193図	M138	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	環状鉄製品		5.1	3.0	1.0	16.3	構成No.133。
第193図	M139	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	鍋(口縁部)?		3.4	5.1	0.8	21.9	構成No.134。
第193図	M140	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	鍋(体部)		3.9	3.9	0.4	17.0	構成No.135。
第193図	M141	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	鍋(底部)		7.0	4.0	0.8	79.5	構成No.137。
第193図	M142	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	鍋(底部)		5.9	3.5	2.1	36.4	構成No.136。
第193図	M143	16	包含層 層	粘土質溶解物			3.8	4.9	2.2	22.0	構成No.131。
第193図	M144	16	包含層 層	椀形鍛冶滓	極小・含鉄		3.7	3.7	2.4	43.4	構成No.129。
第193図	M145	16	包含層 層	椀形鍛冶滓	中		3.7	6.0	3.2	101.0	構成No.128。
第193図	M146	16	包含層 層	鍛冶滓			2.6	2.2	1.4	9.1	構成No.130。
第193図	M147	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	鍋(体部)		3.1	4.7	0.4	17.2	構成No.140。
第193図	M148	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	板状不明品		6.5	2.3	1.3	20.2	
第193図	M149	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	釘?		4.0	1.4	1.3	13.6	構成No.138。
第193図	M150	16	包含層 層	鉄製品(鍛造品)	釘?		6.9	2.2	1.8	28.6	構成No.139。
第193図	M151	16	包含層 層	炉壁	溶解炉?含鉄		2.9	2.7	1.7	12.0	構成No.142。
第193図	M152	16	包含層 層	鍛冶滓	含鉄		2.4	1.6	1.3	8.5	構成No.141。
第208図	M153	17	掘立柱建物18	鉄製品(鍛造品)	馬具		16.2	1.8	1.2	85.2	構成No.9。
第209図	M154	17	土坑70	鉄製品(鍛造品)	棒状不明品		6.5	1.2	0.4	7.4	構成No.143。
第217図	M155	17	遺構外	銅製品	銭	2.2			0.1	2.0	洪武通宝。

表30 門前上屋敷遺跡土製品観察表

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	器種	最大長(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重さ(g)	手法・形態上の特徴	胎土	焼成	色調	備考
第33図	C 1	8	遺構外	土鍾	4.8	1.2		7.2	管状土鍾。中心に直径3mmの孔を有す。外面には黒斑がみられる。	密	良好	内外 にぶい黄橙色	
第33図	C 2	8	遺構外	土鍾	4.7	1.3		6.5	管状土鍾。中心に直径4mmの孔を有す。内面には黒斑がみられる。	密	良好	内外 にぶい橙色	
第33図	C 3	8	遺構外	土鍾	4.5	1.2		5.5	管状土鍾。中心に直径3mmの孔を有す。	密	良好	内外 淡黄色	
第33図	C 4	8	遺構外	土鍾	4.7	1.3		6.5	管状土鍾。中心に直径4mmの孔を有す。	密	良好	内外 明赤褐色	
第49図	C 5	9	遺構外	鍾	3.9	1.0		3.7	管状土鍾。中心に直径4mmの孔を有す。	密	良好	内外 明赤褐色	
第49図	C 6	9	遺構外	鍾	4.4	1.1		5.1	管状土鍾。中心に直径4mmの孔を有す。	密	良好	内外 明赤褐色	
第68図	C 7	12	竪穴住居5	紡錘車未成品	4.7	4.3	0.6	16.4	裏を割って整形する。外面には焼成後の穿孔が施されるが貫通しない。孔の径は5mmほど。外面にはヘラミガキ、内面にはヘラケズリが施される。	密、石英・長石雲母を含む	良好	内外 暗灰黄色	
第82図	C 8	12	遺構外	羽口	1.9	2.5	1.3	6.6	外面には厚く漆が付着する。	密、長石を含む	良好	内外 にぶい橙色	
第131図	C 9	14・15	水田1	羽口	5.3	5.4	3.9	83.0	構成No.64。	密	良好	内外 浅黄褐色	
第143図	C 10	14・15	包含層 層	羽口	4.4	3.3	1.2	14.2		密、長石・雲母を含む	良好	外 内 にぶい褐色 浅黄褐色	
第144図	C 11	14・15	包含層 層	羽口	4.3	3.3	2.2	24.8	構成No.92。	密	良好	外 内 橙色 灰白-にぶい黄褐色	
第147図	C 12	14・15	包含層 層	羽口	8.3	7.2	1.0	133.0	構成No.12。	密	良好	外 内 黒褐色 にぶい橙色	
第147図	C 13	14・15	包含層 層	羽口	7.8	5.6	3.2	93.0	外面は面取りしているのか断面形が多角形状を呈す。	密	良好	内外 浅黄褐色	

表31 門前上屋敷遺跡木製品観察表

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	材質	口径(cm)	器高(cm)	最大長(cm)	最大幅(cm)	手法・形態上の特徴	備考
第43図	W 1	9	溝21	漆器	椀		15.1	4.8			内外面に漆が塗布される。	
第184図	W 2	16	溝8	木製品	不明	キブシ			13.9	2.7	外面は刃物により削られる。	
第184図	W 3	16	溝8	木製品	不明	アカマツかくロマツ			8.5	2.8	外面には樹皮が残る。	

表32 門前上屋敷遺跡玉製品観察表

挿図	遺物番号	地区	遺構・層位名	種類	器種	材質	径(mm)	孔径(mm)	高さ(mm)	重さ(g)	手法・形態上の特徴	色調	備考
第36図	J 1	9	柱穴37	玉類	玉	ガラス	4.5	2.5	2.5	0.1以下	巻き付け。	青緑色	
第68図	J 2	12	竪穴住居5	玉類	玉	ガラス	7.0	3.0	5.0	0.3		青色	
第68図	J 3	12	竪穴住居5	玉類	玉	ガラス	3.0	1.0	2.5	0.1以下		青色	

第4章 門前鎮守山城跡の調査成果

第1節 遺跡の概要と基本層序

門前鎮守山城跡は、標高約36～52mの東西斜面部及び丘陵上に展開し、古代末から近世にかけて、特に中世を中心とした遺跡である。

丘陵頂部は目立った平坦面はなく、現状では緩やかな自然地形となる。調査区南側では、中世(16世紀以前)に土塁・堀切が築かれる。これらは、隣接する門前上屋敷遺跡に存在したと推定される屋敷もしくは寺院に伴う、一種の砦状の施設と考えられる。その他、西側傾斜変換点付近に盛土遺構2が作られている。また、正確な時期は不明であるが、製炭土坑1～4・5・7も検出されている。

西側斜面部では、段状遺構3・4が築かれている。いずれも、土塁下層及び盛土遺構2下層で検出され、出土遺物から14世紀ごろのものと考えられる。この他、段状遺構3埋土上層で、時期不明の製炭土坑12が検出されている。

東側斜面部では、11世紀ごろに段状遺構5・6が作られている。段状遺構6からは、鍛冶滓、鍛造薄片、粒状滓が出土しており平安時代末ごろに、この場所で小鍛冶が行われていたことを示すものである。隣接する門前上屋敷遺跡からも多量の鉄滓が出土しており、関連があるものと考えられる。

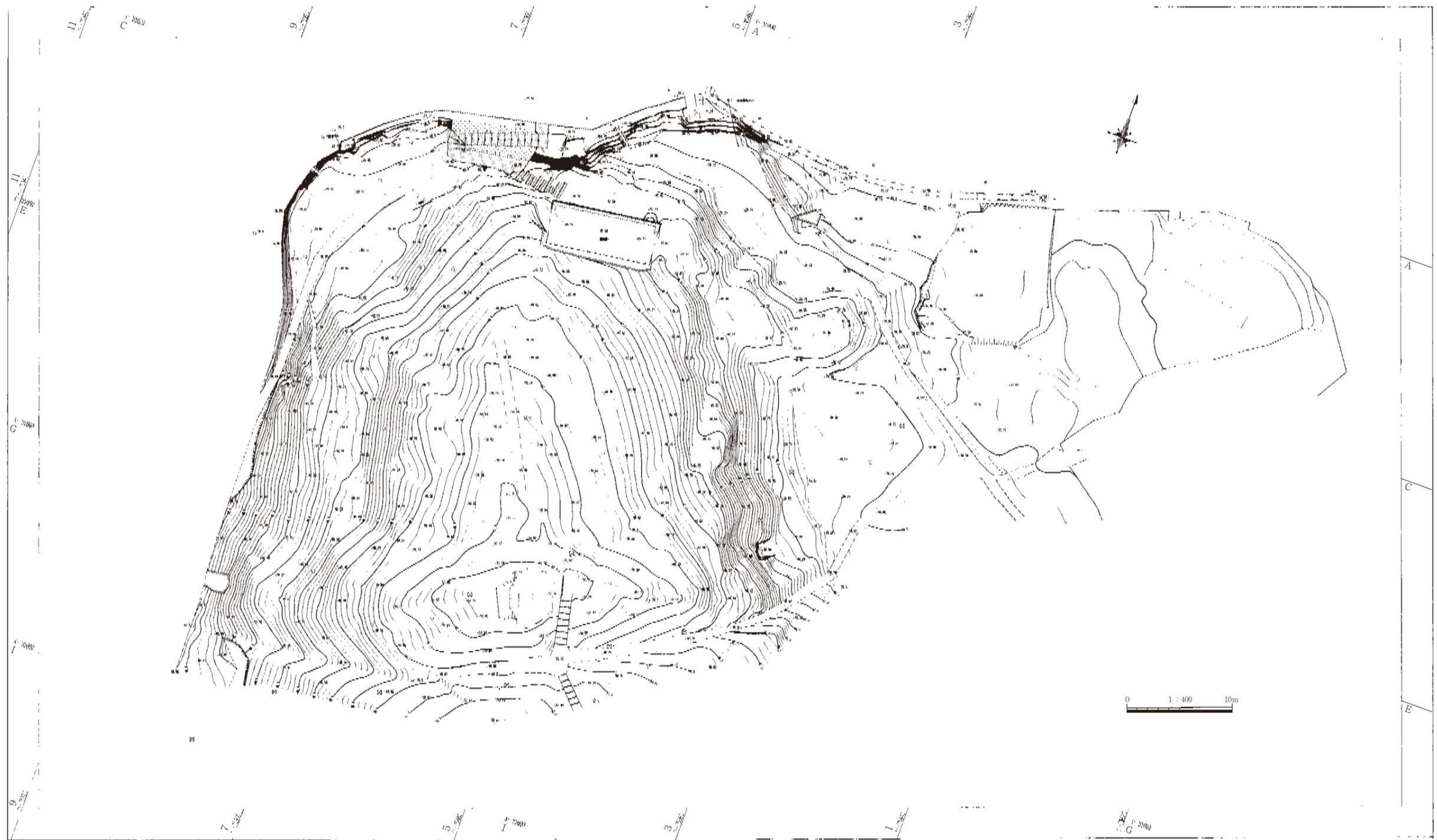
14世紀ごろには盛土遺構1が築かれているが、築造前に地鎮祭祀を行ったと考えられ、鉄鍋内に土師器坏を内包する土坑10が作られている。

15世紀ごろには地下式横穴と考えられる土坑15があり、寺院の存在を示す墨書土器が出土している。この土坑は、門前上屋敷遺跡に続く造成土上面に作られた施設に伴うものと考えられる。なお、この造成は15世紀ごろに行われたものと考えられる。造成土以前には、石組井戸、石敷き遺構、石蓋暗渠が作られており、門前上屋敷遺跡内にこの時期の屋敷跡が存在していたものと推察される。

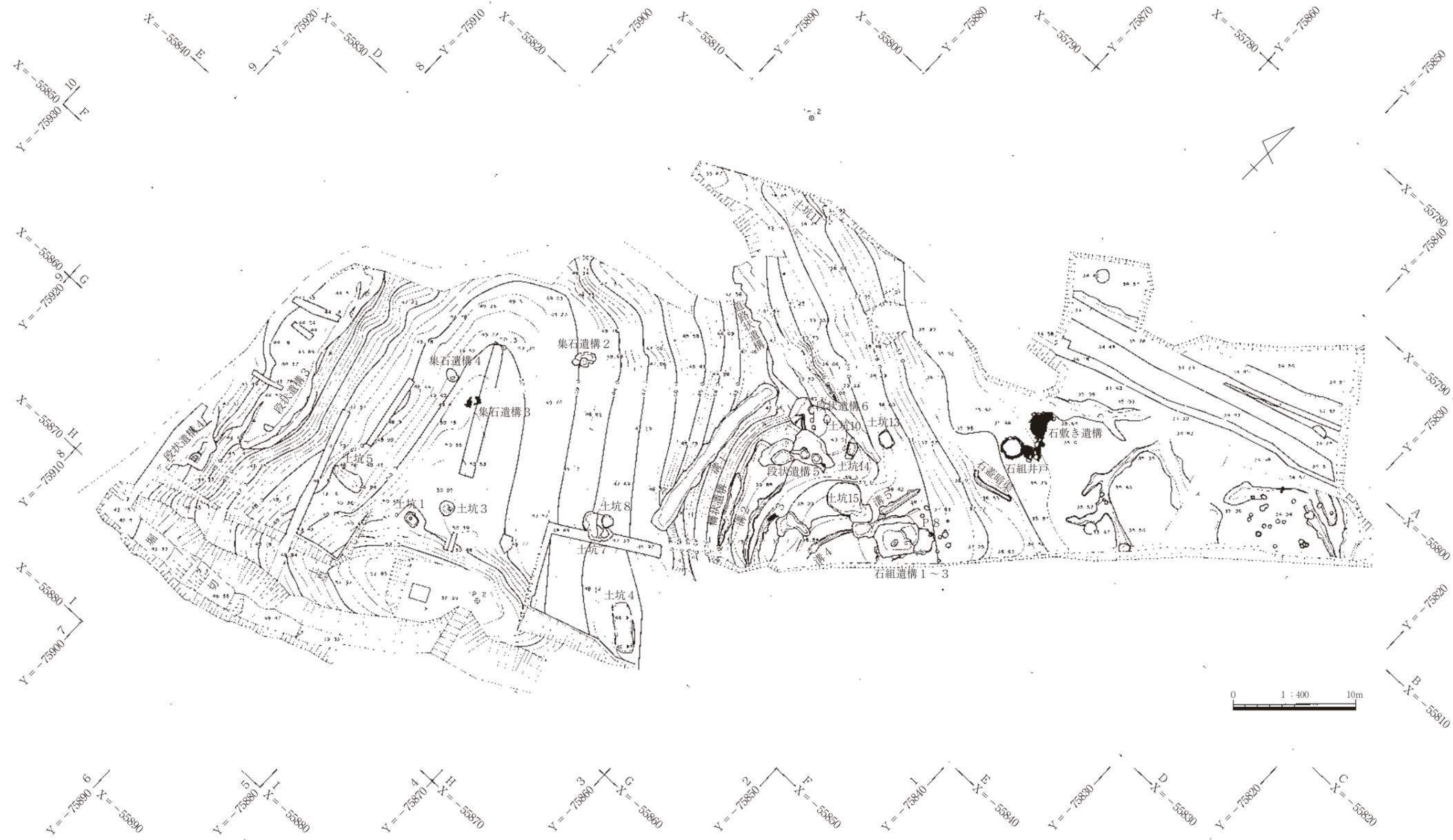
16世紀ごろには段状遺構1・2、溝1～5、石組遺構1～3が作られている。これらの遺構は、およそ丘陵頂部の土塁・堀切と同時期のものと考えられ、丘陵全体が砦様の施設であった可能性がある。

これらの遺構検出面は、丘陵上では表土下のローム層上である。斜面部及び東側平坦面は、ローム層又は御来屋砂礫層中である。また、当遺跡東側から門前上屋敷遺跡に続く造成土は、黄褐色土系の土砂を用いており、おそらくは、丘陵裾部を掘削したものを盛り上げているものと考えられる。

当遺跡東側には、門前上屋敷遺跡が隣接しており、特に15世紀以降は、一体となる遺跡として理解してよいであろう。(牧本)



第218図 門前鎮守山城跡調査前地形測量図



第219図 門前鎮守山城跡・門前上屋敷遺跡10・13・14区調査後地形測量図

第2節 丘陵頂部の調査

(1) 土塁・堀切(第221～227図、P.L.53～56・70)

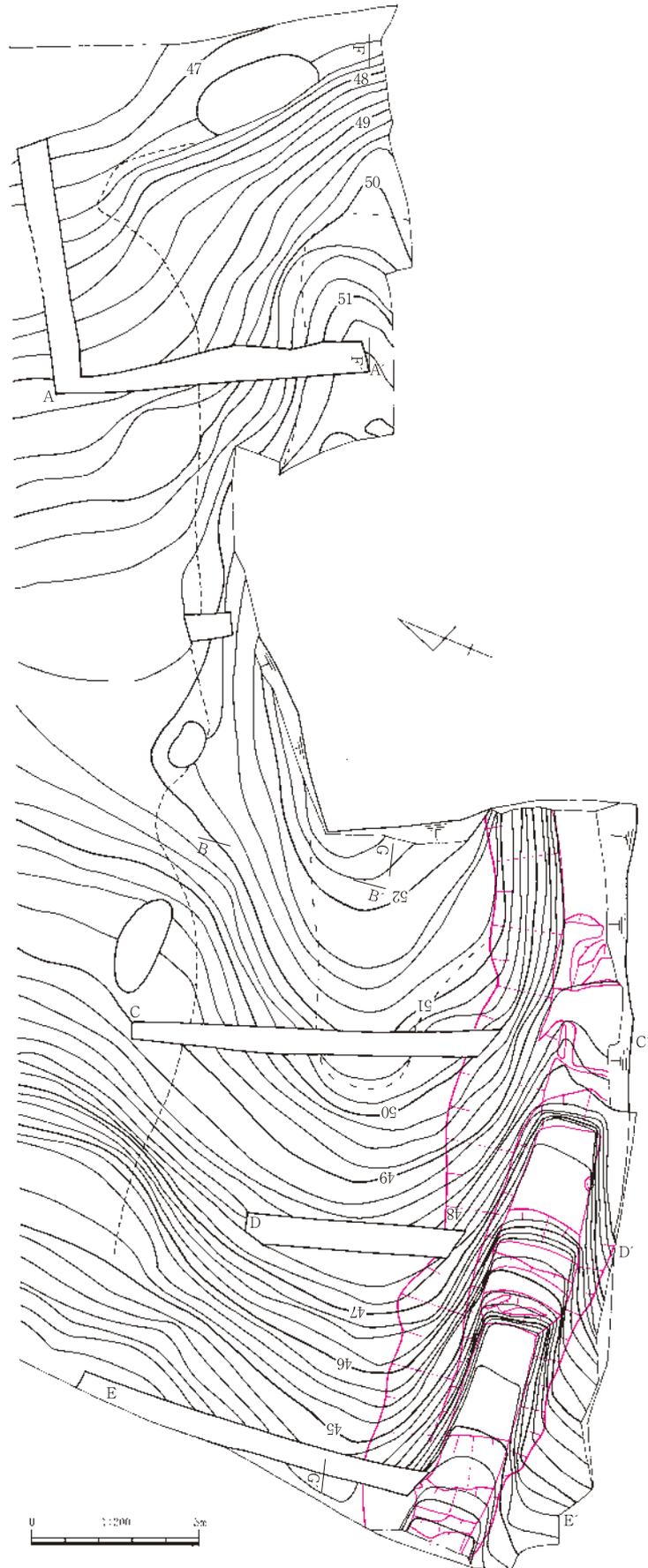
土塁・堀切とも調査区南側のF4・5、G5からG7グリッドにかけての標高44.0～52.5mの丘陵上から斜面部にかけて立地する。

土塁は、幅5～9m、高さ約1.5mを測り、丘陵先端部を横断するように長さ約44mに亘って築かれている。土塁頂部は、後世秋葉権現を祀る祠が築かれており、頂部が深さ50cm程度削平を受けている。丘陵裾部分の東西側は流失又は後世の掘削を受けており、遺存状態は良好とはいえない。

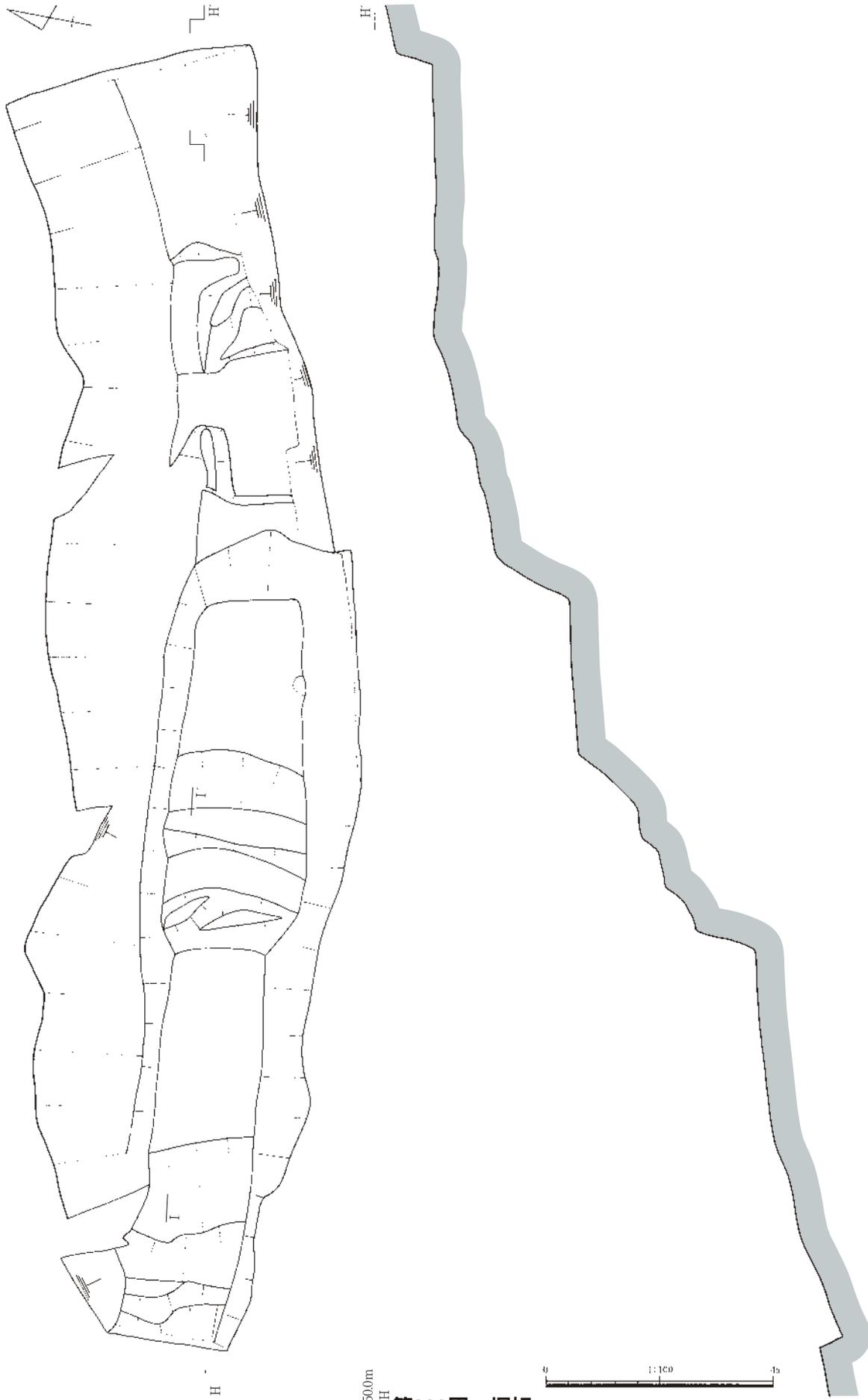
盛土は、堀切の掘削土をそのまま盛り上げたものと考えられ、丘陵頂部に近い側はローム層が主体となっているのに対し、丘陵裾部側は御来屋礫層由来の砂礫層が主体となっている。丁寧に盛り上げられた感はなく、北側に向かってゆるく傾斜している。また、縦断面を見ると、西側は頂部側から斜面に向かって順に盛り上げていった過程が読み取れるのに対し、東側は斜面部側から盛られた過程が読み取れる。土塁東端は、後世に再盛土したものと考えられ、暗灰褐色砂礫と暗黄褐色系砂礫が互層状に盛られ、他とは異なった盛土が施されている。

土塁に接して南側には堀切があり、両者は別々の遺構ではなく、一体とした遺構と判断される。

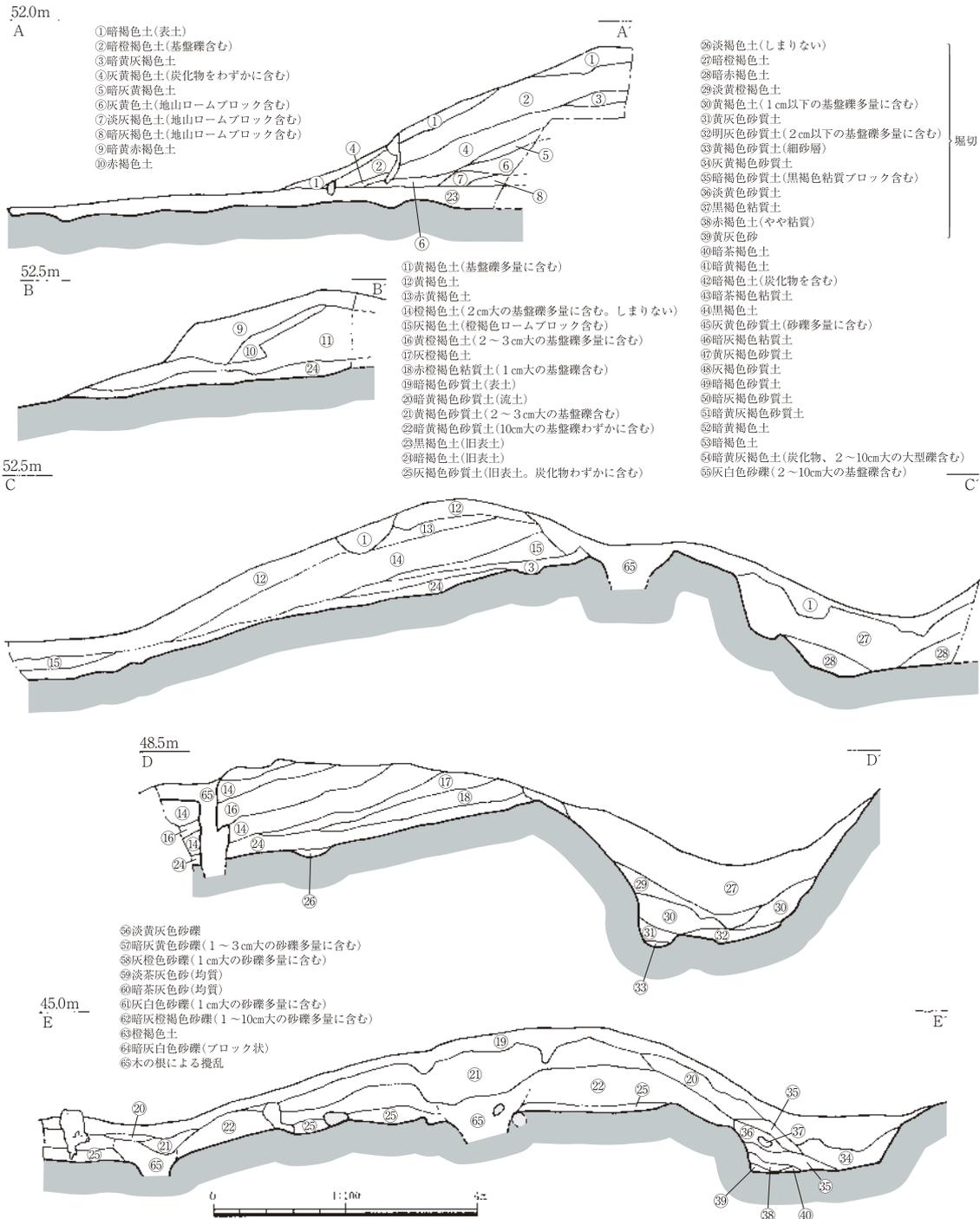
堀切は、地山を深さ1.0～2.2m掘削し、西側は概ね3段の平坦面を



第221図 土塁・堀切



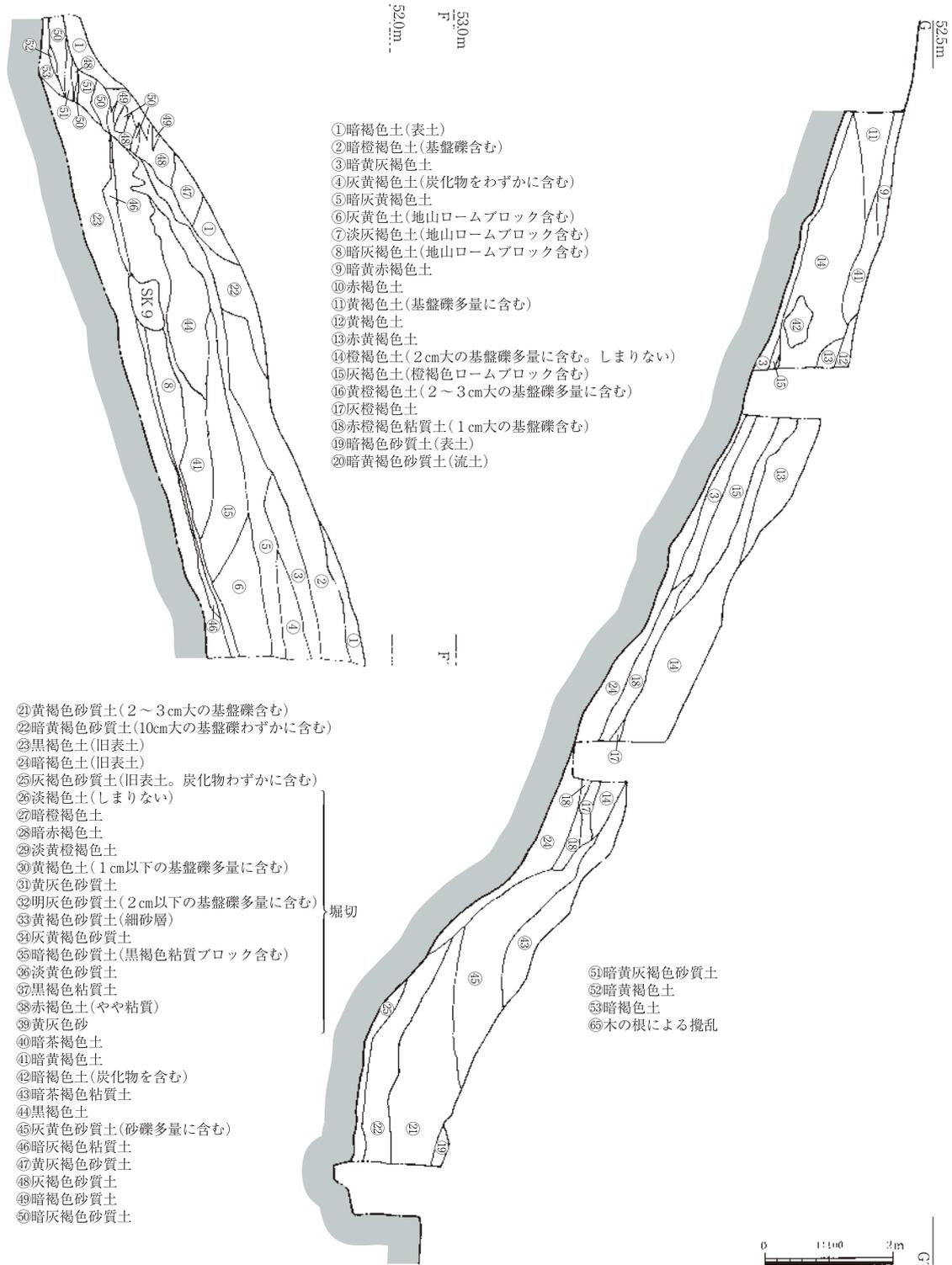
第222図 堀切



第223図 土塁・堀切土層横断面

もつ構造となっている。上面幅 3.9 ~ 5.5 m、底面幅 1.8 ~ 2.4 mを測る。長さ約 23 mを調査した。段の高さは、1.4 ~ 1.5 mを測る。

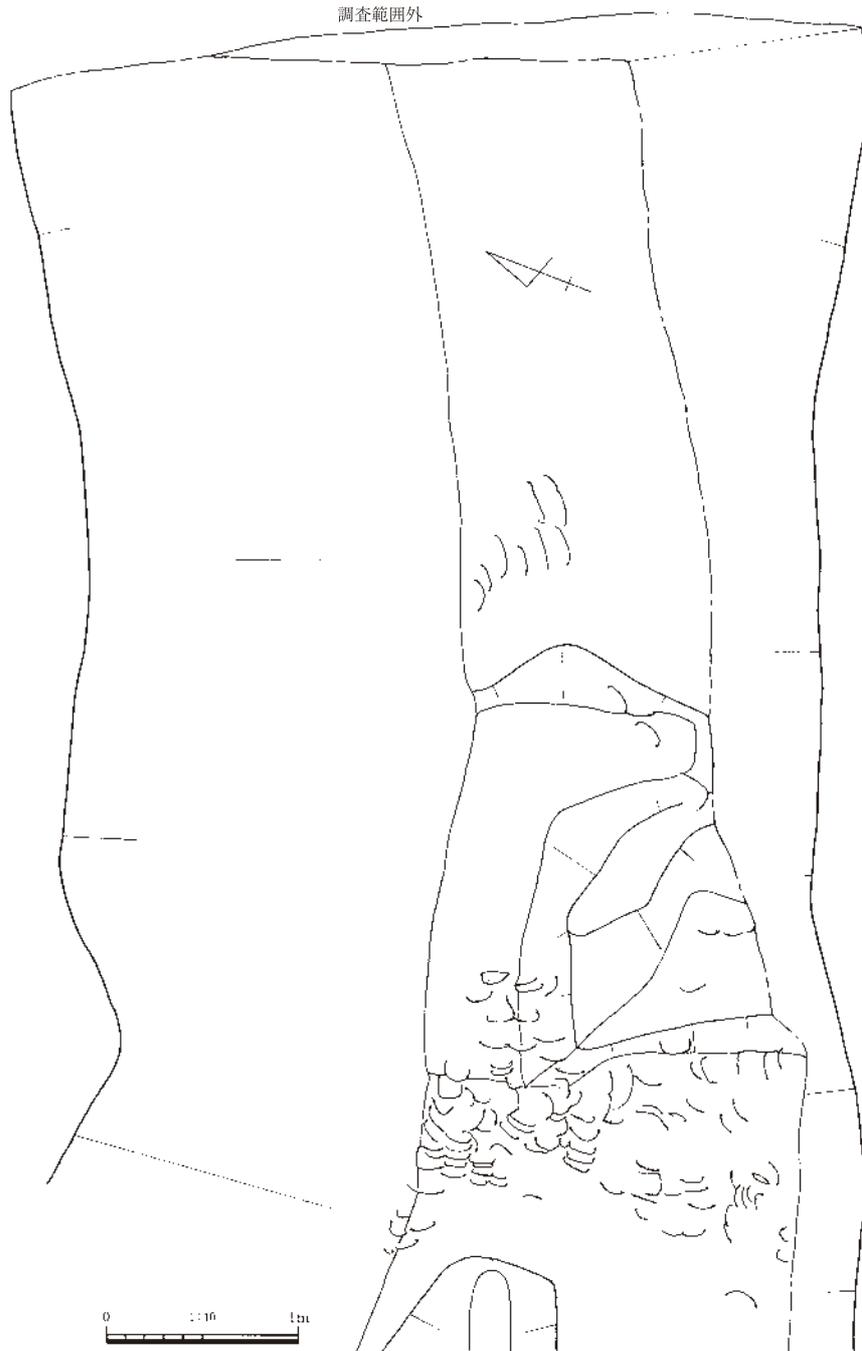
最下段底面は丁寧に仕上げがされている。最下段と中段の間は、途中荒い斜面部となり中段へと繋がる。中段部の底面は丁寧に仕上げられている。最上段は荒い加工のみで、仕上げられてはいない。底面には、幅 10 ~ 25cm前後、先端の形状が丸ないし方形の鋤又は鍬と考えられる工具痕が認められる。掘削は、堅固な御来屋礫層まで達しており、掘削にあたって鉄製刃を装着した道具が使用されたと推定される。また、刃部の形状が複数認められることから、複数の人間又は複数の工具が使用され



第224図 土層土層縦断面

たものと推察される。丘陵頂部側及び東側斜面部は、調査区外であったために調査が行えなかったが、現状でも堀切状の凹地が認められ、秋葉権現へ通ずる石段が敷設されている。東側斜面部においても同様の堀切が掘削されているものと考えられる。

堀切埋土は、自然堆積したものと考えられる皿状の堆積状況を示す。最下段は縦断面を見ると自然堆積の状況が窺われるが、一部埋土を掘り込んで、人為的な大型石材の投入が行われたものと判断できる。この石材は、堀切南側壁に接して盛り上がるように出土していることから、南側から投入され



第225図 堀切工具痕

平坦面は形成されていないこと、同時期には門前上屋敷遺跡地内で、屋敷又は寺院に伴うと推定される大規模な造成が丘陵東側裾部に存在することから、中世門前集落の一時的な避難場所としての砦の可能性が考えられよう。(牧本)

(2) 盛土遺構

盛土遺構 2 (第228図、P L.57)

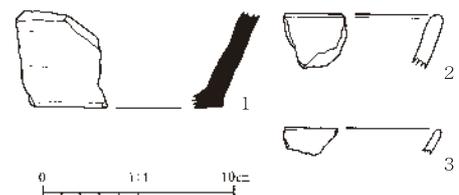
調査区西側、E 6 グリッドの標高 48.5 ~ 50 m の丘陵傾斜変換点付近に立地する。調査前から凸状の平坦面が認められ

たものと推察される。

出土遺物はほとんどなく、土壘盛土中で中世ごろと考えられる須恵器壺片 1、堀切埋土中での土師器坏片 2・3 を図化した。

土壘・堀切とも明確な築造時期は不明であるが、土壘盛土除去後に検出された段状遺構 4 から 14 世紀ごろの遺物が出土しており、それ以後の築造となる。また、堀切最下段大型石材下で検出された炭化物の ^{14}C 年代測定を行ったところ、 $650 \pm 40\text{BP}$. という測定値が示され、およそ 16 世紀代と推定された。この大型石材投入は、堀切廃絶後に行われたものと考えられることから、土壘・堀切の造営期間は、長くても 1 世紀程度のもので考えられ、比較的短期間であったものと考えられる。

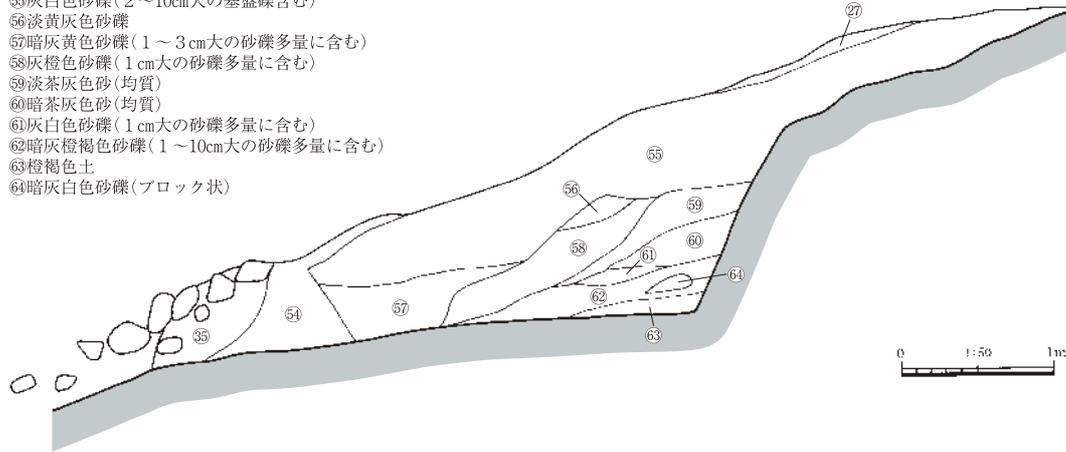
堀切・土壘で区画された丘陵部は狭く、明瞭な



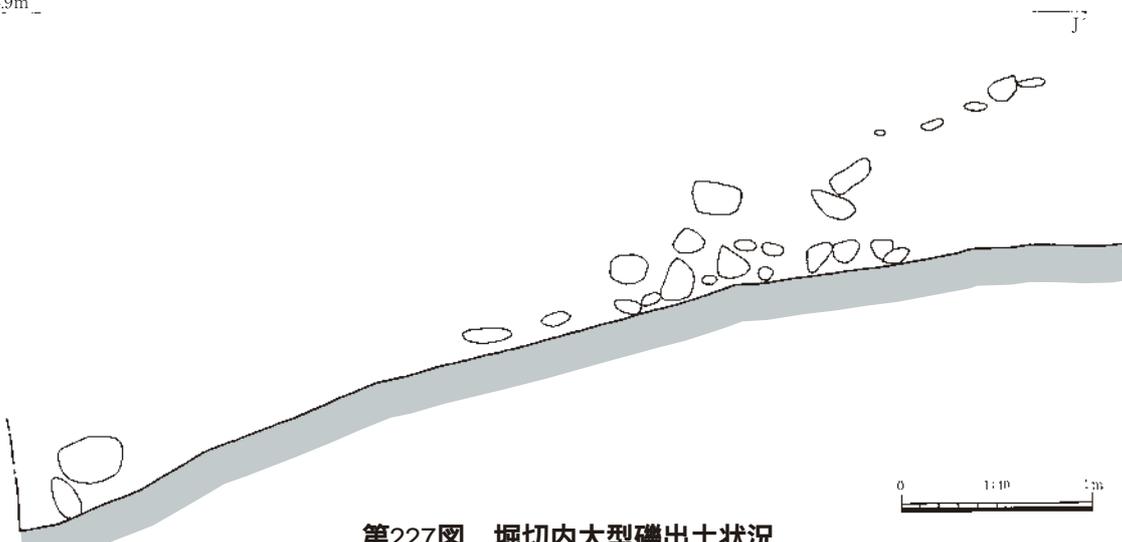
第226図 土壘・堀切出土遺物

46.0m
I

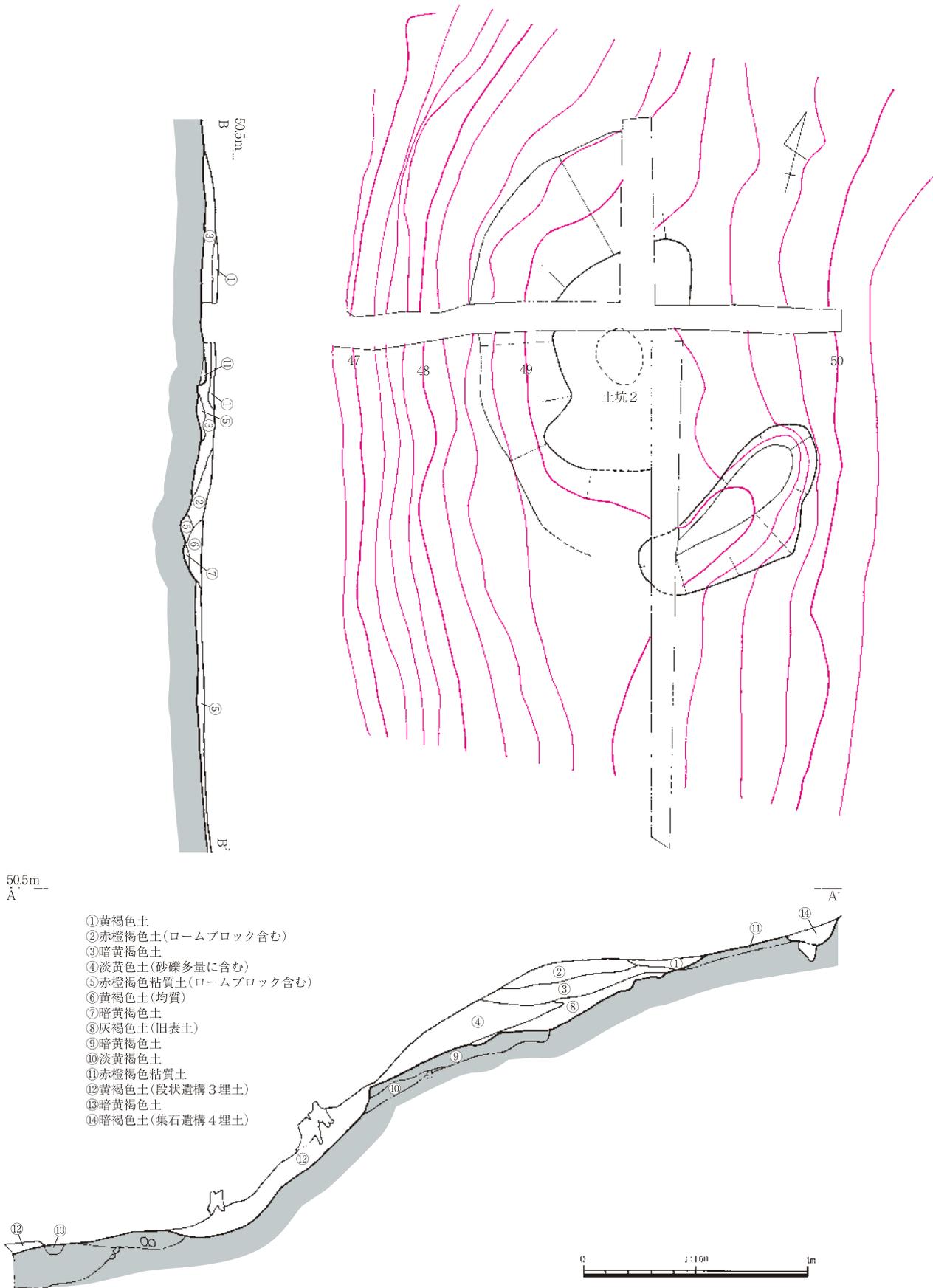
- ㉔暗黄灰褐色土(炭化物、2~10cm大の大型礫含む)
- ㉕灰白色砂礫(2~10cm大の基盤礫含む)
- ㉖淡黄灰色砂礫
- ㉗暗灰黄色砂礫(1~3cm大の砂礫多量に含む)
- ㉘灰橙色砂礫(1cm大の砂礫多量に含む)
- ㉙淡茶灰色砂(均質)
- ㉚暗茶灰色砂(均質)
- ㉛灰白色砂礫(1cm大の砂礫多量に含む)
- ㉜暗灰橙褐色砂礫(1~10cm大の砂礫多量に含む)
- ㉝橙褐色土
- ㉞暗灰白色砂礫(ブロック状)



44.9m
J



第227図 堀切内大型礫出土状況



第228図 盛土遺構2

た場所である。

南北 6.7 m、東西 5.5m の範囲で半円状に盛土が認められた。盛土は、4 層認められ、斜面側を厚く盛って平坦部分を作り出している。盛土範囲内には、後世の製炭土坑である土坑 4 が掘り込まれているが、それ以外には伴う遺構は見られない。

南東側には部分的に溝が掘り込まれていた。溝埋土中から、拳大の円礫が出土している。

出土遺物には、盛土中で土師器片、弥生土器片が出土しているが、図化できなかった。いずれも遺構に伴うものではないと判断される。

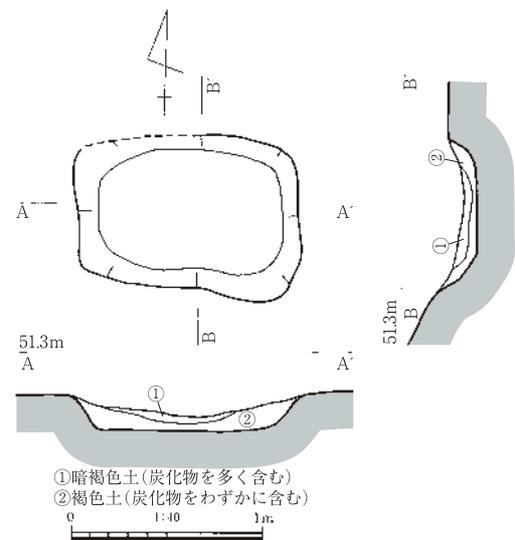
伴う遺物が出土していないため、時期、性格は不明である。(牧本)

(3) 土坑

土坑 1 (第229図、P L.58)

丘陵頂部の F 5 グリッド南西側にあり、標高 51.1 m の高さで確認した。平面形は東西に若干長い隅丸方形である。規模は東西 1.30 m、南北 0.82 m、深さは検出面より 20cm を測る。埋土は上層に暗褐色土、下層に褐色土が堆積し、いずれの層にも 3 ~ 5 mm ほどの炭化物が含まれる。出土遺物はない。

本遺構は南側で、15 ~ 16 世紀代と考えられる土塁の裾部を部分的に掘り込むことから、それ以降のものである。性格は、埋土に炭化物が含まれることから、製炭土坑の可能性がある。(野口)



第229図 土坑 1

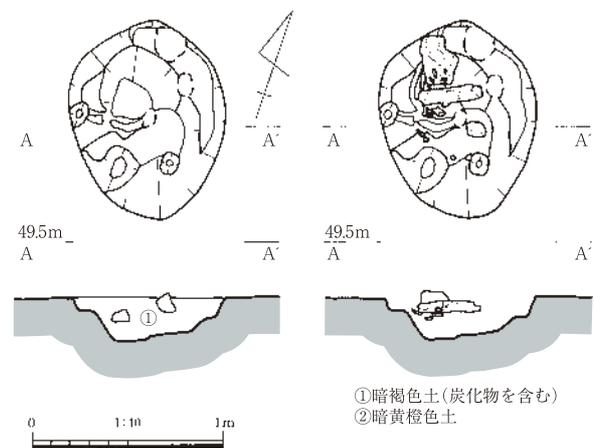
土坑 2 (第230図、P L.58)

調査区中央西側、E 6 グリッドにあり、盛土遺構 2 の盛土中で検出された。標高は 48.5 m 前後である。

平面不整形楕円形を呈し、長軸 1.0 m、短軸 0.8 m、深さ 0.2 m を測る。断面は不整な皿状を呈し、底面は凹凸が著しく、一部被熱し赤化している。埋土中で、炭化材が出土している。

埋土は炭化物を含む単層で、2 層がブロック状に入る。

出土遺物はなく、正確な時期は不明であるが、周辺の製炭土坑と同様のものと考えられる。(牧本)



第230図 土坑 2

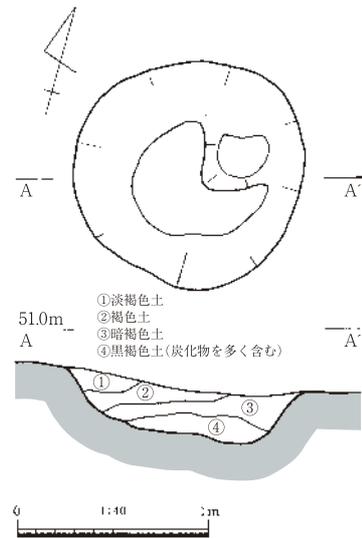
土坑 3 (第231図、P L.58)

丘陵頂部の F 5 グリッド北東側にあり、標高 50.8 m の高さで確認された平面形円形の土坑で

ある。

規模は東西、南北とも 1.20 m、深さは検出面より 40cm を測る。埋土は下層より黒褐色土、暗褐色土、褐色土、淡褐色土の順に堆積し、下層の黒褐色土中には非常に細かな炭化物が多く含まれる。

出土遺物は認められなかった。本遺構の時期、性格は明らかでないが、本遺構の下層埋土に炭化物が含まれることなどから、周辺で確認される製炭土坑と関連するものと思われる。(野口)



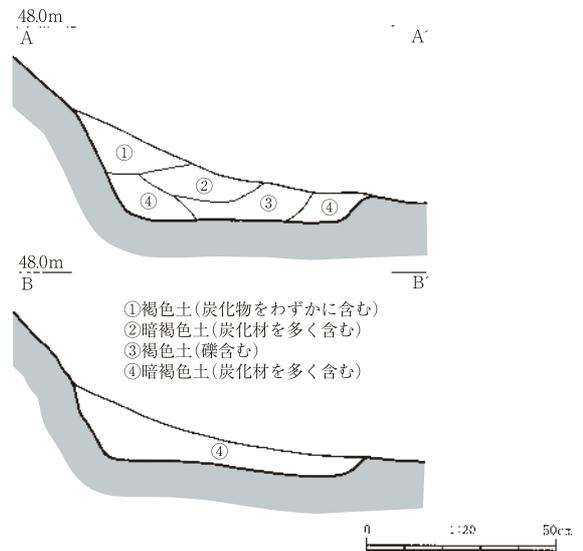
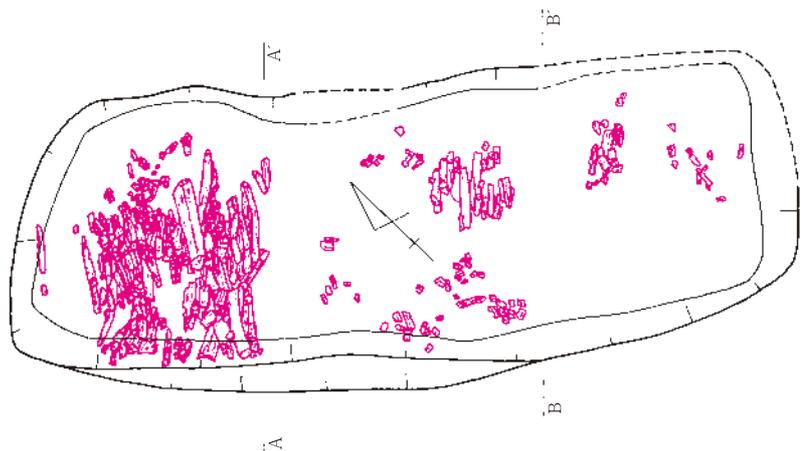
第231図 土坑3

土坑4 (第232図、P L.58)

丘陵頂部東側斜面のE3グリッド南西隅からF3グリッド北西隅にかけてあり、標高 47.6 m の高さで確認した。平面隅丸長方形の土坑である。

規模は長軸 4.10 m、短軸 1.60 m、深さは検出面より約 60cm を測る。本遺構は埋土中より多量の炭化材が認められたことから、製炭土坑であったと考えられる。特に遺構北西側では、製炭後取り漏れた太さ 4 ~ 10cm ほどの丸材の炭が、幅約 90cm ほどの範囲で並べられた状況で認められた。

本遺構の時期であるが、本遺構からは土器等の年代を推察する出土遺物は認められなかったが、遺構西側で 15 ~ 16 世紀代と考えられる土塁の裾部を部分的に掘り込んでいることから、それ以降のものである。(野口)



第232図 土坑4

土坑5 (第233図、P L.58)

丘陵西斜面のF6グリッド南東側にあり、標高 49.4 m の高さで確認した。東西方向に延びた楕円形の土坑である。

規模は東西 2.90 m、南北 1.20 m、深さは検出面より約 60cm を測る。土坑4同様、遺構西側の埋土中に多くの炭化材が残存していたことから、製炭土坑と考えられる。時期及び性格につ

いては、周辺で確認される製炭土坑と同時期で同様の性格の可能性が有る。(野口)

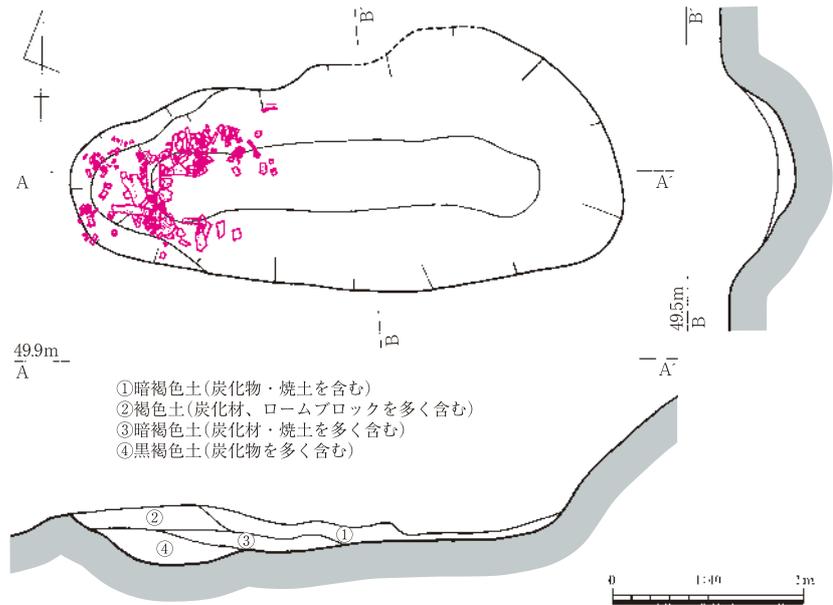
土坑7・8(第234～236図、P.L.59・70)

丘陵東斜面のE4グリッド中央にあり、標高47.7～48.1mの高さで確認した。

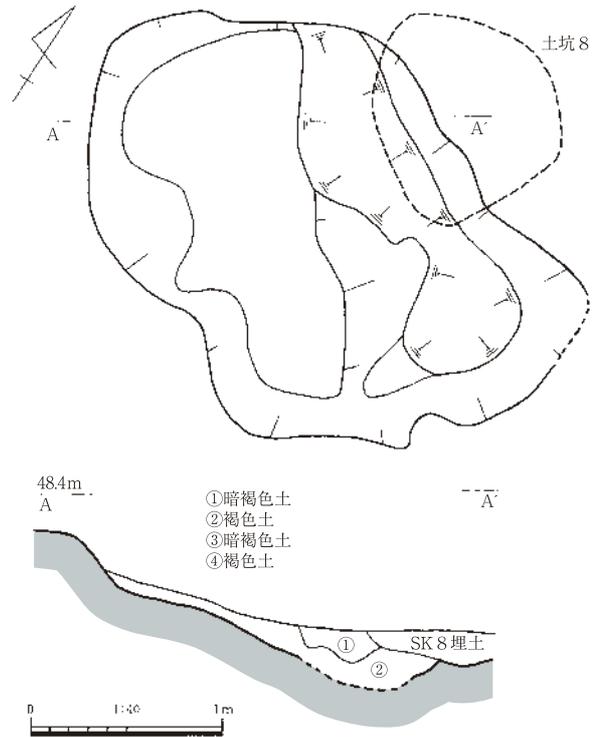
土坑7は、平面形不整のやや東西に長い土坑で、北東側を土坑8及び根による攪乱を受ける。規模は長軸2.88m、短軸1.70m、深さは検出面より約90cmを測る。性格は、不明である。

時期は、土坑8に切られており土坑8以前であるが、詳細は不明である。出土遺物には縄文土器4、弥生前期の甕口縁部5があるが、伴うものとはいえない。

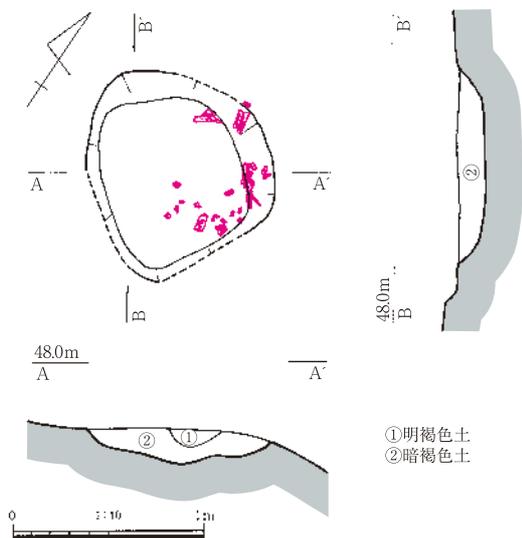
土坑8は歪な円形を呈する土坑で、土坑7を掘り込んでいる。規模は長軸1.06m、短軸1.00m、深さは検出面より約20cmを測る。本遺構も近在する土坑4と同様、埋土中に炭化材が残存していたことから、製炭土坑であったと考えられる。時期の詳細は不明であるが、周辺で確認される製炭土坑と同時期と思われる。(野口)



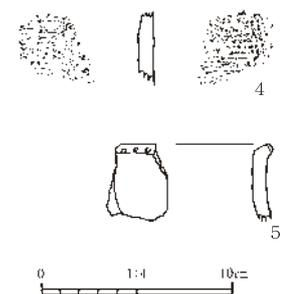
第233図 土坑5



第234図 土坑7



第236図 土坑8



第235図 土坑7出土遺物

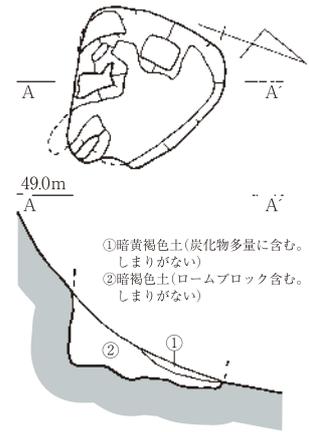
土坑9 (第237図、P L.59)

調査区中央南東側、F 3グリッドにあり、東側土壘盛土中で検出された。標高は48.5 m前後である。

平面不整形を呈し、長軸0.8 m、短軸0.7 m、深さ0.4 m以上を測る。一部オーバーハングしている。底面はほぼ平坦である。

埋土は2層に分層でき、いずれも炭化物を含む。

出土遺物はなく、時期、性格とも不明であるが、土壘盛土中又は盛土後に掘り込まれたものと考えられる。(牧本)



第237図 土坑9

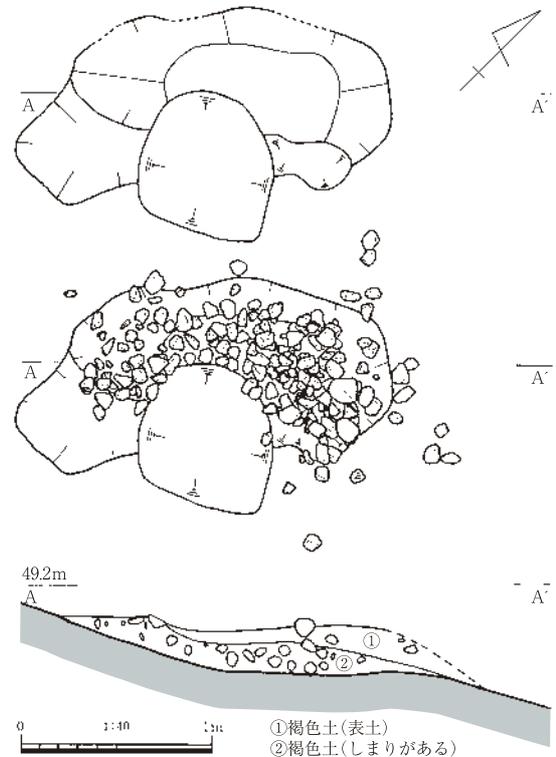
(4) 集石遺構

集石遺構2 (第238・239図、P L.59)

丘陵頂部北側のD 5グリッド中央、標高49.0 mの高さで検出した。

周辺には切り株、現代の攪乱が存在したことから、集石上部は部分的に散在する状況であったが、160 × 50cmの範囲に集中して認められる。また集石は、長軸2.0 m、短軸0.9cm、深さ20cmあまりの掘り込みを作った後に行われている。

出土遺物には、陶器皿6があるが、伴うものではない。本遺構の性格、時期は不明である。(野口)



第238図 集石遺構2

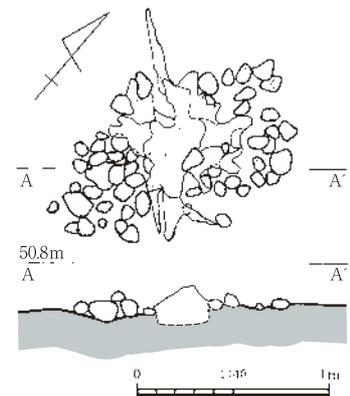
集石遺構3 (第240図、P L.59)

調査区西側、E 5グリッドの標高約50.6 mの丘陵頂部に立地する。

拳大から人頭大の山石が、遺存状態は悪いが長軸1.35 m、短軸0.7 mの範囲に並べられている。復元すると、長形状に並ぶ可能性がある。また、一部転落したものもあるが、重なった状況が認められ、本来は数段に亘って積まれたものと考えられる。中央部に木根があり石材下部の調査はできなかったが、調査可能な範囲では、土坑などの付属遺構は認められなかった。

遺物はなく時期、性格は不明である。

(牧本)

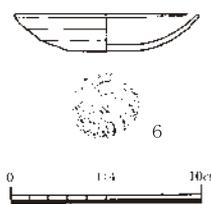


第240図 集石遺構3

集石遺構4 (第241図、P L.59)

調査区西北側、E 6グリッドの標高45.1 ~ 50 mの丘陵傾斜変換点付近に立地する。

西側約1 mには、盛土遺構2がある。



第239図 集石遺構2出土遺物